

# 練馬区民の地震防災に関する意識調査 報 告 書

平成24年（2012年）3月

練 馬 区



# 目 次

<b>第 1 章 調査の概要</b> .....	1
1 調査実施の目的 .....	1
2 調査方法と回収状況 .....	1
3 標本誤差 .....	1
4 調査項目 .....	2
5 地区区分 .....	3
6 調査結果を見る上での注意事項 .....	4
<b>第 2 章 調査結果の詳細</b> .....	5
1 回答者の属性について .....	5
2 大地震への不安について .....	7
3 住宅の地震対策について .....	12
4 日ごろの防災対策について .....	25
5 家具・家電などの固定について .....	33
6 窓ガラスやブロック塀などの対策について .....	37
7 地域との関わり合いや地域協力について .....	44
8 大地震が起きたときの行動について .....	53
9 中高層住宅の対策について .....	80
10 区の施策について .....	86
11 自由意見 .....	98
<b>参考資料 1 集計表</b> .....	105
<b>参考資料 2 調査票</b> .....	127



# 第1章 調査の概要



## 1 調査実施の目的

本調査は、練馬区が今後の防災施策の立案や区民の防災活動に対する支援、防災における自助・共助・公助の連携に役立てることを目的として、区民を対象に地震防災に関する意識について、アンケート調査を実施したものである。

## 2 調査方法と回収状況

調査名：練馬区民の地震防災に関する意識調査

調査対象：練馬区内に居住する満20歳以上の男女個人 1,500人

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：平成24年1月18日（水）～2月5日（日）

<回収状況>

標本数 (A)	回収数 (B)		有効回収数 (B - C)	回収率 (B/A)	有効回収率 (B - C) / A
		無効数 (C)			
1,500	573	0	573	38.2%	38.2%

## 3 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団（区民）から一部を抽出し、その標本（サンプル）での集計結果から母集団での比率等を推測する、いわゆる「標本調査」である。そのため、集計結果には母集団に対する標本誤差が生じることがある。標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数〔回収数〕(n)、②回答比率(p)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差 (\%)} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}} \quad \left( \begin{array}{l} N=\text{母集団数} \\ n=\text{比率算出の基数〔回収数〕} \\ p=\text{回答比率 (\%)} \end{array} \right)$$

今回の調査結果において回答比率(p)が50%のとき、標準誤差は次表のとおりである。なお、標本誤差は回答比率(p)50%の場合が最大となる。

※信頼度95%

	平成24年1月1日 住民基本台帳	有効回収数	標本誤差 (%) 回答比率50%のとき
20歳以上の区民	575,792	573	±4.09

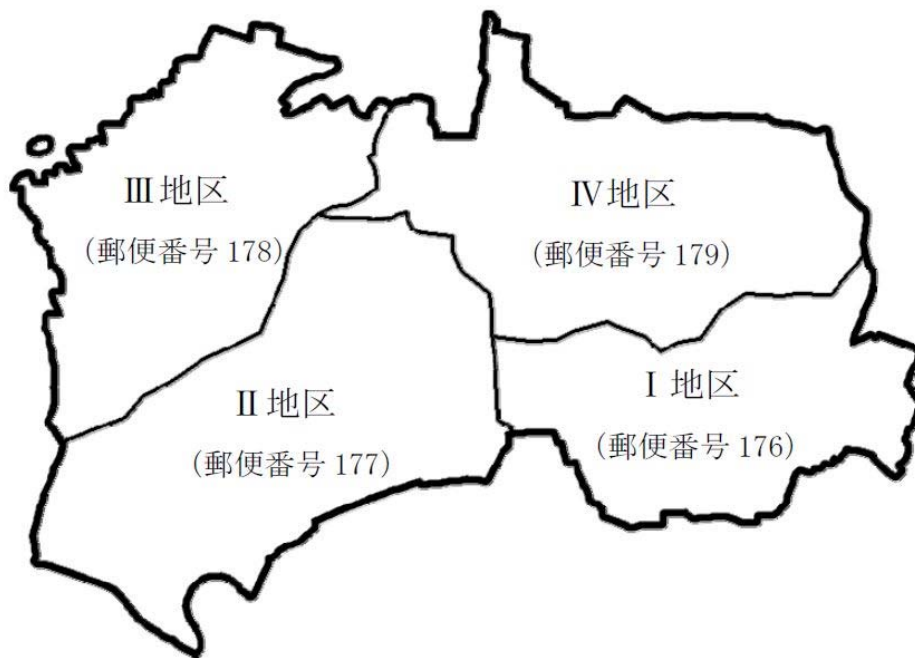
参考：例えば、設問中のある選択肢の回答比率が50%のとき、その標本誤差は±4.09%となり、母集団の比率は45.91%～54.09%の間に95%の確率で存在する。

## 4 調査項目

- (1) 大地震への不安について
- (2) 住宅の地震対策について
- (3) 日ごろの防災対策について
- (4) 家具・家電などの固定について
- (5) 窓ガラスやブロック塀などの対策について
- (6) 地域との関わり合いや地域協力について
- (7) 大地震が起きたときの行動について
- (8) 中高層住宅の対策について
- (9) 区の施策について
- (10) 回答者の属性について



## 5 地区区分



大区分	町丁名
I 地区 〒 176	旭丘1・2丁目、小竹町1・2丁目、栄町、羽沢1～3丁目、豊玉上1・2丁目、豊玉中1～4丁目、豊玉南1～3丁目、豊玉北1～6丁目、中村1～3丁目、中村南1～3丁目、中村北1～4丁目、桜台1～6丁目、練馬1～4丁目、向山1～4丁目、貫井1～5丁目
II 地区 〒 177	富士見台1～4丁目、南田中1～5丁目、高野台1～5丁目、谷原1～6丁目、三原台1～3丁目、石神井町1～8丁目、石神井台1～8丁目、上石神井1～4丁目、上石神井南町、下石神井1～6丁目、立野町、関町東1・2丁目、関町南1～4丁目、関町北1～5丁目
III 地区 〒 178	東大泉1～7丁目、西大泉町、西大泉1～6丁目、南大泉1～6丁目、大泉町1～6丁目、大泉学園町1～9丁目
IV 地区 〒 179	錦1・2丁目、氷川台1～4丁目、平和台1～4丁目、早宮1～4丁目、春日町1～6丁目、高松1～6丁目、北町1～8丁目、田柄1～5丁目、光が丘1～7丁目、旭町1～3丁目、土支田1～4丁目

## 6 調査結果を見る上での注意事項

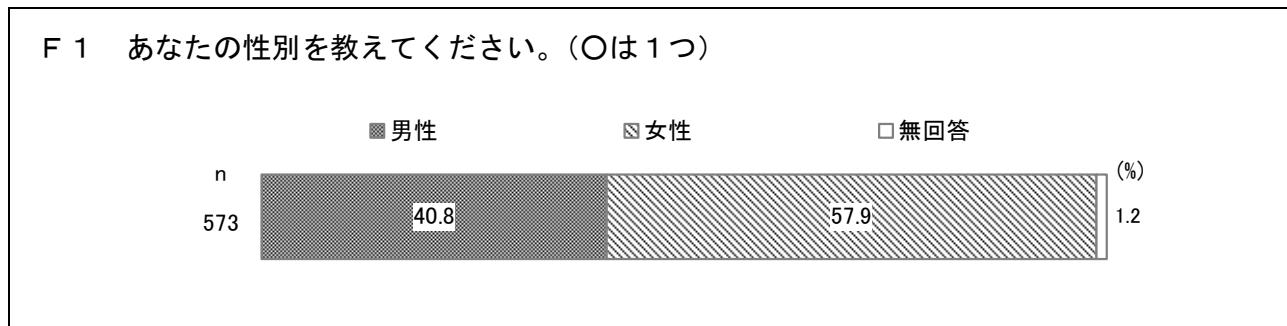
- (1) 図表中の「n」とは、その質問への回答者総数のことである。
- (2) 回答は、回答者総数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入している。このため、回答率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 図中の「M. T. (Multiple Totalの略)」は、複数回答における回答数の合計を回答者数(n)で割った比率。複数回答の質問では、「M. T.」が100%を超える場合がある。
- (4) 図表中、スペースの都合上、回答選択肢を短縮している場合がある。
- (5) フェイスシートの項目別や質問項目別に分析する場合、分析の都合に応じて、複数のカテゴリー(回答選択肢)を1つにまとめたり、あるカテゴリーを削除するなどの加工をしている場合がある。1つにまとめた場合に、それぞれの比率の合計と合わせた比率が異なる場合があるが、これは四捨五入による差異である。
- (6) 各設問の説明では、基数(n)が30に満たない項目は除いて比較している。
- (7) クロス集計の図表では、属性部分から無回答を除いているため、該当者の合計が総数とならない場合がある。

## 第2章 調査結果の詳細

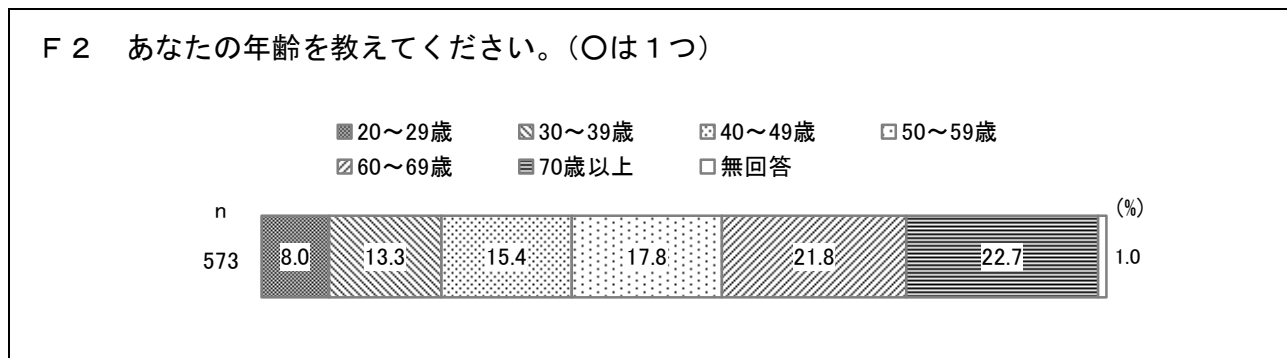


# 1 回答者の属性について

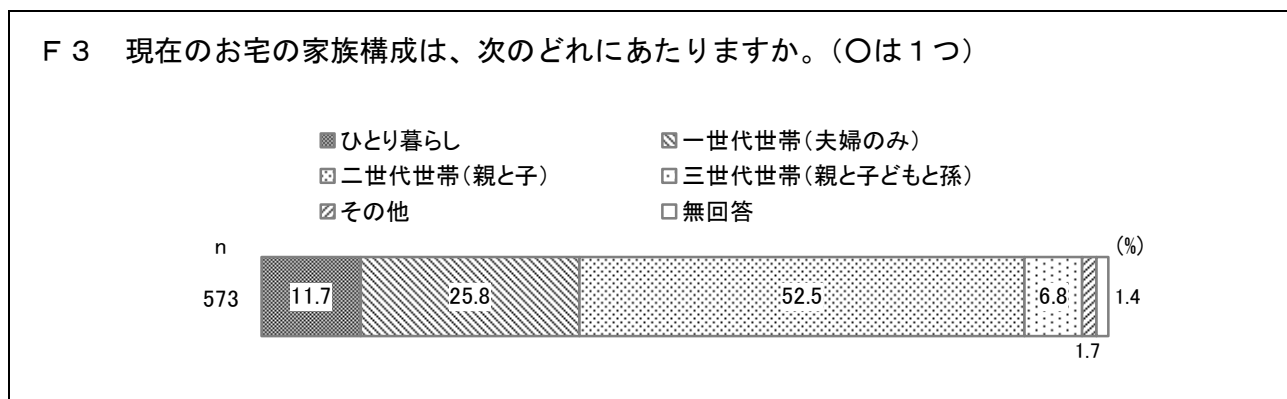
## (1) 性別



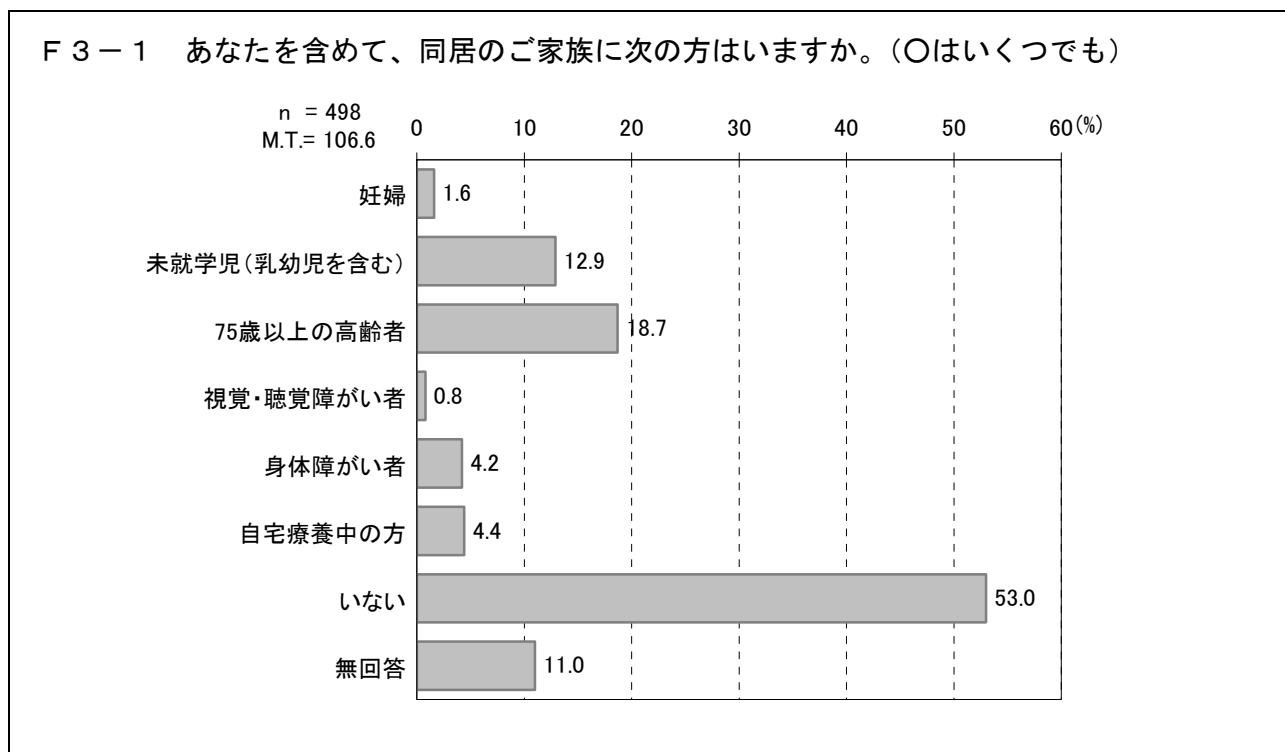
## (2) 年齢



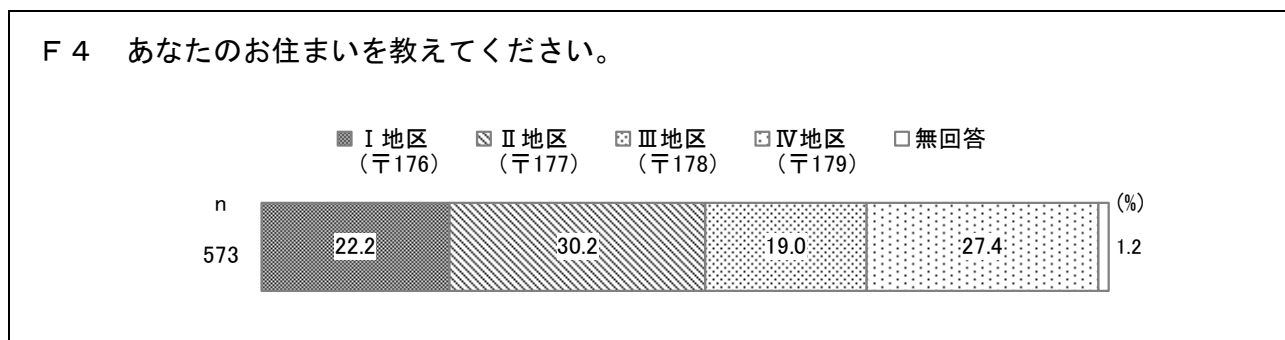
## (3) 家族構成



(4) 災害時要援護者との同居



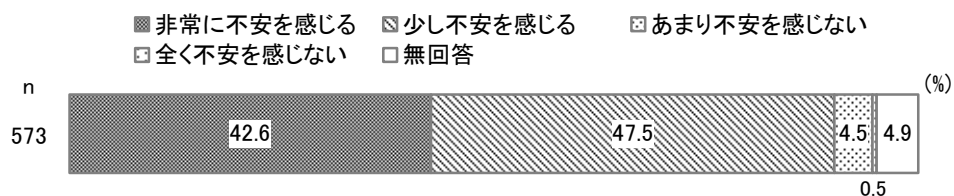
(5) 居住地区



## 2 大地震への不安について

### (1) 大地震への不安を感じるか

問1 あなたは、お住まいの地域で大きな地震にあうかもしれないという不安を感じていますか。(〇は1つ)



大地震への不安を感じるかについて聞いたところ、「非常に不安を感じる」(42.6%)と「少し不安を感じる」(47.5%)を合わせた『不安を感じる』(90.1%)は約9割となっている。

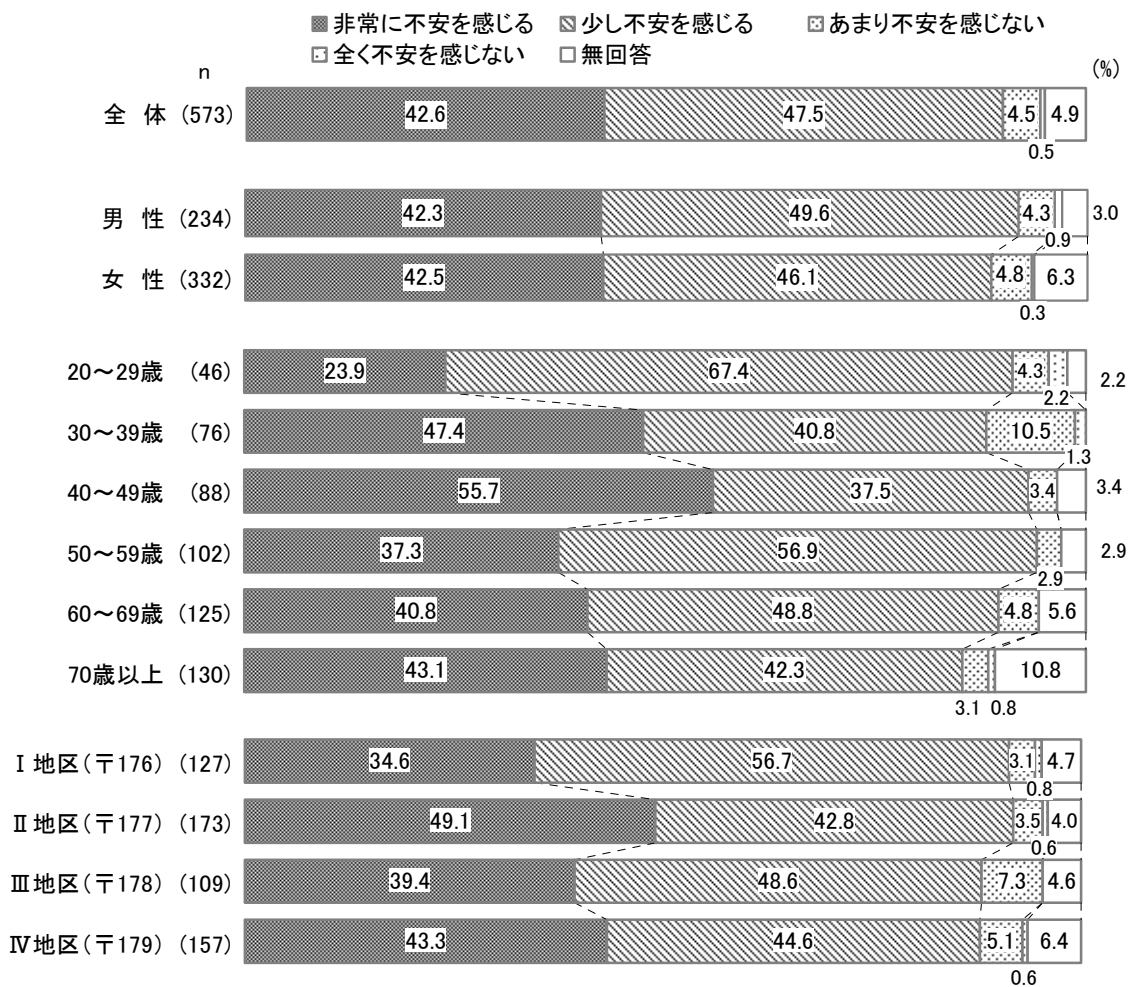
一方、「あまり不安を感じない」(4.5%)と「全く不安を感じない」(0.5%)を合わせた『不安を感じない』(5.0%)は1割に満たない。

性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、『不安を感じる』は20歳代（91.3%）、40歳代（93.2%）、50歳代（94.2%）で9割台となっている。一方、『不安を感じない』は30歳代（11.8%）で唯一1割を超えている。

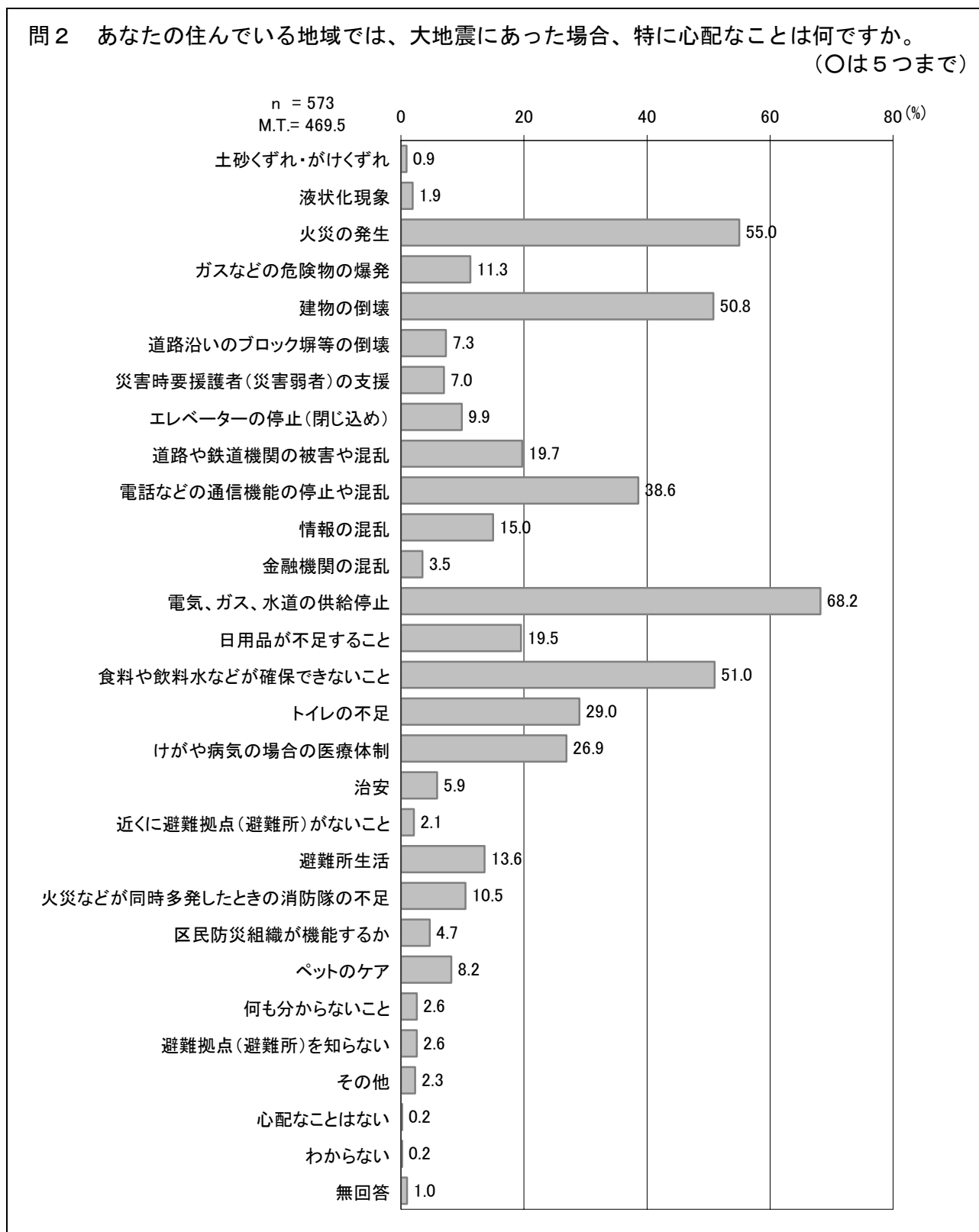
地区別にみると、『不安を感じる』はI地区（91.3%）とII地区（91.9%）で9割を超えている。

【性別、年齢別、地区別】





## (2) 居住地域で大地震にあった場合、特に心配なこと



居住地域で大地震にあった場合、特に心配なことを聞いたところ、「電気、ガス、水道の供給停止」(68.2%)が約7割と最も高くなっている。以下、「火災の発生」(55.0%)、「食料や飲料水などが確保できないこと」(51.0%)、「建物の倒壊」(50.8%)などの順となっている。主に、大地震後に自宅で生活ができるかどうか、あるいは、被災した場合の食料・飲料水の確保やトイレ等の生活に関する心配事などが高い割合を示している。

第2章 調査結果の詳細

性別にみると、男性が女性よりも「電気、ガス、水道の供給停止」では8.0ポイント、「火災の発生」では9.7ポイント高くなっている。逆に「電話などの通信機能の停止や混乱」は女性（41.6%）が男性（34.6%）よりも7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「電気、ガス、水道の供給停止」は60歳以上で7割台となっている。「火災の発生」は60歳代（65.6%）で6割台半ばとなっている。「電話などの通信機能の停止や混乱」は20歳代（50.0%）で5割となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、「けがや病気の場合の医療体制」は“いる”と回答した人（33.0%）が“いない”と回答した人（23.6%）よりも9.4ポイント高くなっている。

地区別にみると、Ⅲ地区では、「電気、ガス、水道の供給停止」（77.1%）で約8割、「火災の発生」（61.5%）で6割を超え、また、Ⅳ地区では、「食料や飲料水などが確保できないこと」（61.1%）で6割を超えている。

【性別、年齢別】

		n	ずれ砂くずれ・がけ	液状化現象	火災の発生	爆発	ガスなどの危険物の	建物の倒壊	塀等の倒壊	道路沿いのブロック	災害時要援護者（災害弱者）の支援	エレベーターの停止（閉じ込め）	害や混乱	道路や鉄道機関の被害	の電話などの通信機能	情報の混乱	金融機関の混乱	供給停止	電気、ガス、水道の	日用品が不足するこ	確保できないこと	食料や飲料水などが	
全体		573	0.9	1.9	55.0	11.3	50.8	7.3	7.0	9.9	19.7	38.6	15.0	3.5	68.2	19.5	51.0						
性別	男性	234	0.4	1.7	60.3	9.4	53.4	5.6	3.8	9.4	22.2	34.6	14.5	3.4	73.1	20.5	54.3						
	女性	332	1.2	2.1	50.6	13.0	48.8	8.1	9.3	10.2	18.4	41.6	15.4	3.6	65.1	19.0	48.5						
年齢別	20～29歳	46	0.0	2.2	32.6	6.5	34.8	2.2	4.3	13.0	28.3	50.0	30.4	2.2	54.3	23.9	52.2						
	30～39歳	76	0.0	3.9	52.6	13.2	48.7	5.3	3.9	13.2	23.7	34.2	14.5	2.6	63.2	31.6	52.6						
	40～49歳	88	0.0	3.4	53.4	5.7	53.4	12.5	9.1	8.0	26.1	37.5	10.2	4.5	68.2	22.7	53.4						
	50～59歳	102	2.0	2.9	53.9	14.7	56.9	6.9	6.9	5.9	23.5	44.1	20.6	2.9	68.6	17.6	52.0						
	60～69歳	125	1.6	0.0	65.6	12.8	51.2	6.4	6.4	13.6	18.4	37.6	9.6	3.2	73.6	8.8	44.8						
	70歳以上	130	0.8	0.8	54.6	12.3	50.0	6.9	9.2	7.7	9.2	35.4	14.6	4.6	70.8	20.8	53.1						

		n	トイレの不足	療体制	けがや病気の場合の医	治安	所）が避難点（避難	近くに避難点（避難	避難所生活	火災などの消防隊の不足	たときの同時多発	るか	区民防災組織が機能す	ペットのケア	何も分からないこと	知らない	避難拠点（避難所）を	その他	心配なことはない	わからない	無回答	
全体		573	29.0	26.9	5.9	2.1	13.6	10.5	4.7	8.2	2.6	2.6	2.3	0.2	0.2	1.0						
性別	男性	234	26.9	25.6	7.7	1.7	13.2	11.1	5.6	4.3	2.6	3.0	2.6	0.0	0.0	0.0						
	女性	332	30.4	27.7	4.8	2.4	13.9	9.9	3.9	11.1	2.7	2.1	2.1	0.3	0.3	1.8						
年齢別	20～29歳	46	23.9	17.4	4.3	0.0	21.7	10.9	6.5	21.7	6.5	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0						
	30～39歳	76	27.6	28.9	10.5	0.0	15.8	6.6	2.6	1.3	5.3	5.3	3.9	1.3	0.0	0.0						
	40～49歳	88	33.0	23.9	8.0	0.0	17.0	6.8	2.3	13.6	1.1	1.1	2.3	0.0	0.0	0.0						
	50～59歳	102	33.3	24.5	4.9	2.9	8.8	5.9	1.0	9.8	3.9	2.9	1.0	0.0	0.0	0.0						
	60～69歳	125	23.2	28.8	2.4	3.2	12.8	14.4	7.2	8.0	0.8	1.6	2.4	0.0	0.8	3.2						
	70歳以上	130	30.8	31.5	6.9	3.8	11.5	14.6	6.9	3.1	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5						

## 【災害時要援護者の有無別、地区別】

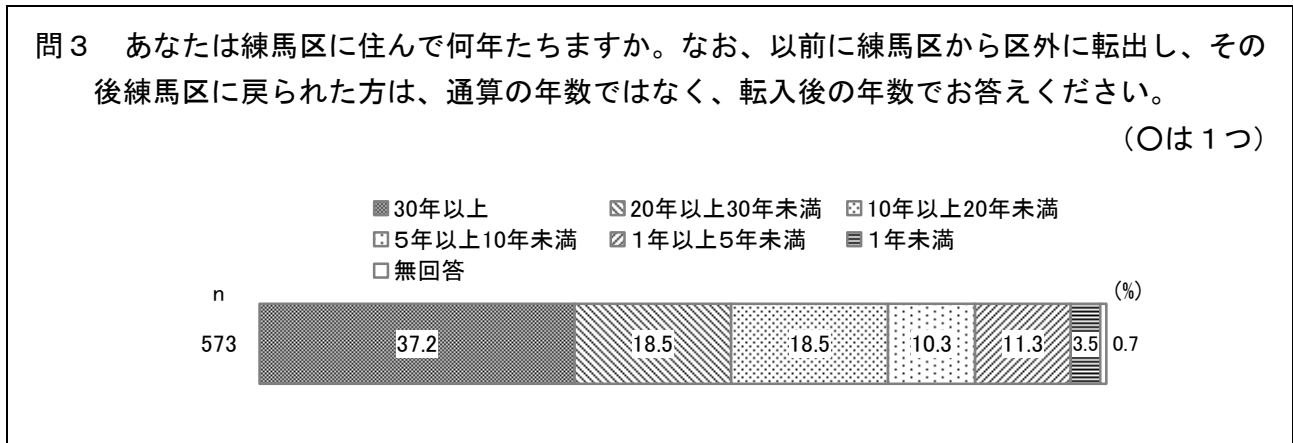
		n	土砂くずれ・がけ	液状化現象	火災の発生	爆発	ガスなどの危険物の	建物の倒壊	塀等の倒壊	道路沿いのブロック	災害時要援護者（災害弱者）の支援	エレベーターの停止（閉じ込め）	害や混乱	道路や鉄道機関の被害	電話などの通信機能の停止や混乱	情報の混乱	金融機関の混乱	供給停止	電気、ガス、水道の	日用品が不足すること	確保できないこと	食料や飲料水などが	
全 体		573	0.9	1.9	55.0	11.3	50.8	7.3	7.0	9.9	19.7	38.6	15.0	3.5	68.2	19.5	51.0						
災害時要援護者の有無別	いる(計)	182	1.1	1.6	56.0	13.7	48.9	9.9	11.0	12.1	17.0	38.5	13.7	2.2	65.9	23.6	50.0						
	妊婦	8	0.0	0.0	87.5	25.0	50.0	0.0	12.5	12.5	37.5	37.5	25.0	12.5	75.0	37.5	50.0						
	未就学児(乳幼児を含む)	64	0.0	0.0	59.4	10.9	40.6	9.4	3.1	12.5	26.6	43.8	12.5	1.6	71.9	37.5	54.7						
	75歳以上の高齢者	96	2.1	1.0	53.1	14.6	55.2	11.5	15.6	11.5	9.4	33.3	12.5	2.1	62.5	16.7	49.0						
	視覚・聴覚障がい者	5	0.0	20.0	40.0	0.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	20.0	0.0	60.0	40.0	40.0						
	身体障がい者	21	0.0	0.0	52.4	28.6	42.9	4.8	14.3	33.3	19.0	42.9	14.3	4.8	76.2	19.0	57.1						
	自宅療養中の方	24	0.0	4.2	58.3	12.5	62.5	8.3	16.7	0.0	8.3	29.2	25.0	4.2	62.5	8.3	45.8						
	いない	275	0.7	1.8	55.3	10.9	52.0	6.2	4.4	9.5	23.3	39.6	15.6	4.0	71.3	18.2	50.9						
地区別	I地区(〒176)	127	0.8	3.9	49.6	9.4	49.6	5.5	9.4	12.6	23.6	42.5	16.5	3.9	67.7	17.3	41.7						
	II地区(〒177)	173	1.2	1.2	57.8	10.4	50.9	8.1	6.4	9.8	19.1	39.3	17.3	4.0	70.5	16.2	49.1						
	III地区(〒178)	109	1.8	3.7	61.5	9.2	49.5	9.2	5.5	4.6	18.3	38.5	12.8	2.8	77.1	23.9	49.5						
	IV地区(〒179)	157	0.0	0.0	51.0	15.9	51.6	5.7	7.0	11.5	19.1	35.7	13.4	3.2	59.9	22.3	61.1						

		n	トイレの不足	療けがや病気の 場合の医 体制	治安	所)が ないこと 避難	近くに 避難 生活	たとき の消 防隊 の不 足	火災 など が同 時多 発し る	区民 防 災組 織が 機能 す るか	ペット のケ ア	何も 分 か ら な い こ と	避難 拠 点 ( 避 難 所 ) を 知 ら な い	その他	心配 な こ と は な い	わか ら な い	無 回 答
全 体		573	29.0	26.9	5.9	2.1	13.6	10.5	4.7	8.2	2.6	2.6	2.3	0.2	0.2	1.0	
災害時要援護者の有無別	いる(計)	182	27.5	33.0	6.6	3.8	12.6	11.5	5.5	5.5	2.7	2.7	1.6	0.0	0.0	0.0	
	妊婦	8	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	未就学児(乳幼児を含む)	64	28.1	32.8	7.8	0.0	14.1	3.1	4.7	3.1	3.1	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	
	75歳以上の高齢者	96	25.0	33.3	5.2	7.3	11.5	15.6	6.3	8.3	3.1	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	視覚・聴覚障がい者	5	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	身体障がい者	21	33.3	42.9	0.0	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	自宅療養中の方	24	37.5	45.8	8.3	4.2	16.7	16.7	4.2	0.0	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	
	いない	275	29.8	23.6	5.1	1.1	14.2	10.9	3.6	10.2	2.5	2.5	3.3	0.4	0.4	0.4	
地区別	I地区(〒176)	127	26.8	25.2	5.5	1.6	12.6	10.2	6.3	6.3	2.4	3.1	1.6	0.8	0.0	1.6	
	II地区(〒177)	173	30.1	28.3	6.4	4.0	11.6	9.8	6.4	8.1	2.3	2.3	4.0	0.0	0.0	0.6	
	III地区(〒178)	109	26.6	26.6	6.4	1.8	16.5	12.8	3.7	8.3	0.9	3.7	0.9	0.0	0.0	0.9	
	IV地区(〒179)	157	31.2	26.8	5.7	0.6	14.0	9.6	1.9	10.2	4.5	1.3	1.9	0.0	0.6	1.3	

### 3 住宅の地震対策について

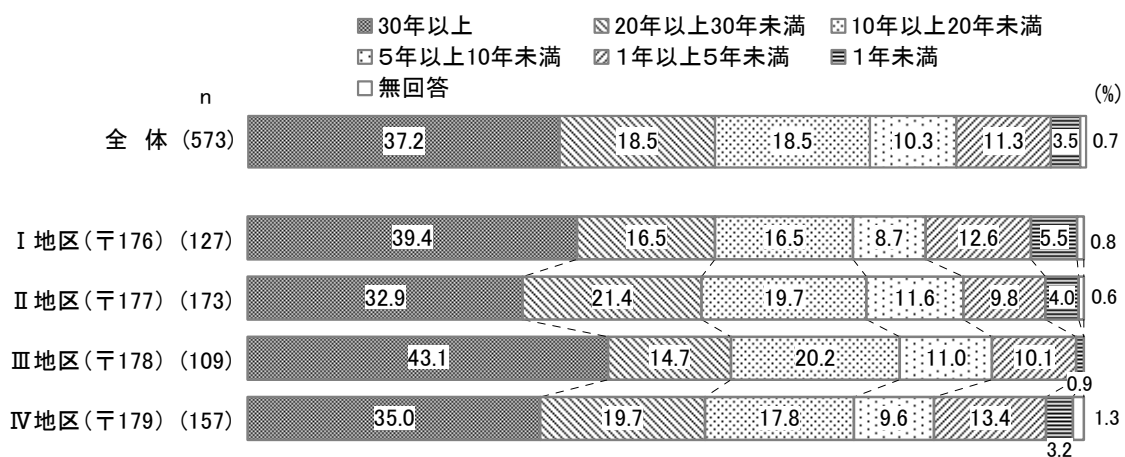
#### (1) 練馬区居住年数



練馬区に住んで何年たつか聞いたところ、「30年以上」(37.2%)が約4割と最も高くなっている。以下、「20年以上30年未満」と「10年以上20年未満」(ともに18.5%)、「1年以上5年未満」(11.3%)などの順となっている。

地区別にみると、「30年以上」はⅢ地区(43.1%)で4割台半ばとなっている。「30年以上」と「20年以上30年未満」を合わせた『20年以上』は、どの地区も5割台となっており、それほど差はみられない。一方、「1年未満」と「1年以上5年未満」を合わせた『5年未満』は、Ⅰ地区(18.1%)、Ⅳ地区(16.6%)が1割台後半となっている。

#### 【地区別】



(2) 住居の建築年代

問4 お住まいの住居は、いつ頃建てられましたか。(○は1つ)

- 1950年(昭和25年)以前[築61年以上]
- 1951年～1960年(昭和26～35年)[築51年～築60年]
- 1961年～1970年(昭和36～45年)[築41年～築50年]
- 1971年～1980年(昭和46～55年)[築31年～築40年]
- 1981年～1990年(昭和56～平成2年)[築21年～築30年]
- 1991年～2000年(平成3～12年)[築11年～築20年]
- 2001年(平成13年)以降[築10年まで]
- わからない
- 無回答

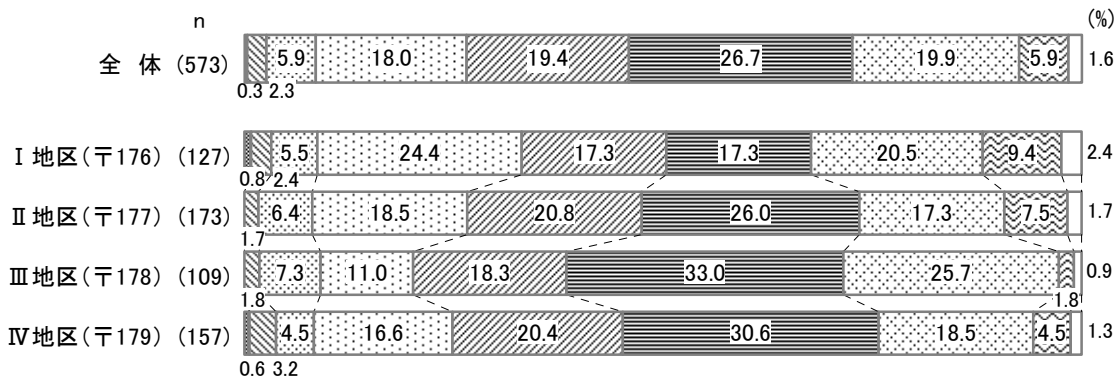


現在住んでいる住居がいつ頃建てられたか聞いたところ、「1991年～2000年（平成3～12年）」（26.7%）が2割台半ばと最も高くなっている。以下、「2001年（平成13年）以降」（19.9%）、「1981年～1990年（昭和56～平成2年）」（19.4%）、「1971年～1980年（昭和46～55年）」（18.0%）などの順となっている。現在の耐震設計基準となった1981年（昭和56年）以降に建築された住居は、約2/3を占めている。

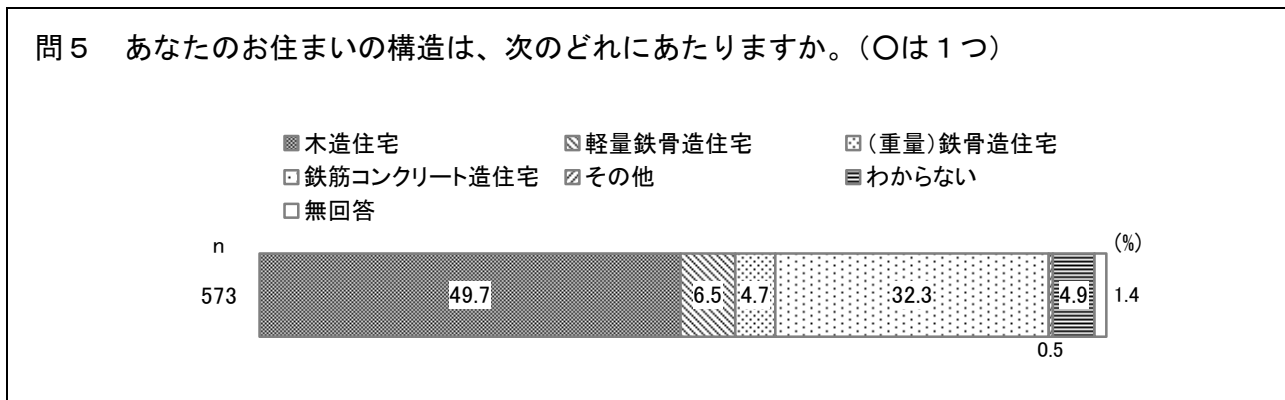
現在の耐震設計基準となった1981年（昭和56年）以降に建築された住居は、Ⅲ地区で77.0%と高い割合を示し、以下、Ⅳ地区で69.5%、Ⅱ地区で64.1%、Ⅰ地区で55.1%という割合になっている。

【地区別】

- 1950年(昭和25年)以前[築61年以上]
- 1951年～1960年(昭和26～35年)[築51年～築60年]
- 1961年～1970年(昭和36～45年)[築41年～築50年]
- 1971年～1980年(昭和46～55年)[築31年～築40年]
- 1981年～1990年(昭和56～平成2年)[築21年～築30年]
- 1991年～2000年(平成3～12年)[築11年～築20年]
- 2001年(平成13年)以降[築10年まで]
- わからない
- 無回答



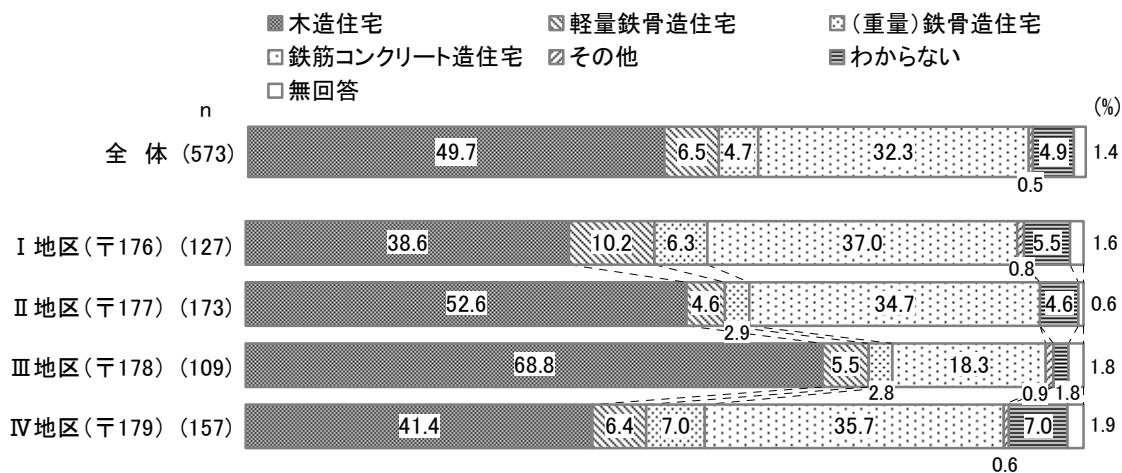
(3) 住居の構造



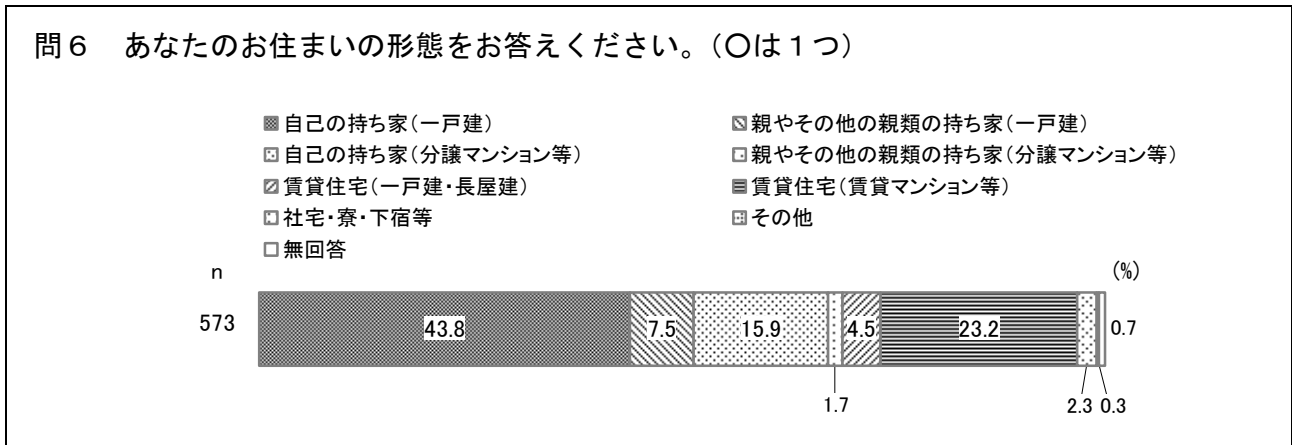
住まいの構造を聞いたところ、「木造住宅」(49.7%)が約5割と最も高くなっている。以下、「鉄筋コンクリート造住宅」(32.3%)、「軽量鉄骨造住宅」(6.5%)、「(重量)鉄骨造住宅」(4.7%)の順となっている。

地区別にみると、「木造住宅」はⅢ地区(68.8%)で約7割であり、他の地区と比べると高い割合となっている。また、「鉄筋コンクリート造住宅」はⅢ地区を除いて3割台となっている。

【地区別】



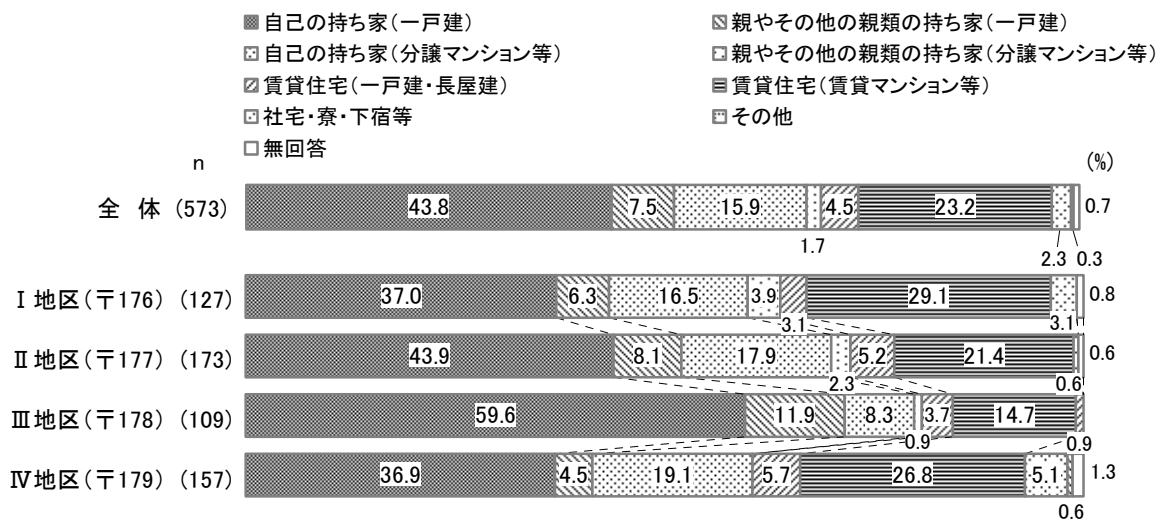
(4) 住居形態



住まいの形態を聞いたところ、「自己の持ち家（一戸建）」(43.8%)が4割台半ばと最も高くなっている。以下、「賃貸住宅（賃貸マンション等）」(23.2%)、「自己の持ち家（分譲マンション等）」(15.9%)などの順となっている。

地区別にみると、「自己の持ち家（一戸建）」はⅢ地区(59.6%)で約6割と他の地区に比べて高い割合となっている。「賃貸住宅（賃貸マンション等）」はⅢ地区を除いて2割台となっており、Ⅰ地区(29.1%)では3割近くとなっている。「自己の持ち家（分譲マンション等）」はⅢ地区を除いて1割台後半となっている。

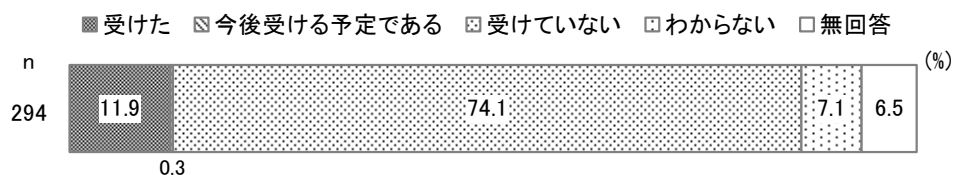
【地区別】



(5) 耐震診断の受診

《問6で「1 自己の持ち家（一戸建）」「2 親やその他の親類の持ち家（一戸建）」と答えた方にお伺いします。》

問6-1 あなたのお住まいは、耐震診断を受けたことがありますか。（○は1つ）



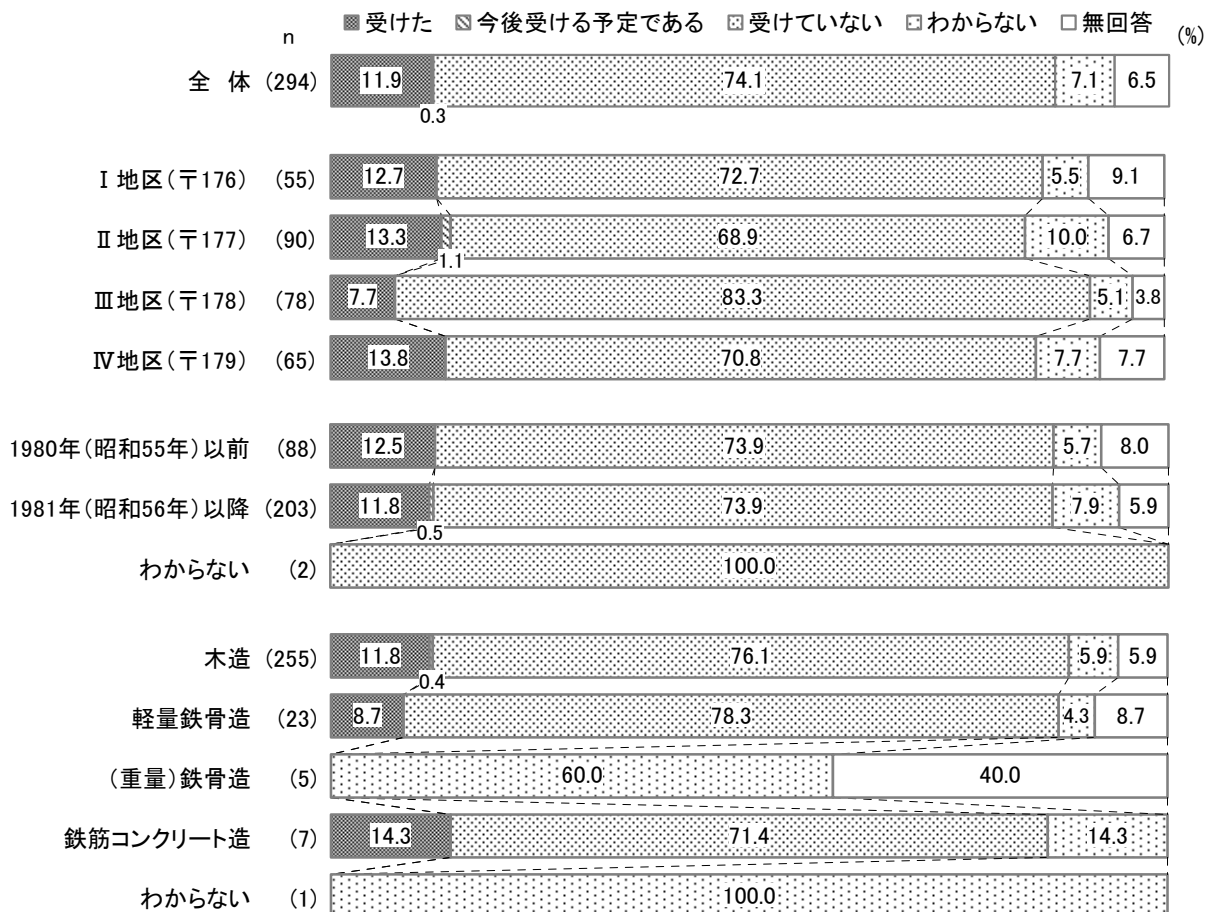
問6で「自己の持ち家（一戸建）」「親やその他の親類の持ち家（一戸建）」と回答した方に、住まいの耐震診断を受けたことがあるか聞いたところ、「受けていない」（74.1%）が7割台半ば、「受けた」（11.9%）は1割程度にとどまっている。



地区別にみると、「受けた」はⅢ地区（7.7%）で1割未満となっており、他の地区より若干低い割合となっている。

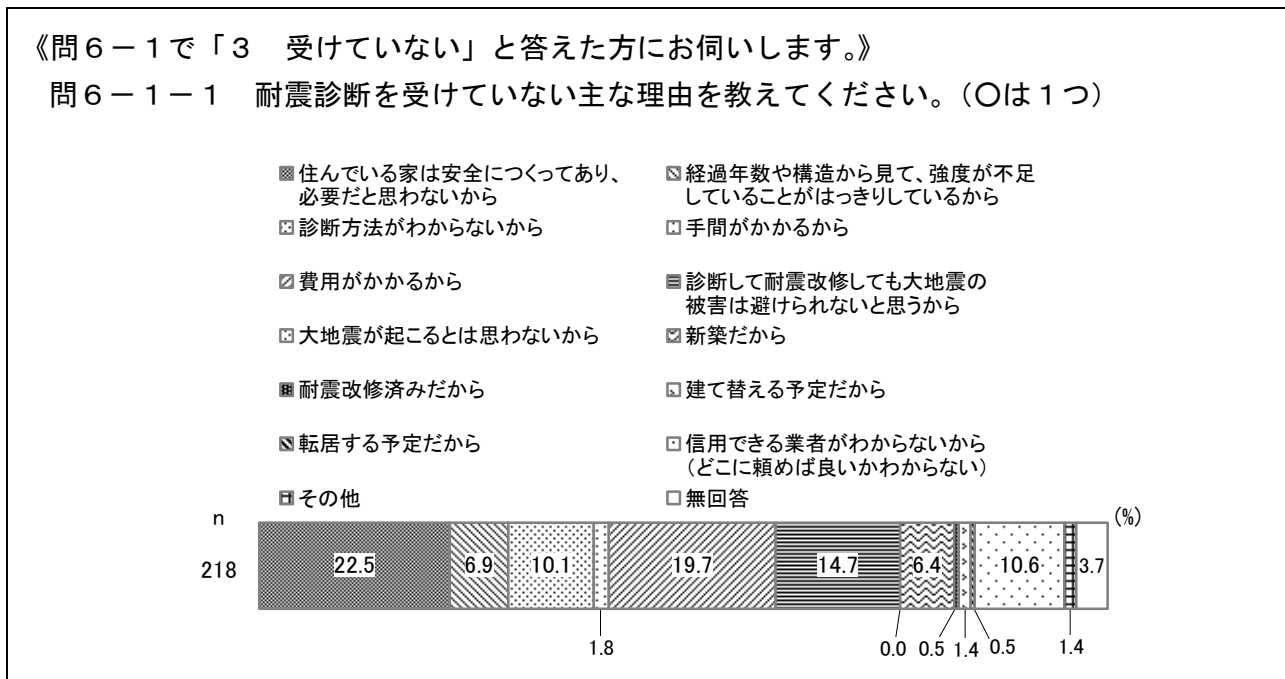
住居の建築年代別にみると、「受けた」は現在の耐震設計基準である1981年（昭和56年）以降の住居でも、旧耐震設計基準である1980年（昭和55年）以前の住居でも1割を超える程度であり、建築年代によって耐震診断の受診率に差がみられないことがわかる。

【地区別、住居の建築年代別、住居の構造別】



※住居の構造別のその他は、回答者がいなかったため省略

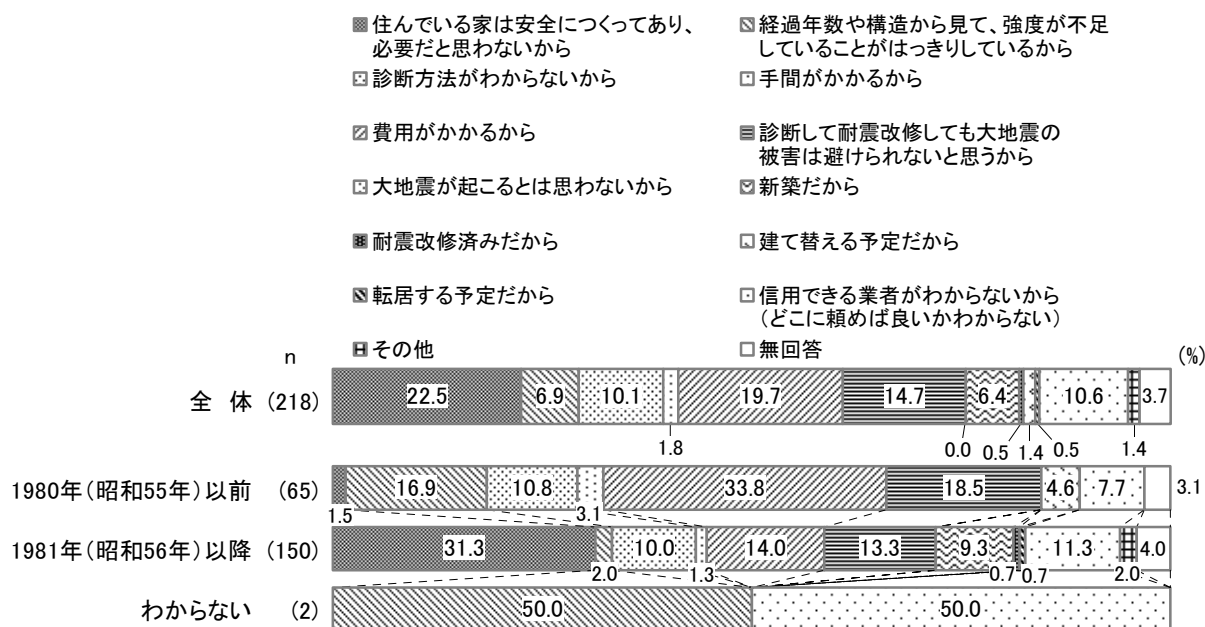
(6) 耐震診断を受けていない理由



問6-1で耐震診断を「受けていない」と答えた方に、主な理由を聞いたところ、「住んでいる家は安全につくってあり、必要だと思わないから」(22.5%)が2割を超えて最も高くなっている。以下、「費用がかかるから」(19.7%)、「診断して耐震改修しても大地震の被害は避けられないと思うから」(14.7%)、「信用できる業者がわからないから (どこに頼めば良いかわからない)」(10.6%)、「診断方法がわからないから」(10.1%)などの順となっている。

住居の建築年代別にみると、現在の耐震設計基準である1981年(昭和56年)以降の住居では「住んでいる家は安全につくってあり、必要だと思わないから」(31.3%)が3割台と一番割合が高く、一方、旧耐震設計基準である1980年(昭和55年)以前の住居では「費用がかかるから」(33.8%)が3割台と一番割合が高くなっている。

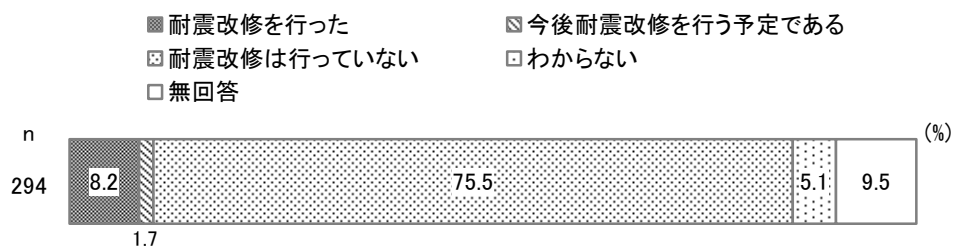
【住居の建築年代別】



## (7) 耐震改修の実施

《問6で「1 自己の持ち家（一戸建）」「2 親やその他の親類の持ち家（一戸建）」と答えた方にお伺いします。》

問6-2 あなたのお住まいは耐震改修を行いましたか。（○は1つ）

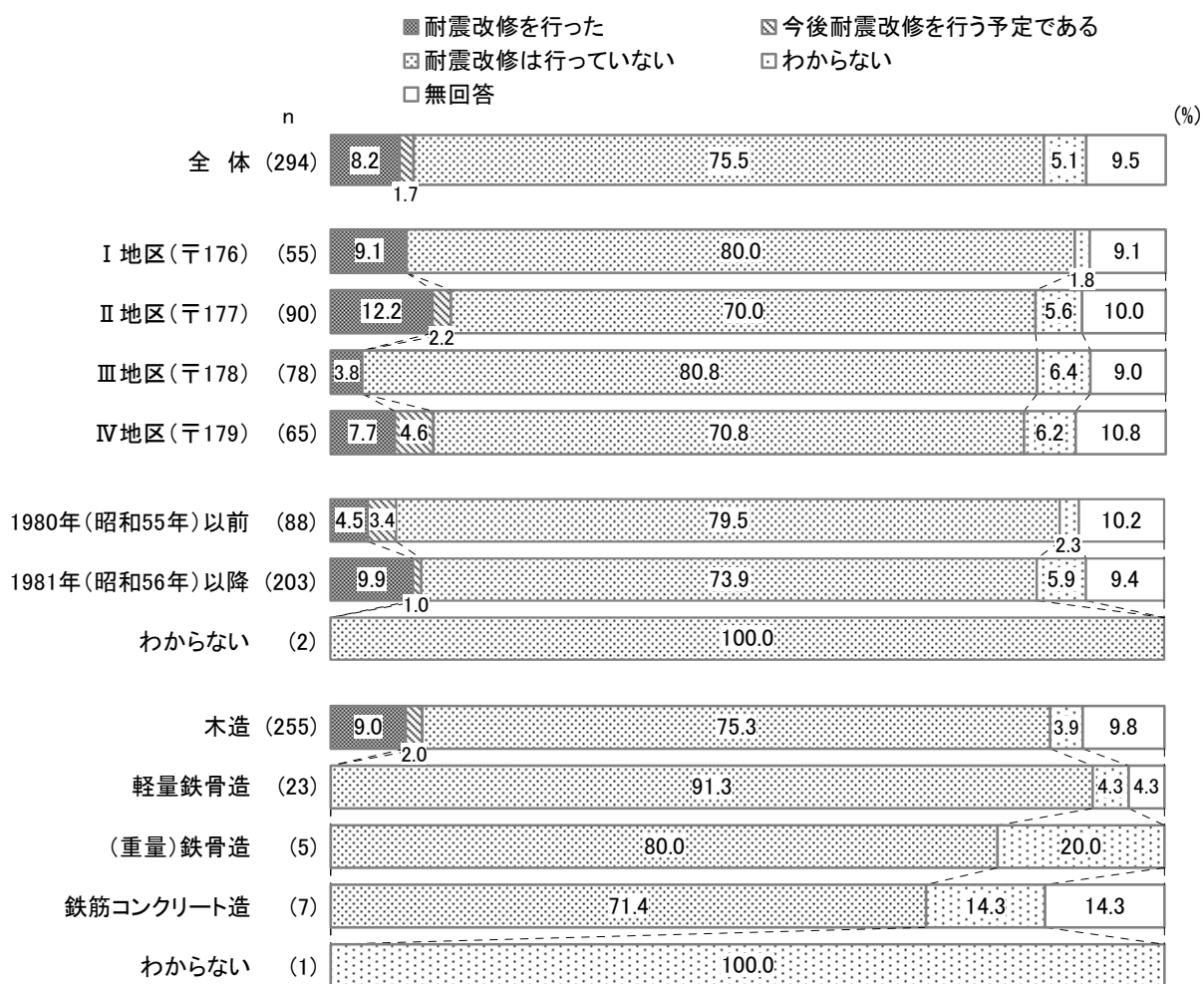


問6で「自己の持ち家（一戸建）」「親やその他の親類の持ち家（一戸建）」と答えた方に、住まいの耐震改修を行ったか聞いたところ、「耐震改修は行っていない」（75.5%）が7割台半ば、「耐震改修を行った」（8.2%）が1割未満となっている。

地区別にみると、「耐震改修を行った」はⅡ地区（12.2％）で1割を超えているが、Ⅲ地区では3.8％と低い割合となっている。

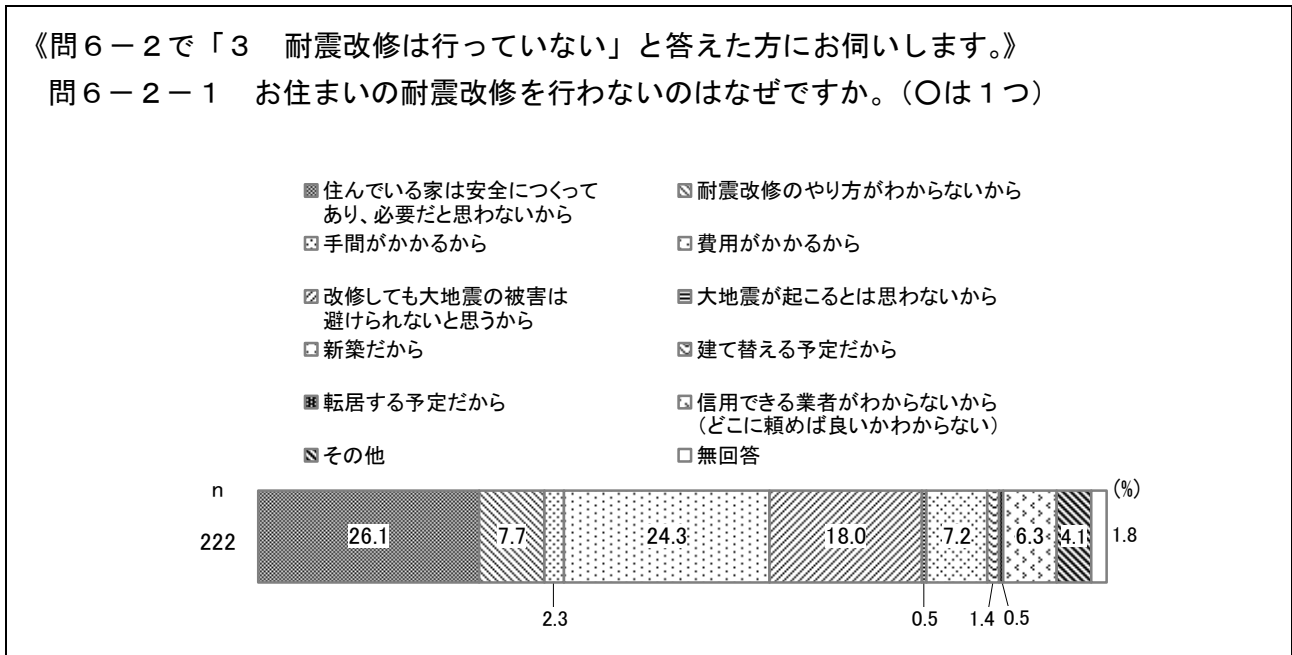
住居の建築年代別にみると、「耐震改修を行った」は旧耐震設計基準である1980年（昭和55年）以前の住居（4.5％）でも1割未満となっている。

【地区別、住居の建築年代別、住居の構造別】



※住居の構造別のその他は、回答者がいなかったため省略

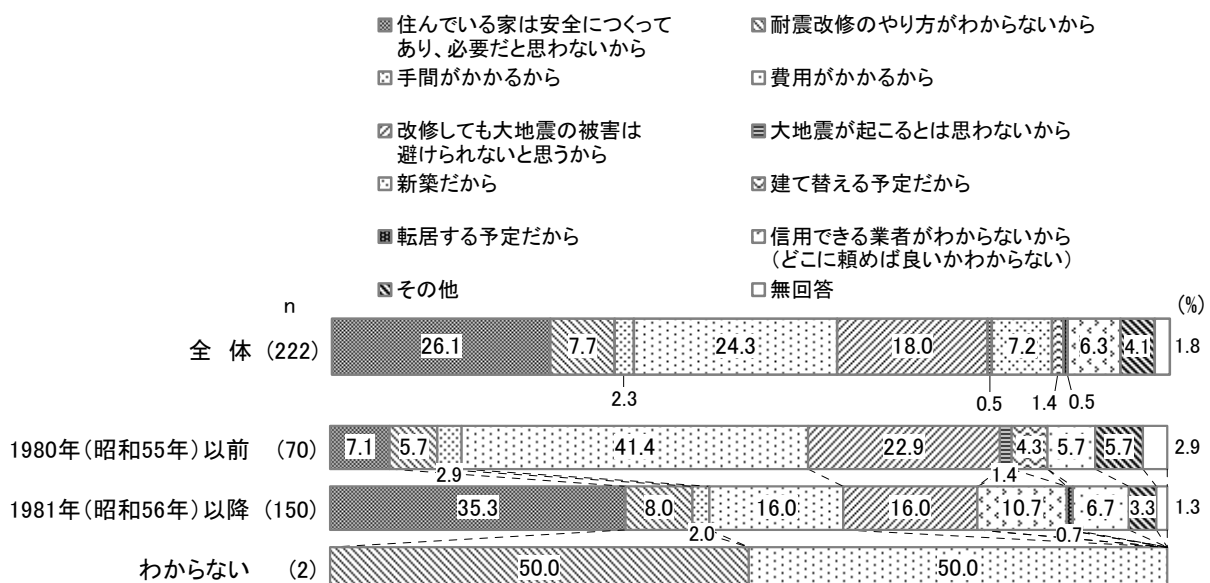
(8) 耐震改修を行わない理由



問6-2で「耐震改修は行ってない」と答えた方に、主な理由を聞いたところ、「住んでいる家は安全につくってあり、必要だと思わないから」(26.1%)と「費用がかかるから」(24.3%)が2割台半ばと高くなっている。以下、「改修しても大地震の被害は避けられないと思うから」(18.0%)、「耐震改修のやり方がわからないから」(7.7%)、「新築だから」(7.2%)などの順となっている。

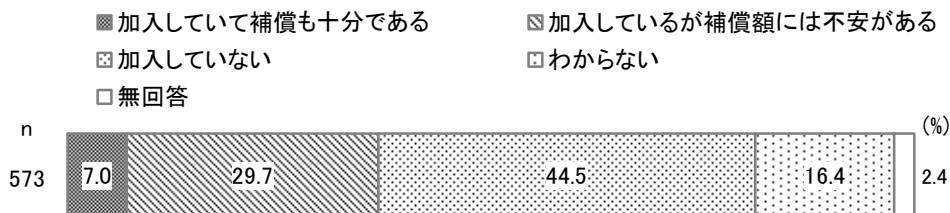
住居の建築年代別にみると、現在の耐震設計基準である1981年(昭和56年)以降の住居では「住んでいる家は安全につくってあり、必要だと思わないから」(35.3%)が3割台半ばと一番割合が高く、一方、旧耐震設計基準である1980年(昭和55年)以前の住居では「費用がかかるから」(41.4%)が4割台と一番割合が高くなっている。

【住居の建築年代別】



(9) 地震による建物被害を補償する保険・共済への加入

問7 一般の火災保険（共済）では、地震による建物の火災・倒壊は補償されません。地震による建物の被害を補償する保険・共済制度として、損害保険会社の地震保険や、建物更正共済などがあります。あなたのお住まいは、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。（○は1つ）

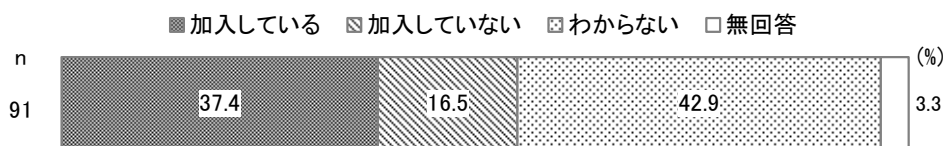


地震による建物の被害を補償する保険・共済に加入しているか聞いたところ、「加入していない」(44.5%)が4割台半ばと最も高くなっている。以下、「加入しているが補償額には不安がある」(29.7%)、「わからない」(16.4%)、「加入しているが補償も十分である」(7.0%)の順となっている。

(10) マンション共用部分の地震被害を補償する保険・共済への加入

《問6で「3 自己の持ち家（分譲マンション等）」と答えた方にお伺いします。》

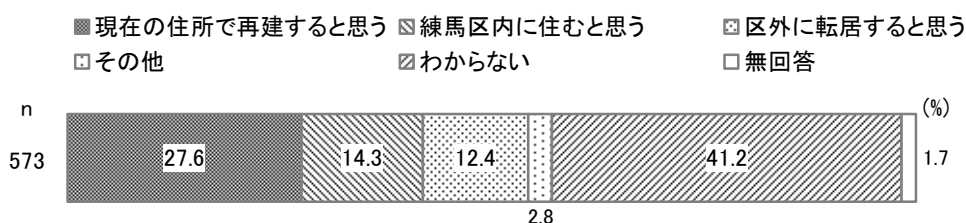
問7-1 管理組合等で、マンションの共用部分についても、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。（○は1つ）



問6で「自己の持ち家（分譲マンション等）」と答えた方に、マンション共用部分の地震被害を補償する保険・共済へ加入しているか聞いたところ、「加入している」(37.4%)、「加入していない」(16.5%)、「わからない」(42.9%)となっており、4割の方は把握していない。

## (11) 現在の住宅に住めなくなった場合の生活再建場所

問8 仮に、大地震により現在の住宅に住むことができなくなった場合、どこで生活を再建しますか。(〇は1つ)



仮に、大地震により現在の住宅に住むことができなくなった場合の生活再建場所を聞いたところ、「わからない」(41.2%)が4割を超えて最も高くなっている。以下、「現在の住所で再建すると思う」(27.6%)、「練馬区内に住むと思う」(14.3%)、「区外に転居すると思う」(12.4%)などの順となっており、練馬区内で再建しようと考えている割合(41.9%)は4割にのぼる。

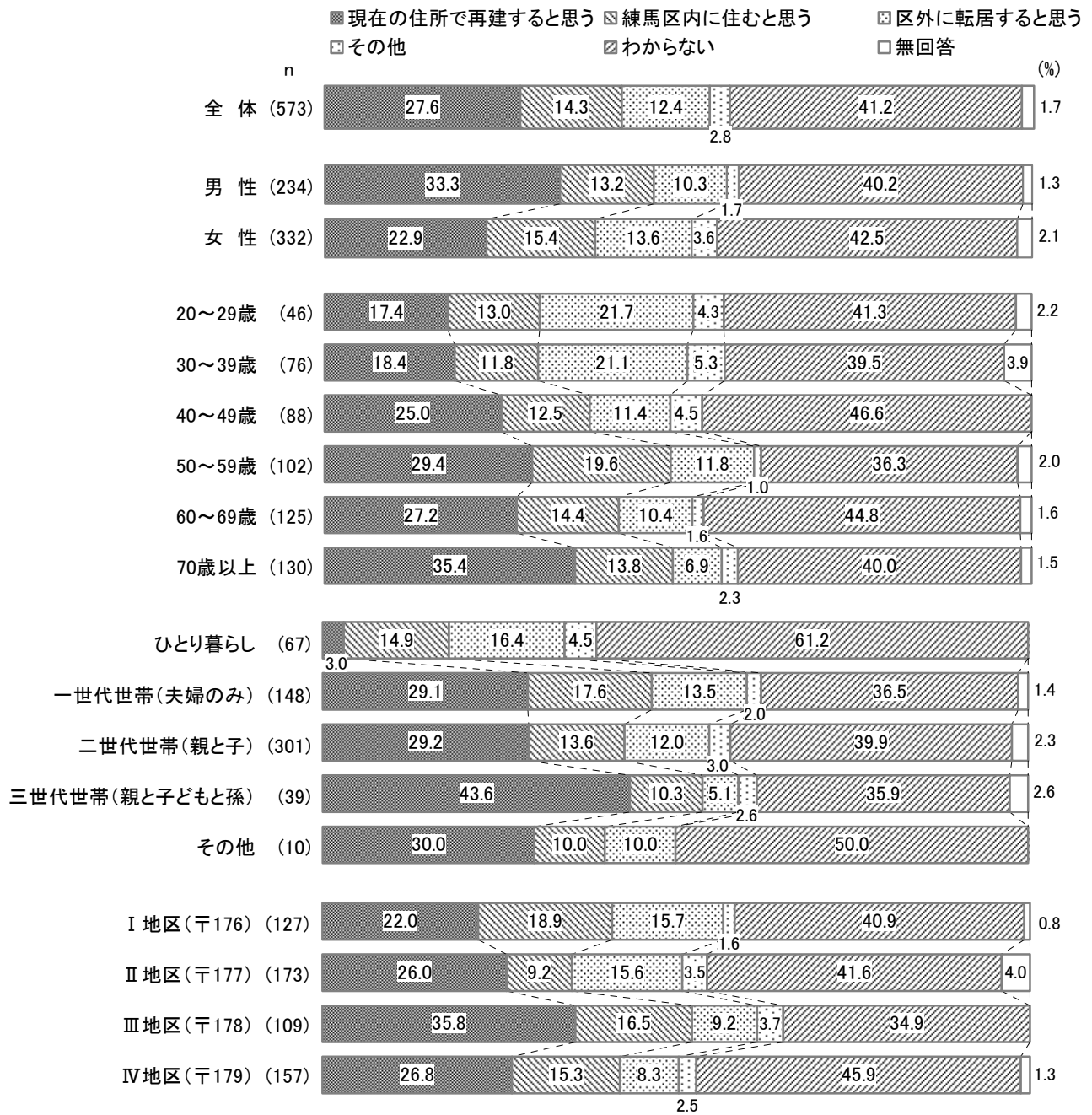
性別にみると、「現在の住所で再建すると思う」は男性(33.3%)が女性(22.9%)よりも10.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「現在の住所で再建すると思う」は20歳代(17.4%)、30歳代(18.4%)では2割未満となっているが、70歳以上(35.4%)では3割台半ばとなっており、凹凸はあるが、年代が高くなるほど「現在の住所で再建すると思う」の割合が高くなる傾向がみられる。一方、「区外に転居すると思う」は70歳以上(6.9%)では1割未満となっているが、20歳代(21.7%)、30歳代(21.1%)では2割を超えており、年代が低くなるほど「区外に転居すると思う」の割合が高くなる傾向がみられる。

家族構成別でみると、「現在の住所で再建すると思う」はひとり暮らし(3.0%)では最も低く、三世帯世帯(親と子どもと孫)(43.6%)では4割台半ばとなっている。「わからない」はひとり暮らし(61.2%)で6割を超えている。

地区別にみると、「現在の住所で再建すると思う」はⅢ地区(35.8%)で3割台半ばとなっている。「練馬区内に住むと思う」はⅡ地区(9.2%)で唯一1割未満となっている。「区外に転居すると思う」はⅠ地区(15.7%)とⅡ地区(15.6%)で1割台半ばとなっている。

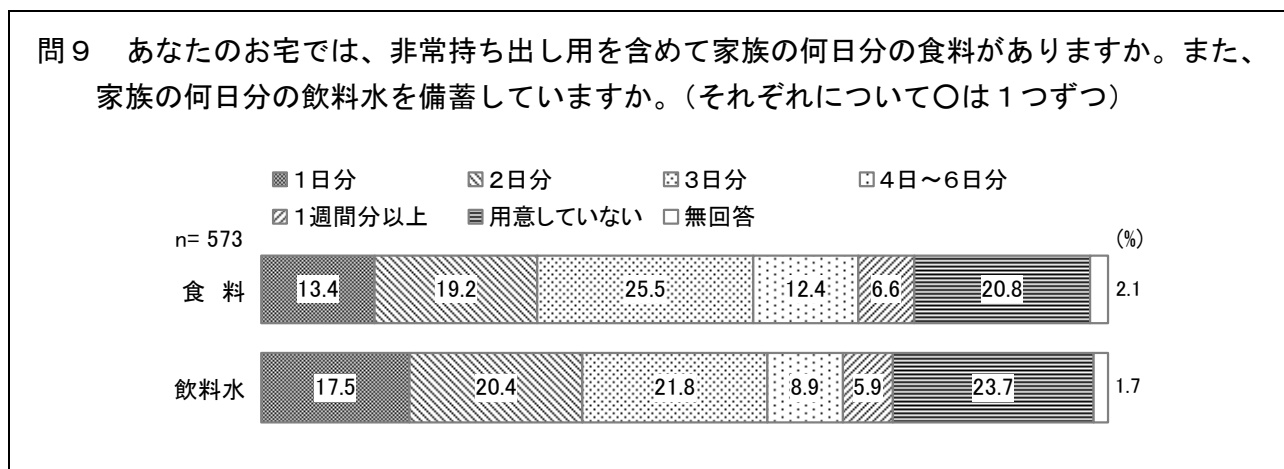
【性別、年齢別、家族構成別、地区別】





## 4 日ごろの防災対策について

### (1) 食料・飲料水の備蓄



食料と飲料水について、非常持ち出し用を含めて家族の何日分を備蓄しているか聞いたところ、食料では、「3日分」(25.5%)が2割台半ばと最も高くなっている。以下、「2日分」(19.2%)、「1日分」(13.4%)、「4日～6日分」(12.4%)などの順となっている。一方、「用意していない」(20.8%)は約2割となっている。

飲料水では、「3日分」(21.8%)が2割を超えて最も高くなっている。以下、「2日分」(20.4%)、「1日分」(17.5%)などの順となっている。一方、「用意していない」(23.7%)は2割台半ばとなっている。

練馬区では、食料及び飲料水については3日分以上の備蓄を区民に啓発しているが、3日分以上備蓄している割合は、食料(44.5%)、飲料水(36.6%)ともに半数以下となっている。

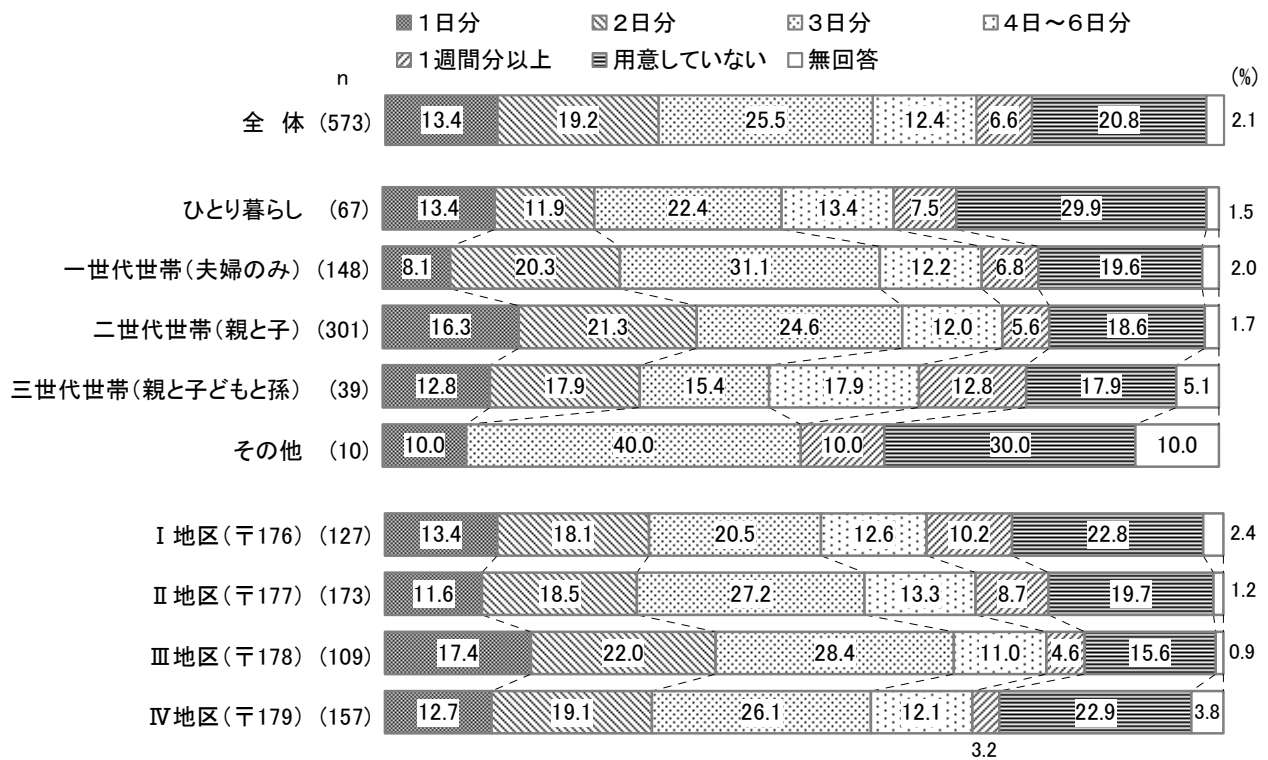
食料を家族構成別にみると、「3日分」は一世代世帯(夫婦のみ)(31.1%)で3割を超えている。「用意していない」はひとり暮らし(29.9%)で約3割となっており、他の世帯よりも備蓄していない割合がやや高い。また、3日分以上備蓄している割合は、どの世帯もそれほど大きな差はみられない。

地区別にみると、3日分以上備蓄している割合は、Ⅱ地区(49.2%)で約半数とやや高く、他地区でも4割台となっている。

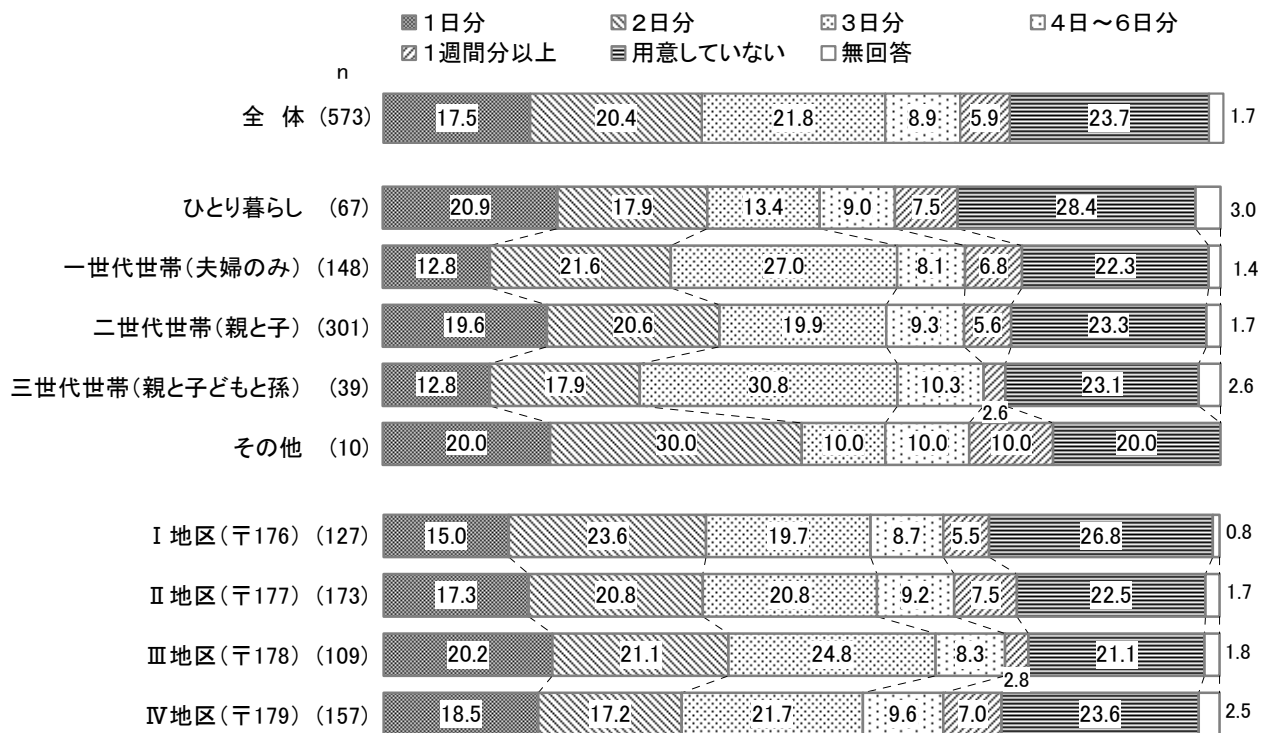
飲料水を家族構成別にみると、「3日分」は三世帯世帯(親と子どもと孫)(30.8%)で約3割となっている。「用意していない」は、食料の備蓄と同じく、ひとり暮らし(28.4%)で約3割となっており、他の世帯よりも備蓄していないことがうかがえる。また、3日分以上備蓄している割合は、三世帯世帯(親と子どもと孫)(43.7%)と一世代世帯(夫婦のみ)(41.9%)で4割台となっており、以下、二世帯世帯(親と子)(34.8%)、一人暮らし(29.9%)となっている。

地区別にみると、3日分以上備蓄している割合は、どの地区も3割台となっており、大きな差はみられない。

【食料 - 家族構成別、地区別】



【飲料水 - 家族構成別、地区別】



## (2) 住宅内の消火器の設置

問10 あなたのお宅には、消火器を置いていますか。マンション等で共用廊下などに置いてあるものは除きます。(〇は1つ)



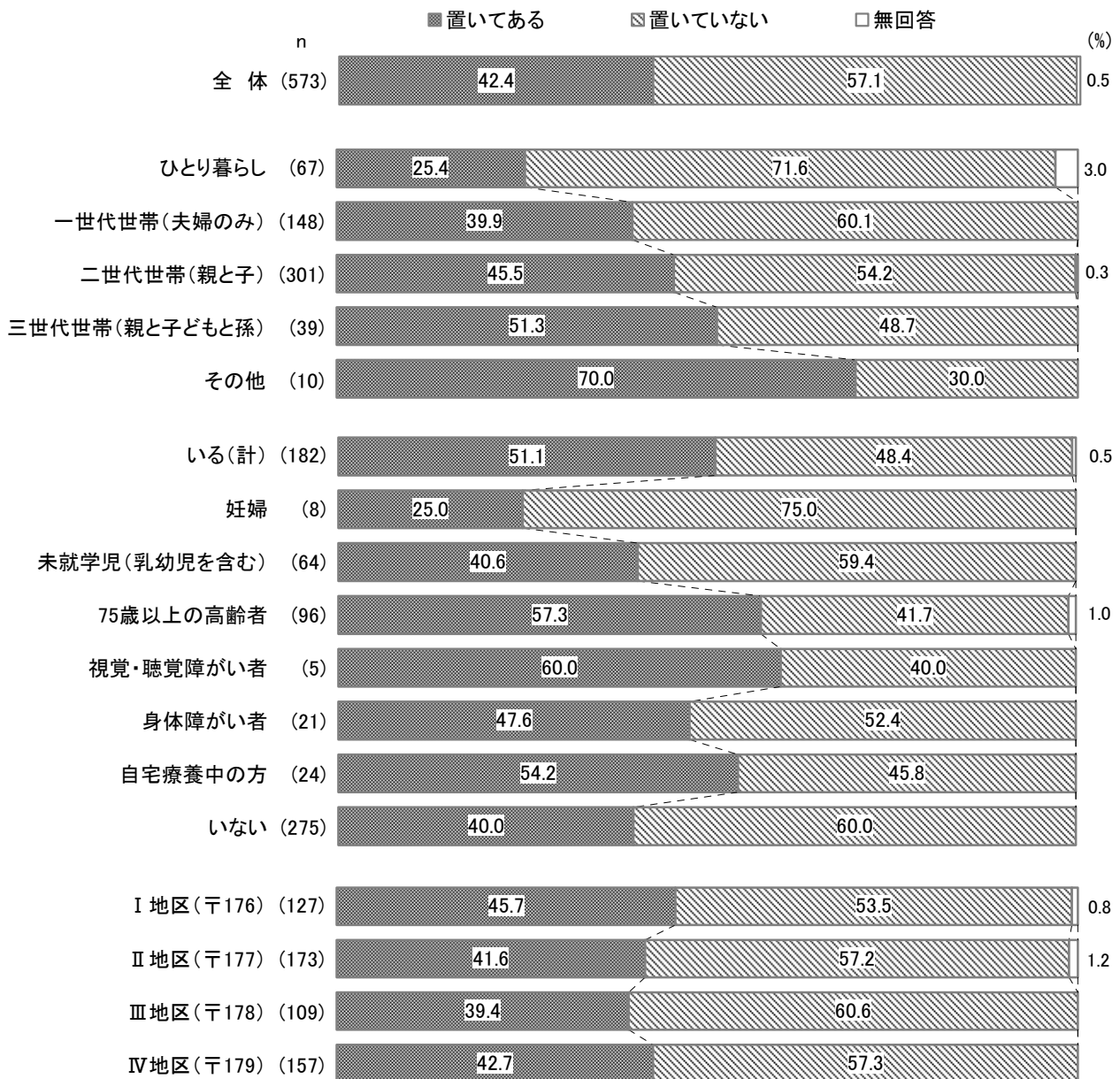
住宅に消火器を置いているか聞いたところ、「置いていない」(57.1%)が「置いてある」(42.4%)を上回っており、現状での消火器の設置率は4割程度である。

家族構成別にみると、「置いてある」はひとり暮らし（25.4%）で低い割合だが、多世代の世帯になるほど割合は高くなる傾向がみられる。一方、「置いていない」はひとり暮らし（71.6%）で7割を超えており、多世代の世帯になるほど割合は低くなる傾向がみられる。

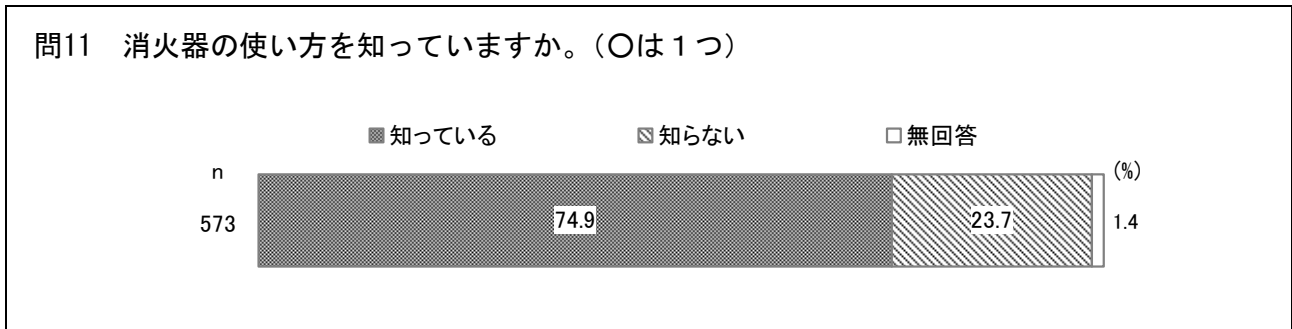
災害時要援護者の有無別にみると、「置いてある」は災害時要援護者が家族に“いる”と回答した人（51.1%）が“いない”と回答した人（40.0%）よりも11.1ポイント高くなっている。

地区別にみると、それほど大きな差はみられない。

【家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】



## (3) 消火器の使い方の認知



消火器の使い方を知っているか聞いたところ、「知っている」(74.9%)が7割台半ば、「知らない」(23.7%)が2割台半ばとなっている。

性別にみると、「知っている」は男性(82.9%)が女性(69.0%)よりも13.9ポイント高くなっている。

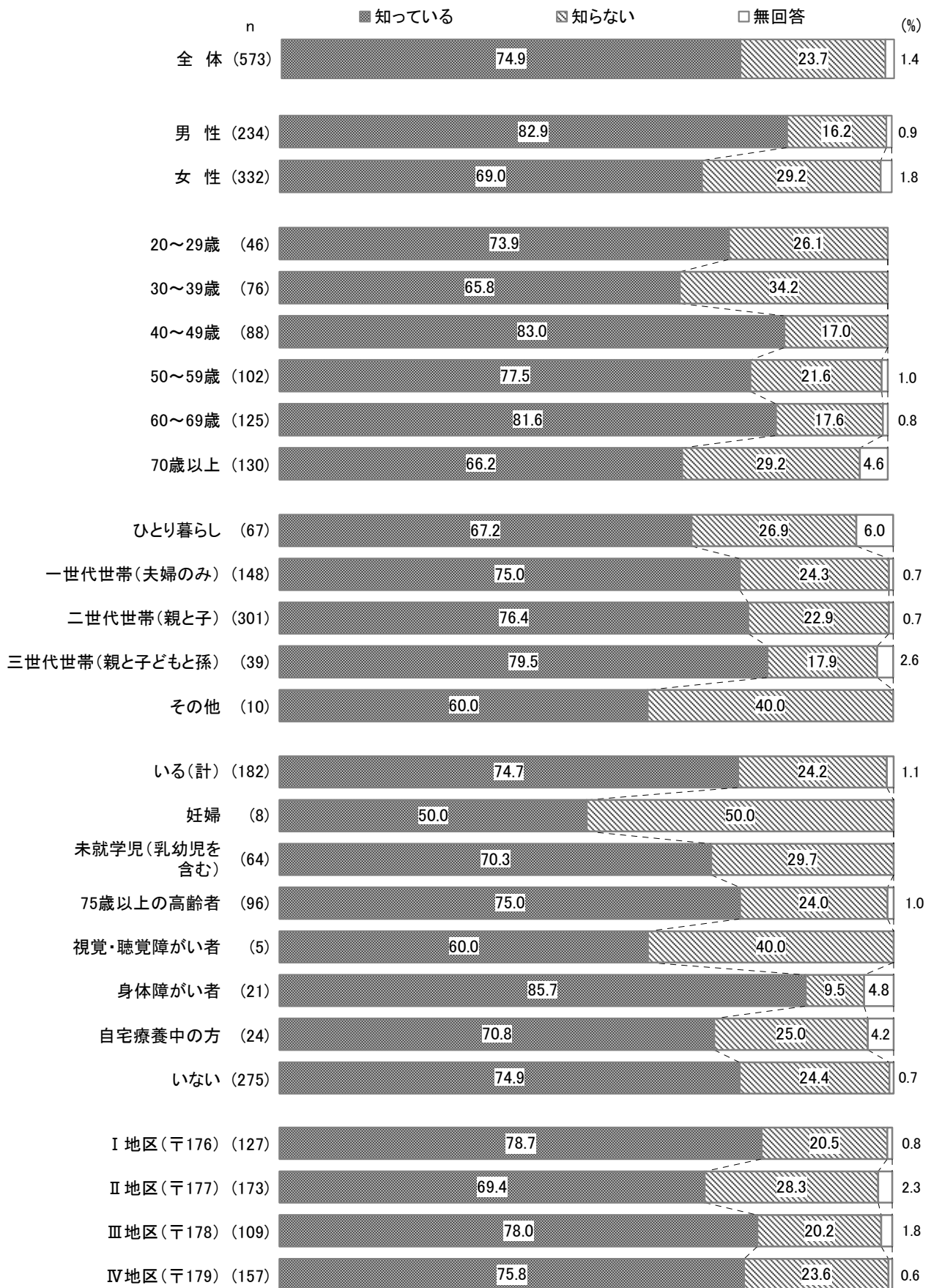
年齢別にみると、「知っている」は40歳代(83.0%)と60歳代(81.6%)で8割台となっている。一方、「知らない」は30歳代(34.2%)で高く、3割台半ばとなっている。

家族構成別にみると、「知っている」は一世代世帯(夫婦のみ)(75.0%)、二世帯世帯(親と子)(76.4%)、三世帯世帯(親と子どもと孫)(79.5%)で7割台後半となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

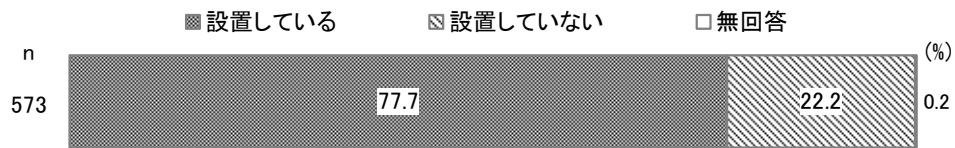
地区別にみると、「知っている」はⅡ地区(69.4%)を除いて7割台後半となっている。

【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】



## (4) 住宅用火災警報器の設置

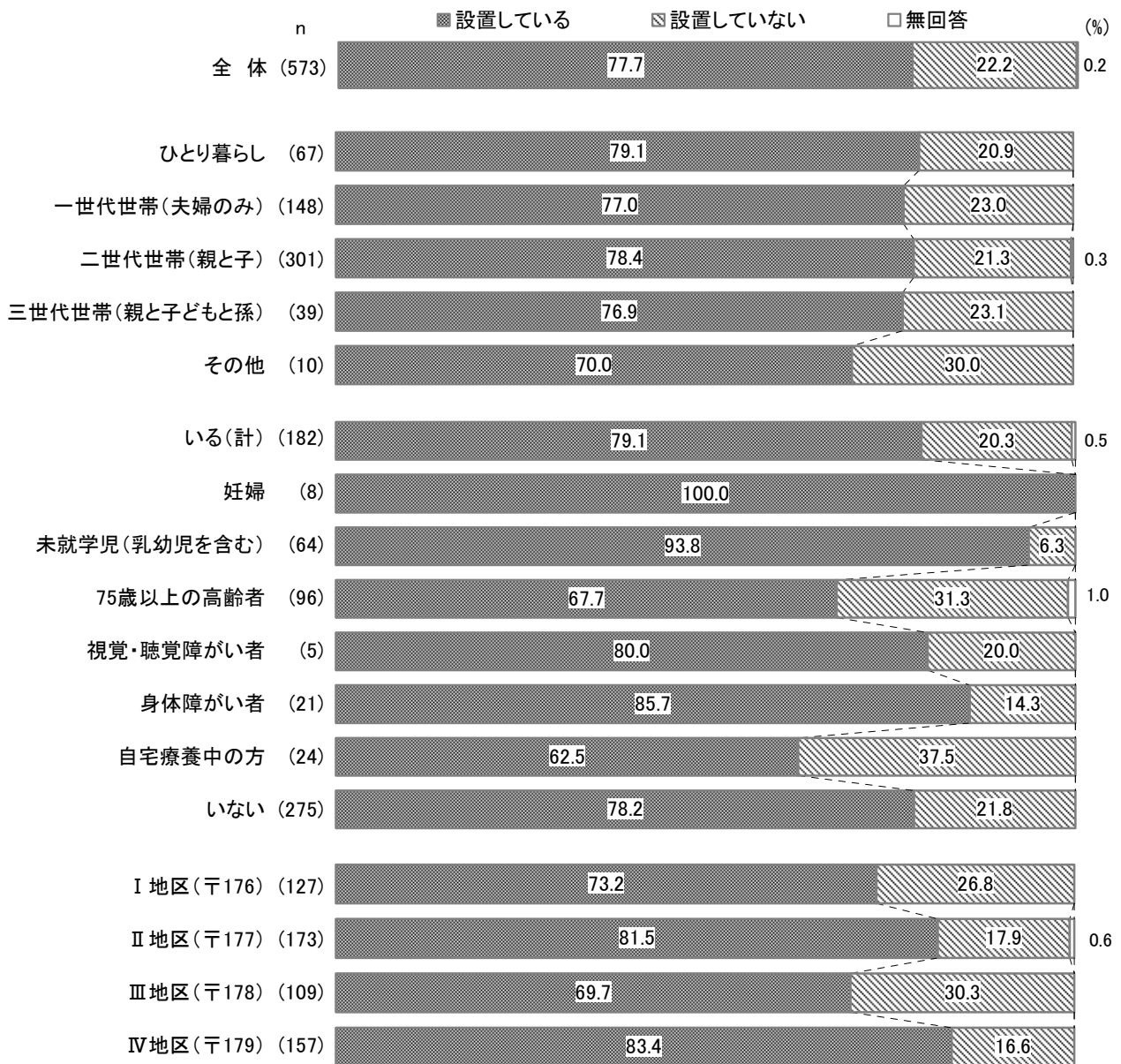
問12 あなたのお宅では、寝室や台所・階段などに、住宅用火災警報器が設置されていますか。(○は1つ)



住宅に住宅用火災警報器が設置されているか聞いたところ、「設置している」(77.7%)が約8割、「設置していない」(22.2%)が約2割となっている。

家族構成別、災害時要援護者の有無別については、大きな差はみられない。  
 地区別にみると、「設置している」はⅡ地区（81.5%）とⅣ地区（83.4%）で8割台となっている。

【家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】





## 5 家具・家電などの固定について

### (1) 地震に備えた家具・家電品・重量物の固定

問13 あなたのお宅では、地震に備えてタンス、本棚、食器棚などの収納家具や、冷蔵庫、テレビなどの家電品、その他の重量物の固定をしていますか。(○は1つ)



住宅で地震に備えて家具・家電品・重量物を固定しているか聞いたところ、「固定していない」(51.3%)が5割を超えている。以下、「一部固定している」(37.2%)、「大部分固定している」(11.5%)となっており、一部でも固定している割合(48.7%)は5割弱となっている。

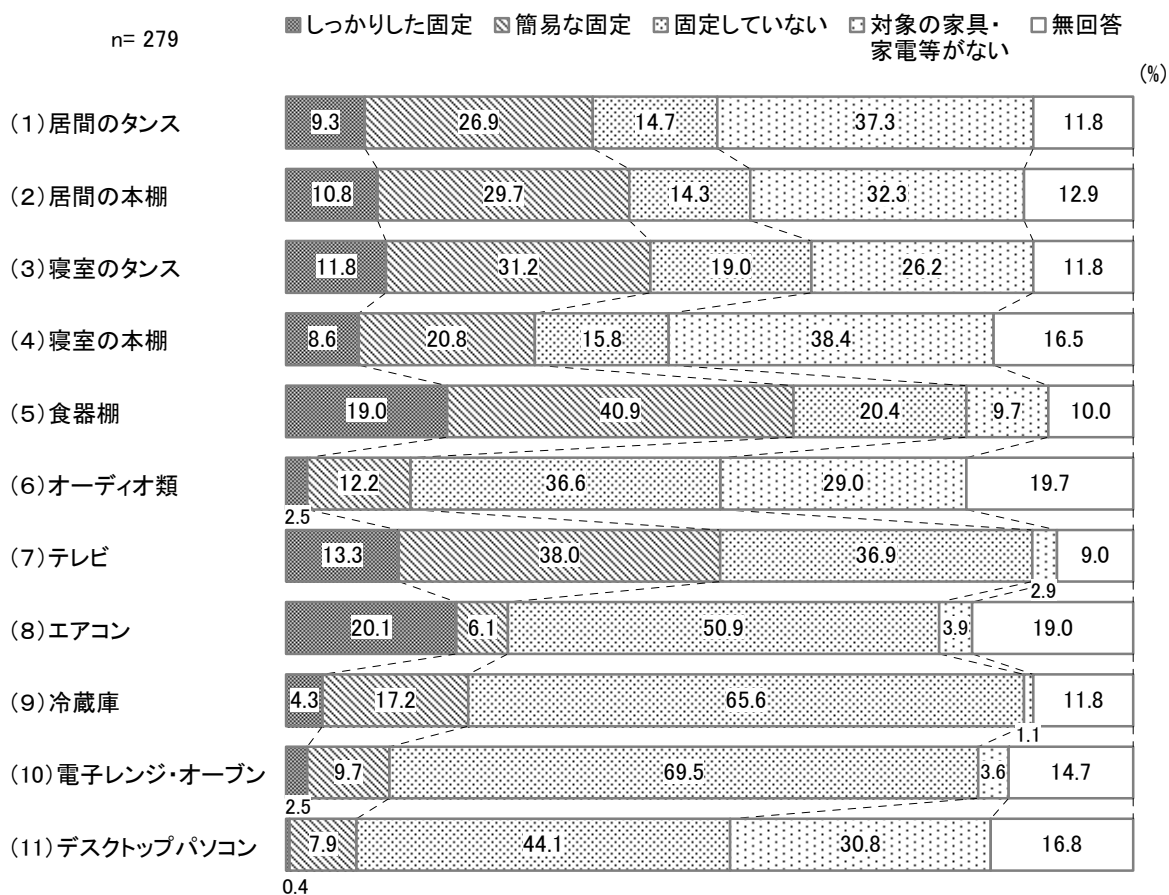
(2) 家具・家電の固定の状況

《問13で「1 大部分固定している」「2 一部固定している」と答えた方にお伺いします。》

問13-1 家具・家電の固定の状況を教えてください。ただし、造り付けの家具は除きます。

固定方法を下図※に例示していますが、これ以外の方法も含め、どのような方法でもかまいません。(家具・家電ごとにあてはまる番号に○を付けてください。)

※図については、「参考資料2 調査票」を参照。



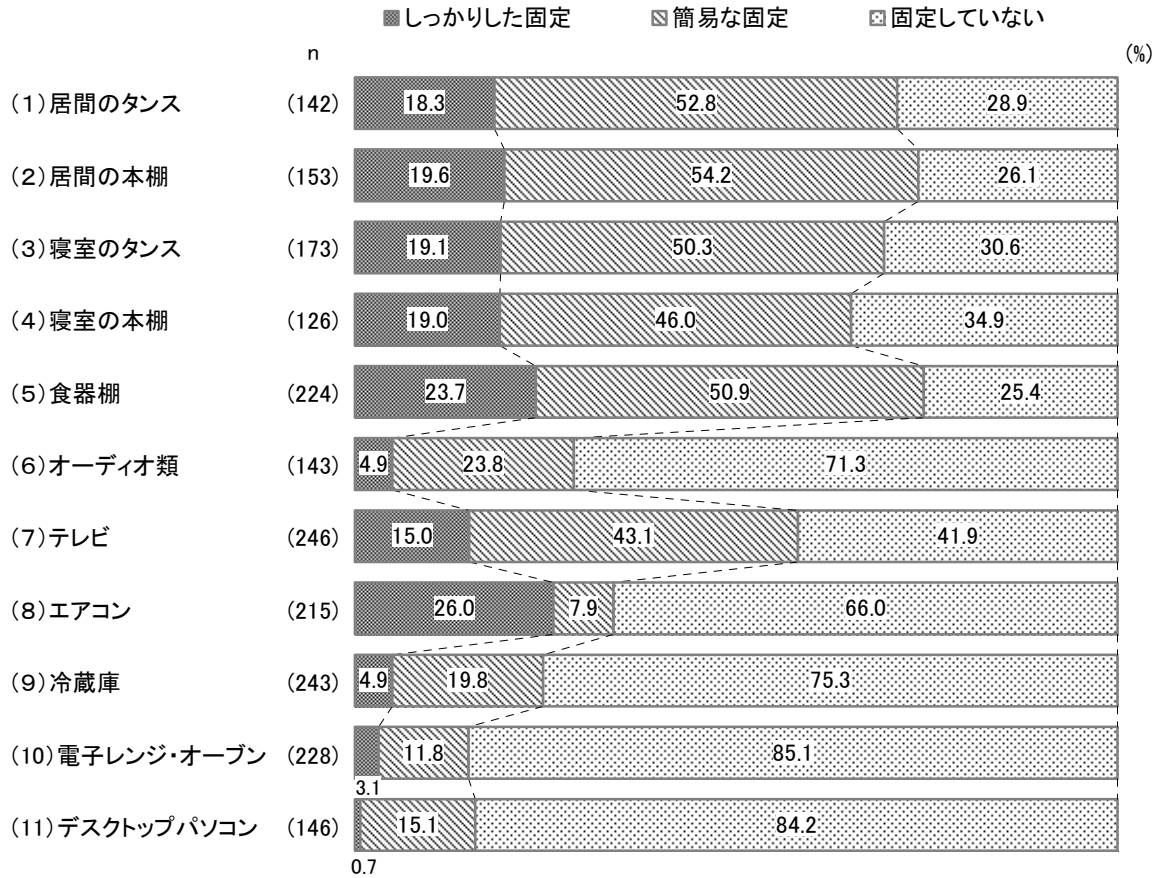
問13で「大部分固定している」「一部固定している」と答えた方に家具・家電の固定の状況を聞いたところ、「しっかりした固定」は“食器棚”(19.0%)と“エアコン”(20.1%)では2割前後とやや高くなっている。「簡易な固定」は“食器棚”(40.9%)で約4割と最も高くなっている。

「しっかりした固定」と「簡易な固定」を合わせた何らかの固定をしている割合は、食器棚(59.9%)、テレビ(51.3%)で5割を超えており、寝室のダンス(43.0%)、居間の本棚(40.5%)が4割台と他に比べて高い割合となっている。食器棚やダンス、本棚等の大きな収納家具は、他の家具・家電に比べて固定を行っている割合が高い。

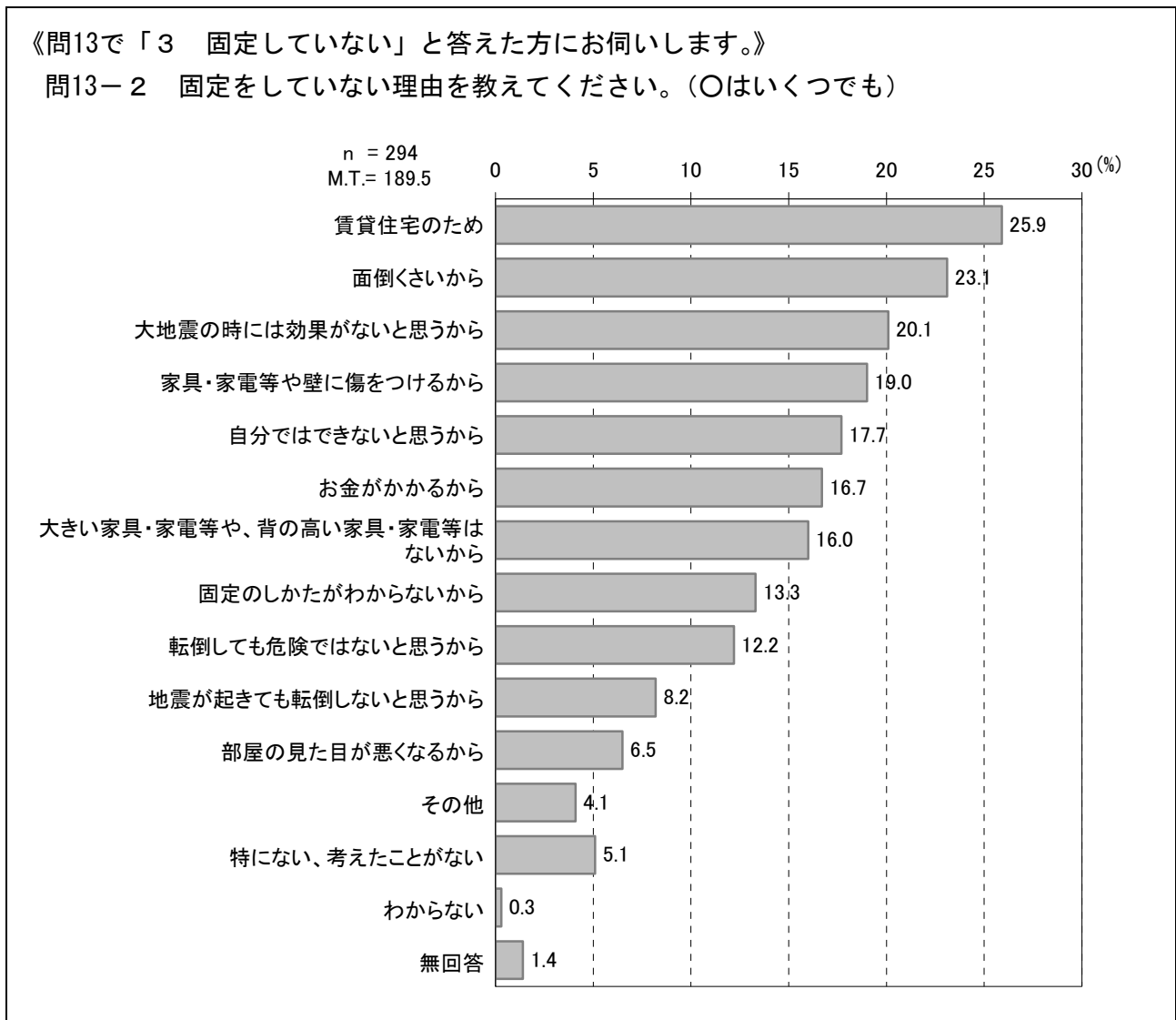
一方、「固定していない」は“電子レンジ・オーブン”(69.5%)と“冷蔵庫”(65.6%)で6割台と他の家具・家電に比べて高い割合となっている。

<参考：家具がある場合のみ>

問13の家具・家電のそれぞれについて、「対象の家具・家電等がない」及び「無回答」を除いて再集計をした。



(3) 家具・家電品・重量物を固定していない理由

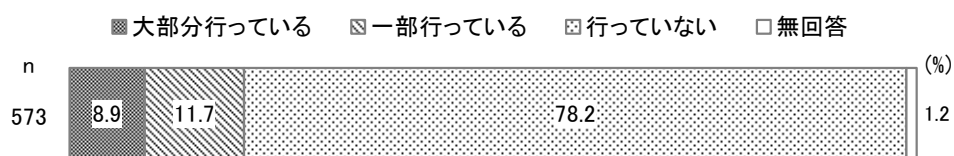


問13で「固定していない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「賃貸住宅のため」(25.9%)と「面倒くさいから」(23.1%)が2割台半ばと高くなっている。以下、「大地震の時には効果がないと思うから」(20.1%)、「家具・家電等や壁に傷をつけるから」(19.0%)、「自分ではできないと思うから」(17.7%)などの順となっている。

## 6 窓ガラスやブロック塀などの対策について

### (1) 窓ガラスの破損・飛散対策の実施

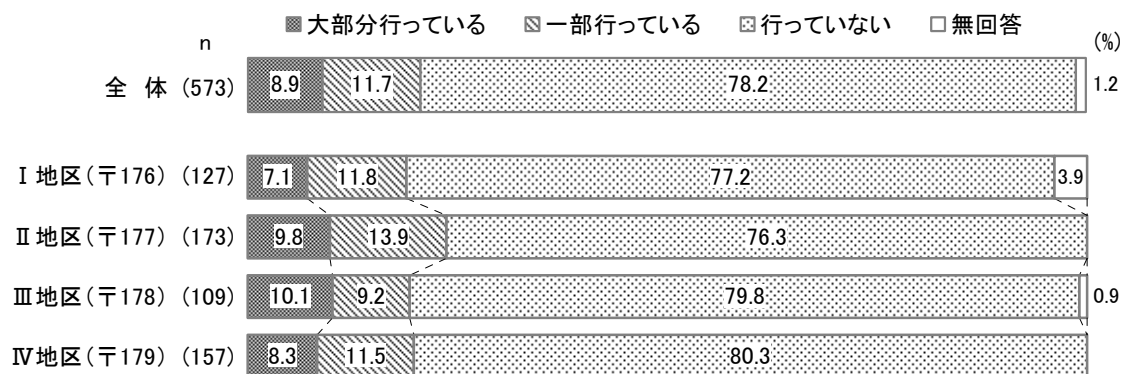
問14 あなたのお宅では、地震に備えて窓ガラスの破損・飛散を防ぐ対策を行っていますか。  
(○は1つ)



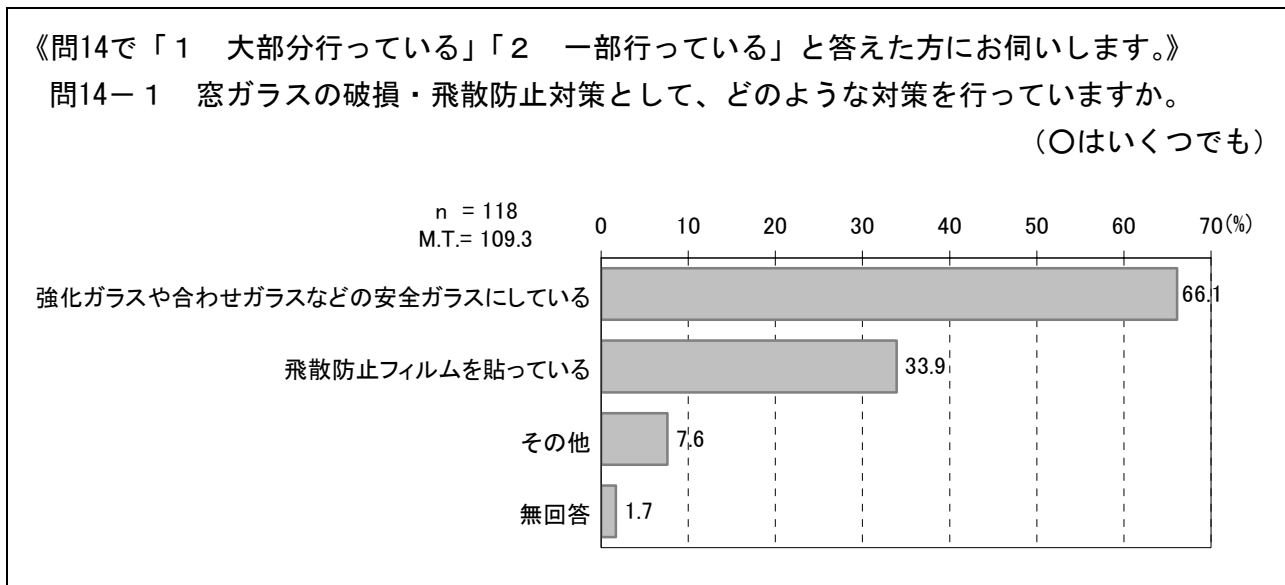
住宅で窓ガラスの破損・飛散対策を実施しているか聞いたところ、「行っていない」(78.2%)が約8割を占めている。以下、「一部行っている」(11.7%)、「大部分行っている」(8.9%)となっており、一部でも対策を行っている割合(20.6%)は、2割程度にとどまる。

地区別にみると、それほど大きな差はみられない。

#### 【地区別】



(2) 窓ガラスの破損・飛散対策として実施しているもの



問14で「大部分行っている」「一部行っている」と答えた方に、窓ガラスの破損・飛散対策として実施しているものを聞いたところ、「強化ガラスや合わせガラスなどの安全ガラスにしている」(66.1%)が6割台半ば、「飛散防止フィルムを貼っている」(33.9%)が3割台半ばとなっている。

地区別にみると、回答者数が少ないため取り扱いに注意する必要があるが、「強化ガラスや合わせガラスなどの安全ガラスにしている」はⅡ地区(70.7%)とⅢ地区(71.4%)で7割台となっており、「飛散防止フィルムを貼っている」はⅠ地区(62.5%)で6割を超えている。

【地区別】

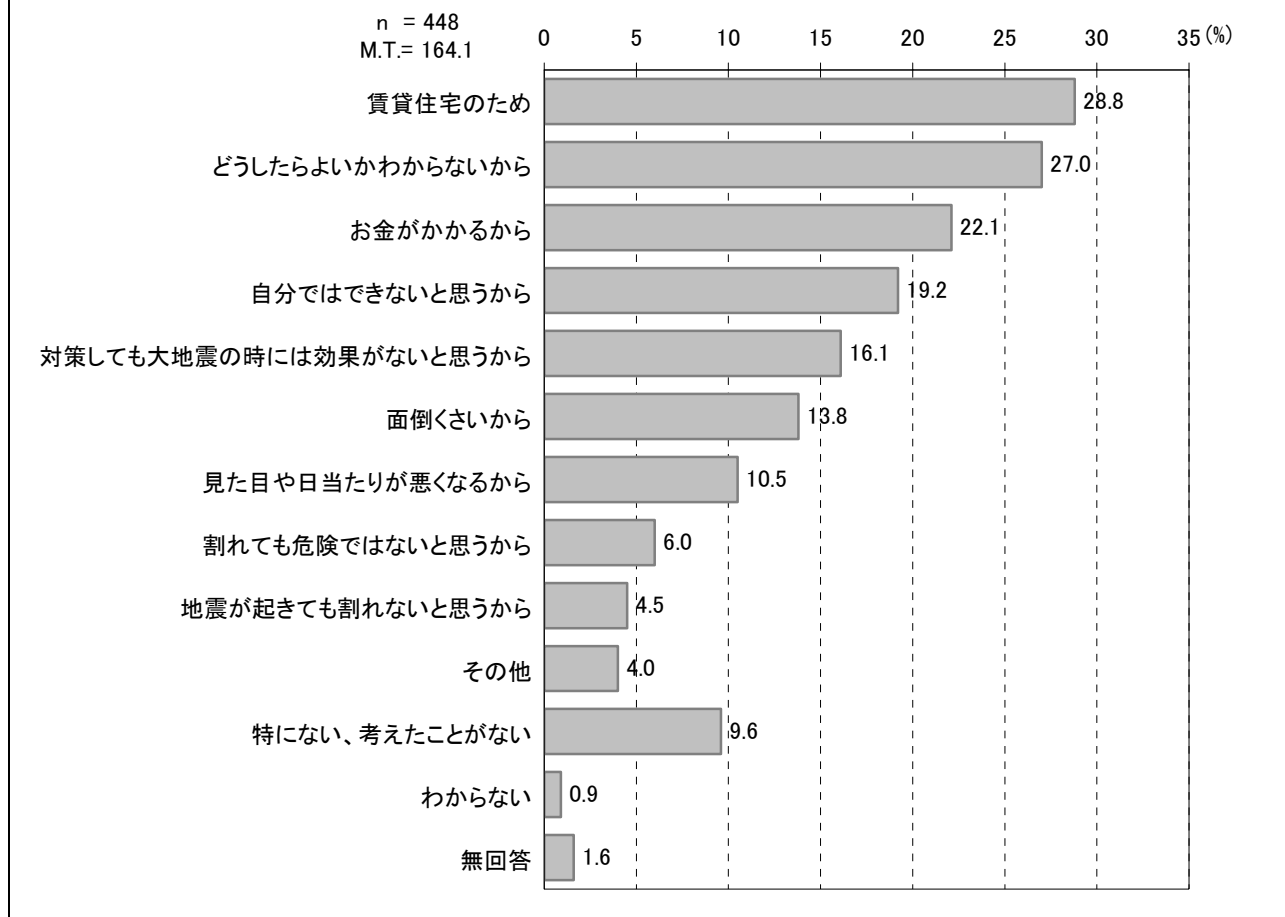
		n	強化ガラスや合わせガラスにしている (%)	飛散防止フィルムを貼っている (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体		118	66.1	33.9	7.6	1.7
地区別	Ⅰ地区(〒176)	24	50.0	62.5	8.3	0.0
	Ⅱ地区(〒177)	41	70.7	24.4	9.8	2.4
	Ⅲ地区(〒178)	21	71.4	23.8	4.8	4.8
	Ⅳ地区(〒179)	31	67.7	32.3	6.5	0.0

## (3) 窓ガラスの破損・飛散対策を行っていない理由

《問14で「3 行っていない」と答えた方にお伺いします。》

問14-2 窓ガラスの破損・飛散を防ぐ対策を行っていない理由を教えてください。

(○はいくつでも)



問14で「行っていない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「賃貸住宅のため」(28.8%)と「どうしたらよいかわからないから」(27.0%)で約3割と高くなっている。以下、「お金がかかるから」(22.1%)、「自分ではできないと思うから」(19.2%)、「対策しても大地震の時には効果がないと思うから」(16.1%)などの順となっている。

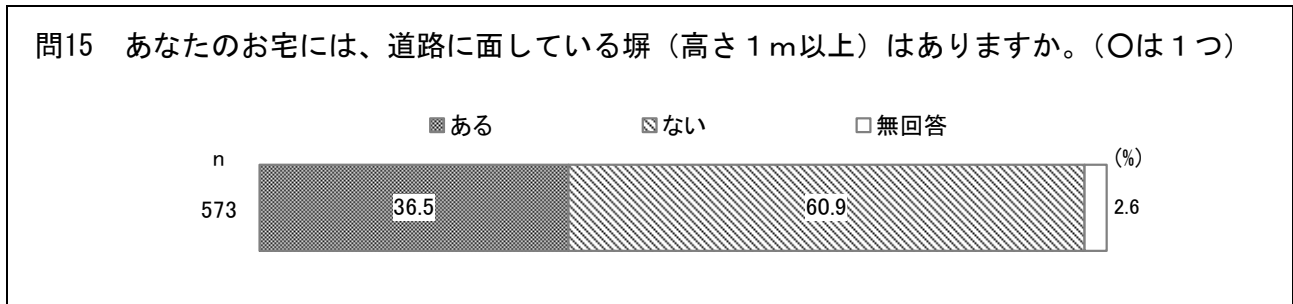
地区別にみると、「賃貸住宅のため」はⅣ地区（39.7%）で約4割となっている。「どうしたらよいかわからないから」はⅠ地区（31.6%）で3割を超えている。「対策しても大地震の時には効果がないと思うから」はⅢ地区（26.4%）で2割台半ばとなっている。

【地区別】

		(%)													
		n	賃貸住宅のため	どうしたらよいかわからないから	お金がかかるから	自分ではできないと思うから	対策しても大地震の時には効果がないと思うから	面倒くさいから	見た目や日当たりが悪くなるから	割れても危険ではないと思うから	地震が起きても割れないと思うから	その他	特にない、考えたことが	わからない	無回答
全 体		448	28.8	27.0	22.1	19.2	16.1	13.8	10.5	6.0	4.5	4.0	9.6	0.9	1.6
地区別	Ⅰ地区(〒176)	98	31.6	31.6	22.4	20.4	12.2	13.3	11.2	8.2	2.0	5.1	9.2	0.0	2.0
	Ⅱ地区(〒177)	132	27.3	27.3	24.2	18.9	12.9	14.4	11.4	5.3	7.6	3.0	7.6	0.8	1.5
	Ⅲ地区(〒178)	87	13.8	25.3	20.7	19.5	26.4	10.3	13.8	4.6	1.1	4.6	14.9	3.4	1.1
	Ⅳ地区(〒179)	126	39.7	25.4	20.6	18.3	13.5	16.7	6.3	4.8	5.6	4.0	8.7	0.0	1.6



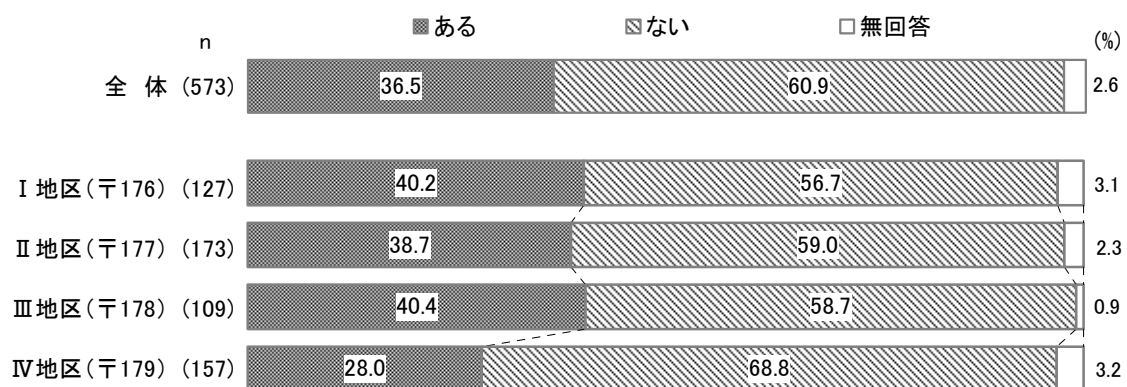
## (4) 道路に面している塀の有無



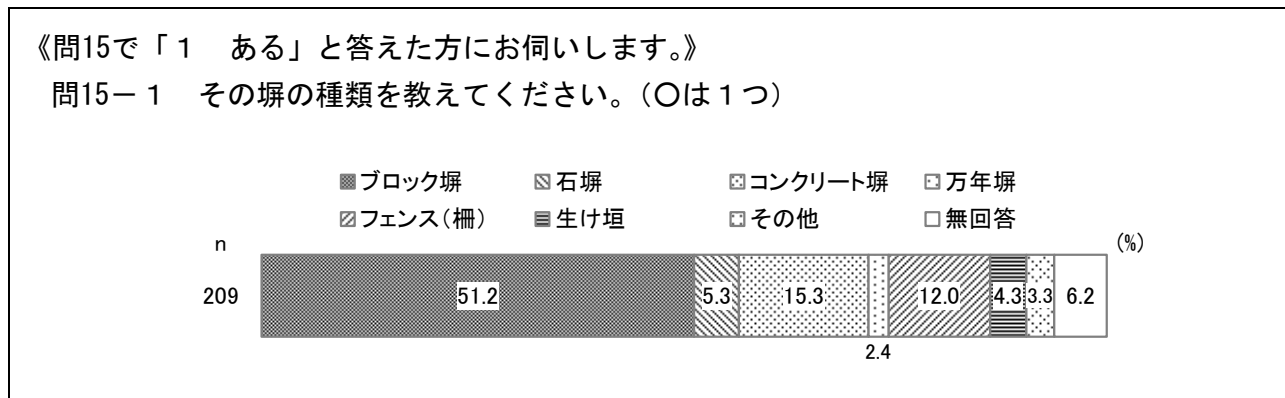
住宅に道路に面している塀があるか聞いたところ、「ない」(60.9%)は約6割、「ある」(36.5%)は3割台半ばとなっている。

地区別にみると、「ある」はIV地区を除いて4割前後となっており、IV地区(28.8%)では他の地区に比べて、道路に面している塀がやや少ない結果となっている。

## 【地区別】



(5) 道路に面している塀の種類

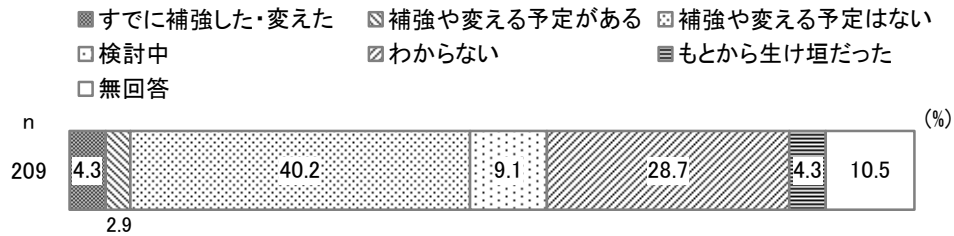


問15で「ある」と答えた方に、その塀の種類を聞いたところ、「ブロック塀」(51.2%)が5割を超えて最も高くなっている。以下、「コンクリート塀」(15.3%)、「フェンス(柵)」(12.0%)などの順となっている。

## (6) ブロック塀や石塀、門柱などの補強・変更予定

《問15で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

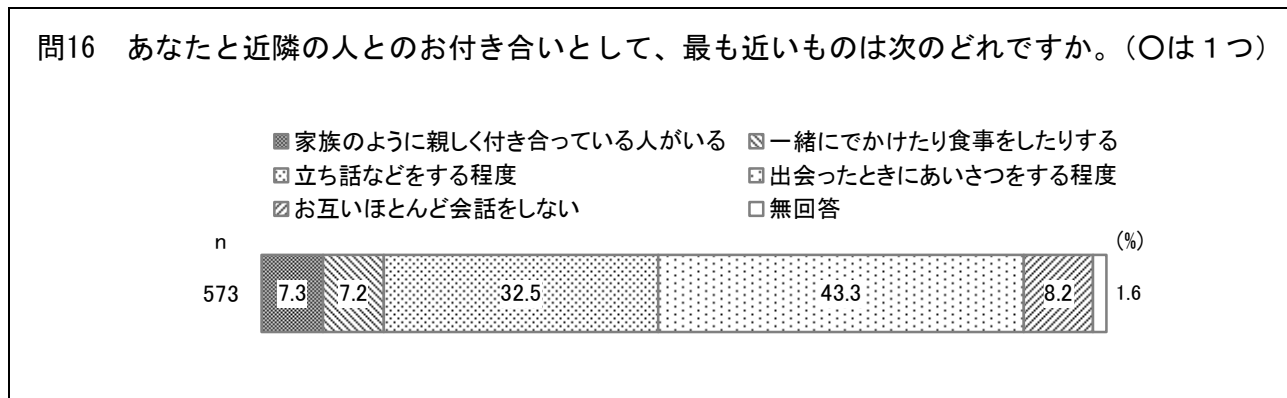
問15-2 あなたのお宅では、今後ブロック塀や石塀、門柱などを補強したり生け垣などに変える予定はありますか。(〇は1つ)



問15で「ある」と答えた方に、今後ブロック塀や石塀、門柱などの補強や変更をする予定があるか聞いたところ、「補強や変える予定はない」(40.2%)が約4割と最も高くなっている。以下、「わからない」(28.7%)、「検討中」(9.1%)などの順となっている。「すでに補強した・変えた」(4.3%)及び「補強や変える予定がある」(2.9%)の割合は低くなっている。

## 7 地域との関わり合いや地域協力について

### (1) 近隣の人との付き合い



近隣の人との付き合いの程度を聞いたところ、「出会ったときにあいさつをする程度」(43.3%)が4割台半ばと最も高くなっている。以下、「立ち話などをする程度」(32.5%)、「お互いほとんど会話をしない」(8.2%)、「家族のように親しく付き合っている人がいる」(7.3%)、「一緒にでかけたり食事をしたりする」(7.2%)の順となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家族のように親しく付き合っている人がいる」は2.4ポイント、「一緒にでかけたり食事をしたりする」は4.7ポイント高くなっており、女性の方が近所の人と深く付き合っていることがうかがえる。一方、「出会ったときにあいさつをする程度」は男性(49.1%)が女性(39.2%)よりも9.9ポイント高くなっている。

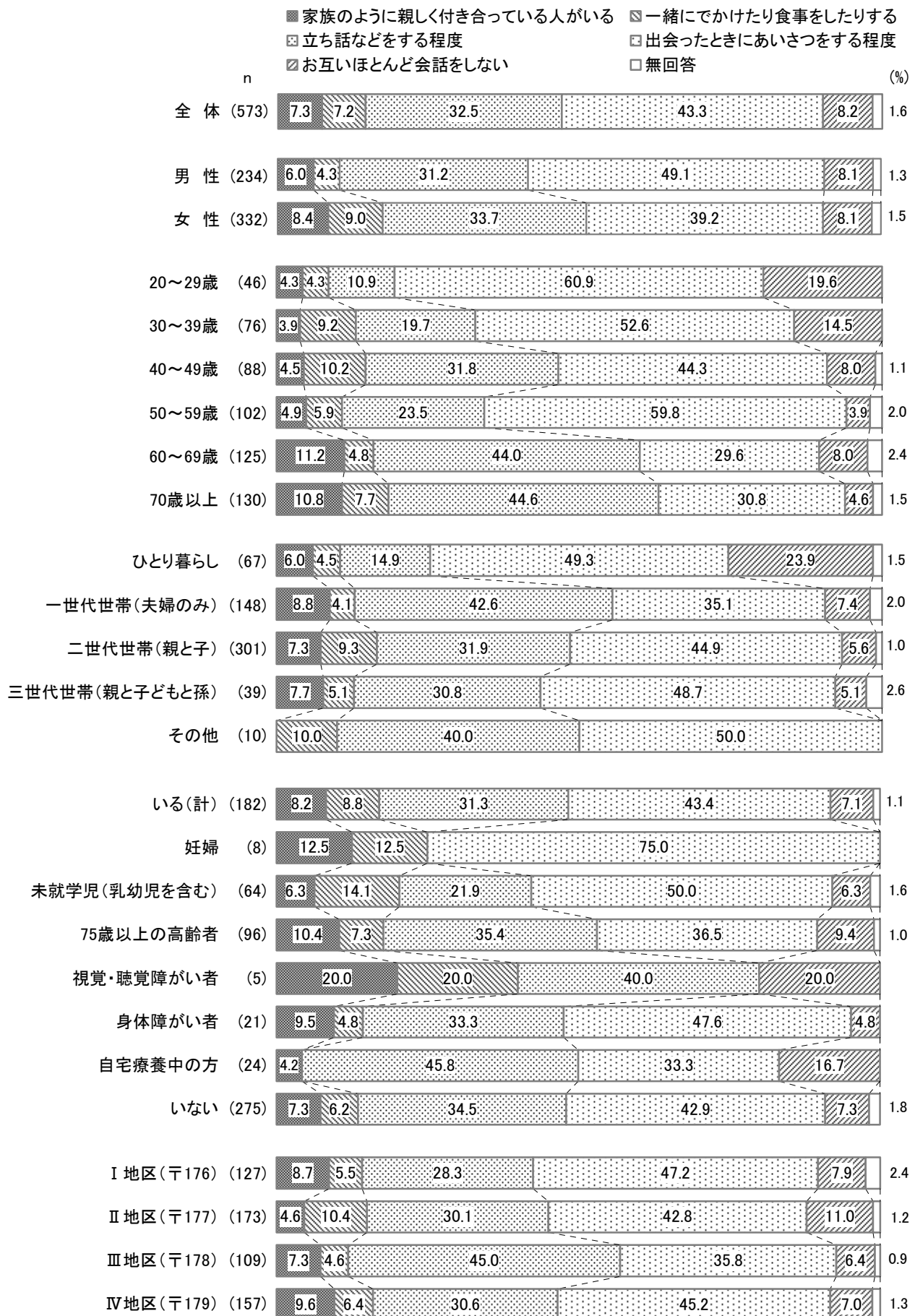
年齢別にみると、「出会ったときにあいさつをする程度」は20歳代(60.9%)と50歳代(59.8%)で6割前後、「立ち話などをする程度」は60歳以上で4割台半ばとなっており、他の年代よりも高い割合となっている。また、「お互いほとんど会話をしない」は、凹凸はあるが、年代が低くなるほど高い割合になる傾向がみられる。

家族構成別にみると、「出会ったときにあいさつをする程度」はひとり暮らし(49.3%)と三世帯世帯(親と子どもと孫)(48.7%)で約5割となっている。「立ち話などをする程度」は一世帯世帯(夫婦のみ)(42.6%)で4割を超えている。「お互いほとんど会話をしない」はひとり暮らし(23.9%)で2割台半ばとなっている。ひとり暮らしの方は、近所付き合いが希薄である割合が高くなっている。

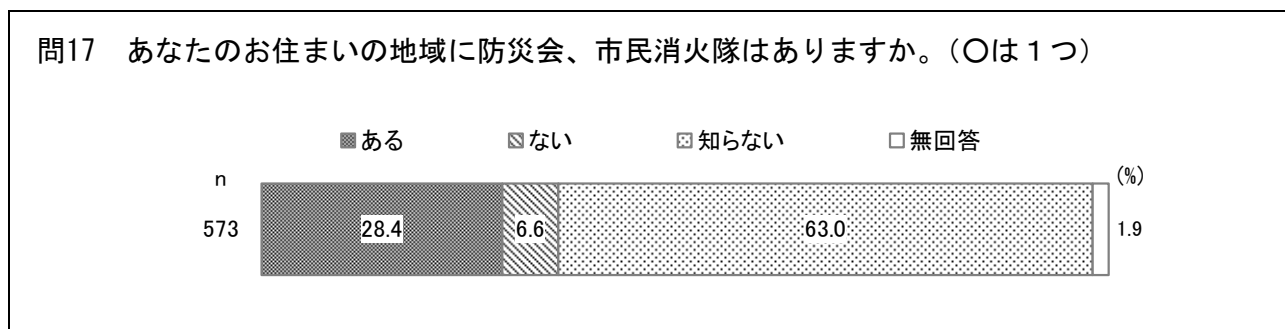
災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、「立ち話などをする程度」がⅢ地区(45.0%)で4割半ばとなっている。

【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(2) 居住地域の防災会、市民消火隊の有無



居住地域に防災会、市民消火隊があるか聞いたところ、「ある」(28.4%)が約3割、「ない」(6.6%)が1割未満となっており、「知らない」(63.0%)が過半を占めている。防災会や市民消火隊の地域住民への浸透が十分でないことがうかがえる。

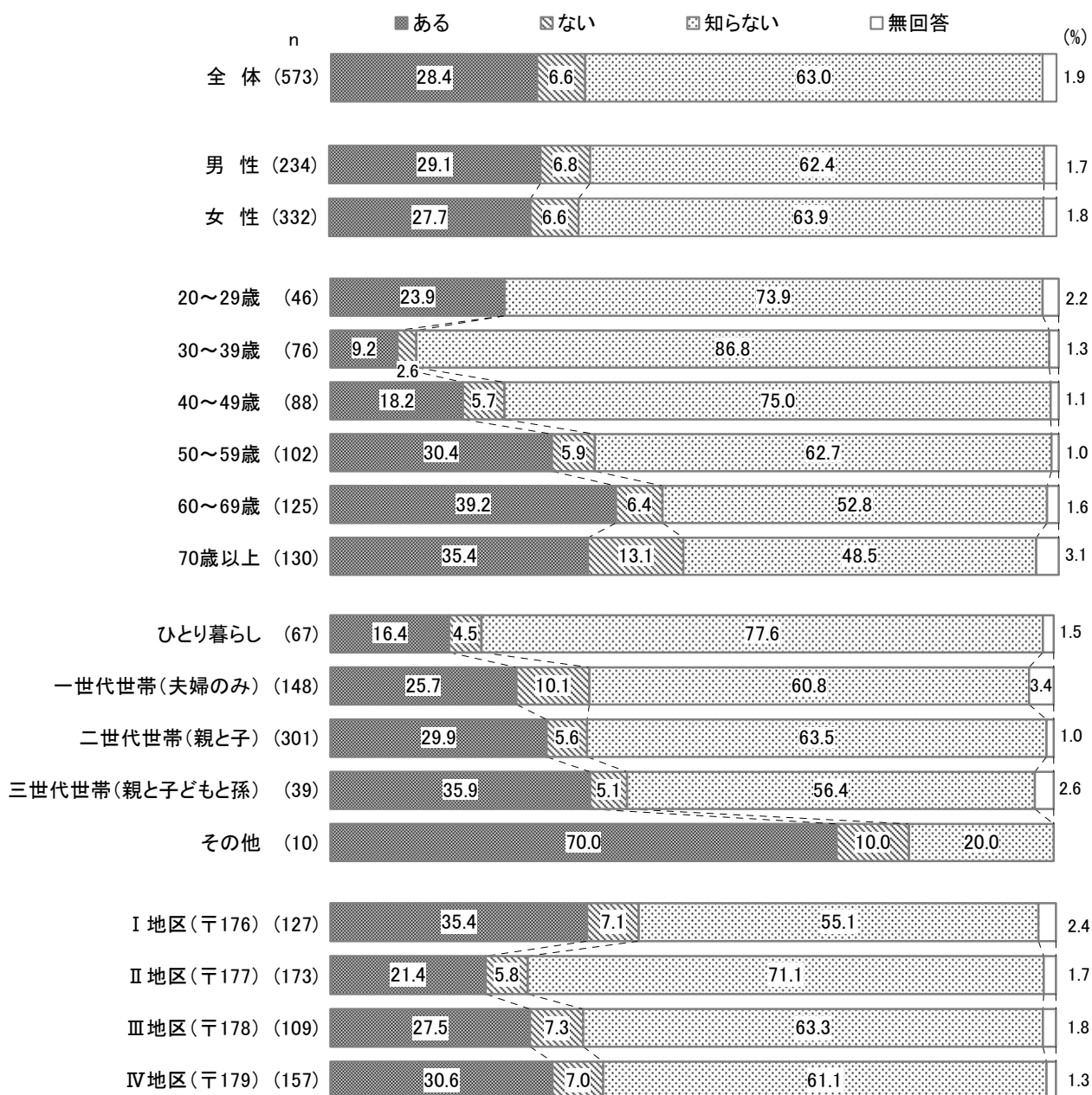
性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「知らない」は30歳代（86.8%）で8割台半ばとなっており、認知率が低いことがうかがえる。「ある」は60歳代（39.2%）で約4割となっている。30～60歳代では、年代が上がるほど、防災会や市民消火隊の認知率が上がる傾向がみられる。

家族構成別にみると、「知らない」はひとり暮らし（77.6%）で約8割となっており、認知率が低いことがうかがえる。「ある」は三世代世帯（親と子どもと孫）（35.9%）で3割台半ばとなっている。

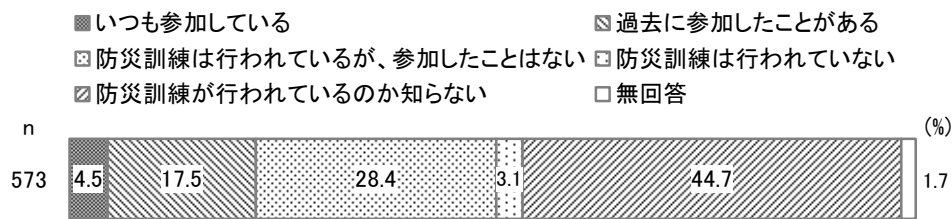
地区別にみると、「知らない」はⅡ地区（71.1%）で7割を超え、認知率が低いことがうかがえる。

【性別、年齢別、家族構成別、地区別】



(3) 自主的な防災訓練への参加経験

問18 防災会や避難拠点運営連絡会、町会・自治会などによる自主的な防災訓練が行われていることがあります。あなたは、このような活動に参加したことがありますか。(〇は1つ)



防災会や避難拠点運営連絡会、町会・自治会などによる自主的な防災訓練に参加したことがあるか聞いたところ、「いつも参加している」(4.5%)と「過去に参加したことがある」(17.5%)を合わせた『参加経験がある』は22.0%にとどまり、訓練経験者は全体の約2割程度である。

一方、「防災訓練は行われているが、参加したことはない」(28.4%)は約3割、「防災訓練が行われているのか知らない」(44.7%)は4割台半ばとなっている。

性別にみると、『参加経験がある』割合は、大きな差はみられない。また、「防災訓練は行われているが、参加したことはない」は女性(33.7%)が男性(20.9%)よりも12.8ポイント高く、「防災訓練が行われているのか知らない」は男性(51.3%)が女性(40.1%)よりも11.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『参加経験がある』は60歳以上で3割前後となっている。「防災訓練が行われているのか知らない」は年代が下がるほど割合は高くなっており、20歳代(80.4%)で約8割となっている。

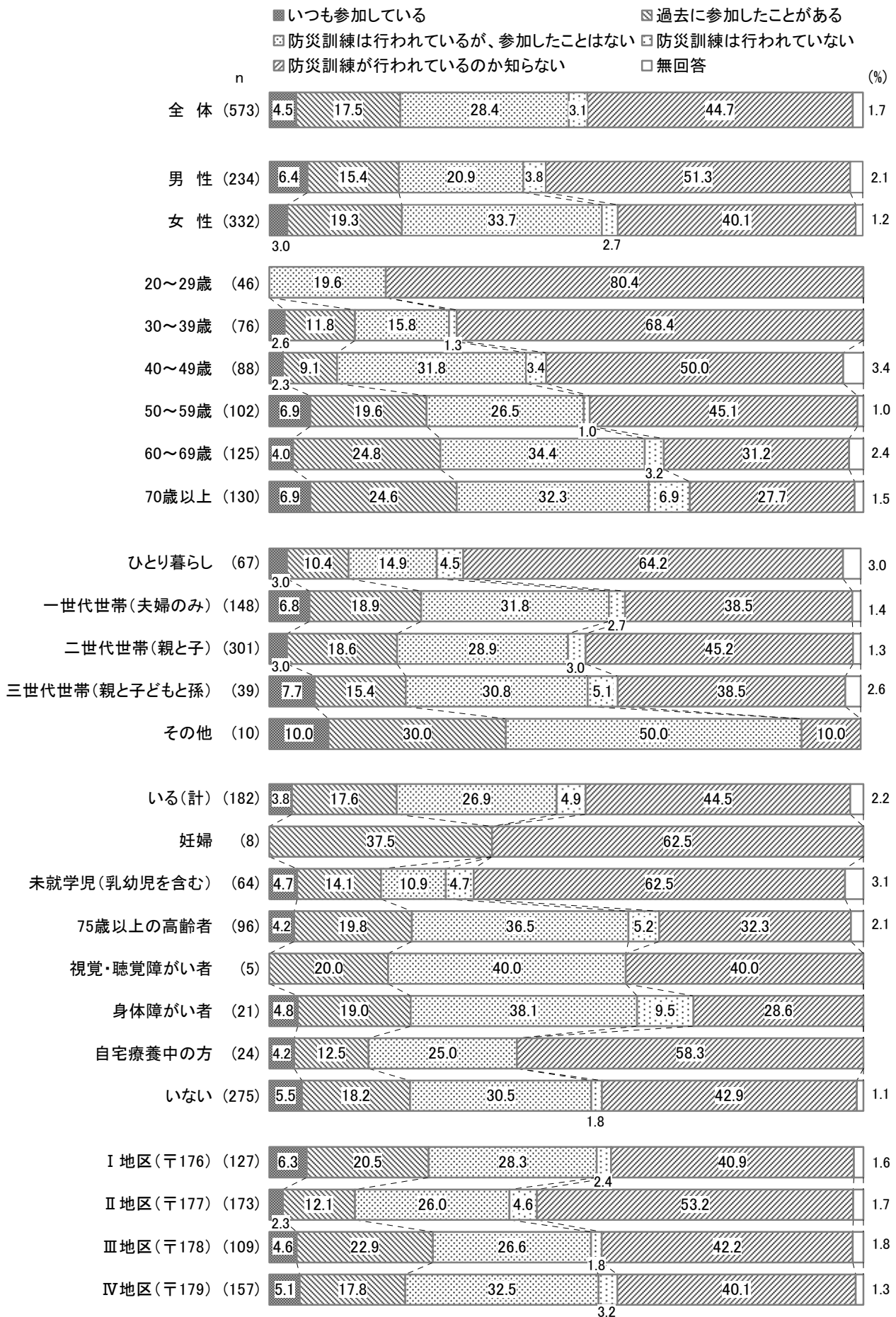
家族構成別にみると、『参加経験がある』はひとり暮らし(13.4%)で低く、他の世帯では2割台となっている。「防災訓練が行われているのか知らない」はひとり暮らし(64.2%)で6割台半ばと高い割合となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、『参加経験がある』はII地区を除いて2割台となっているが、II地区(14.4%)では1割台半ばと、参加経験がある割合がやや低い。「防災訓練が行われているのか知らない」はII地区(53.2%)で5割台半ばと過半を占め、他の地区よりも1割以上高い割合となっている。



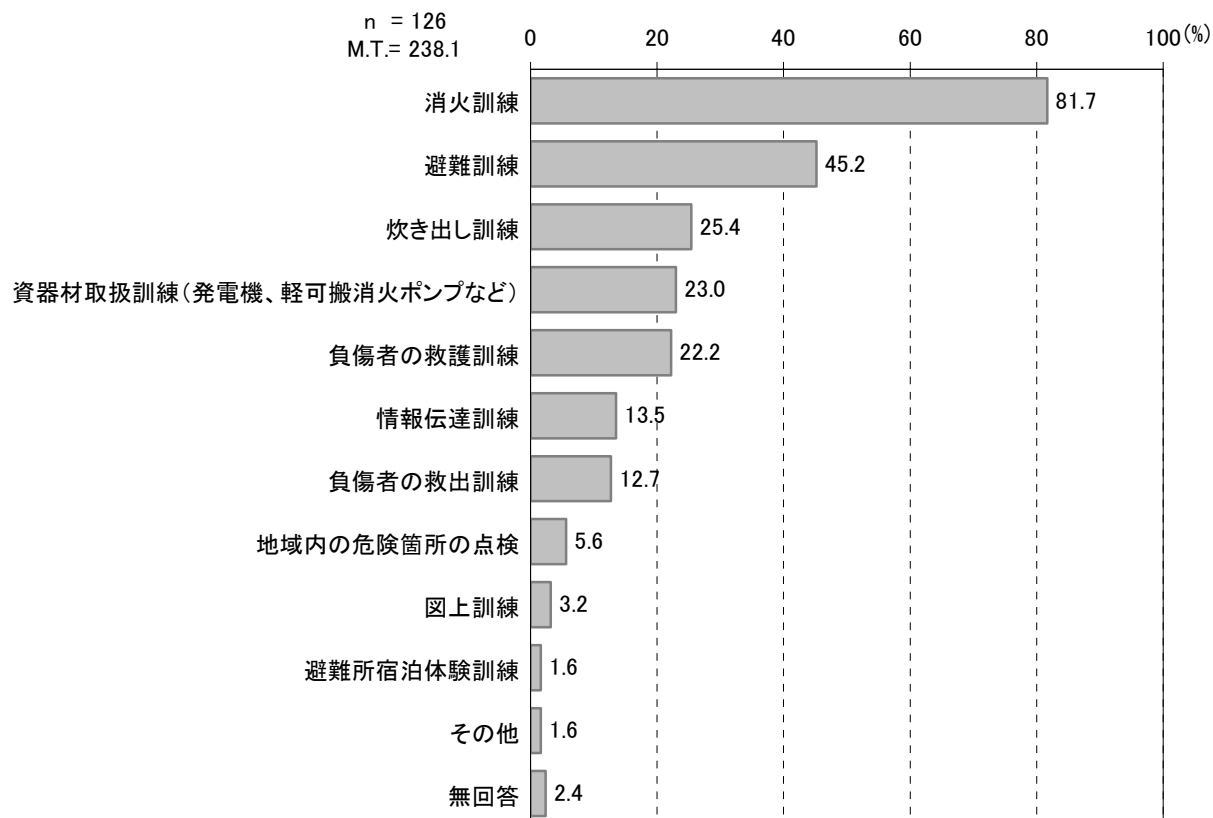
【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(4) 参加したことがある防災訓練

《問18で「1 いつも参加している」「2 過去に参加したことがある」と答えた方にお伺いします。》

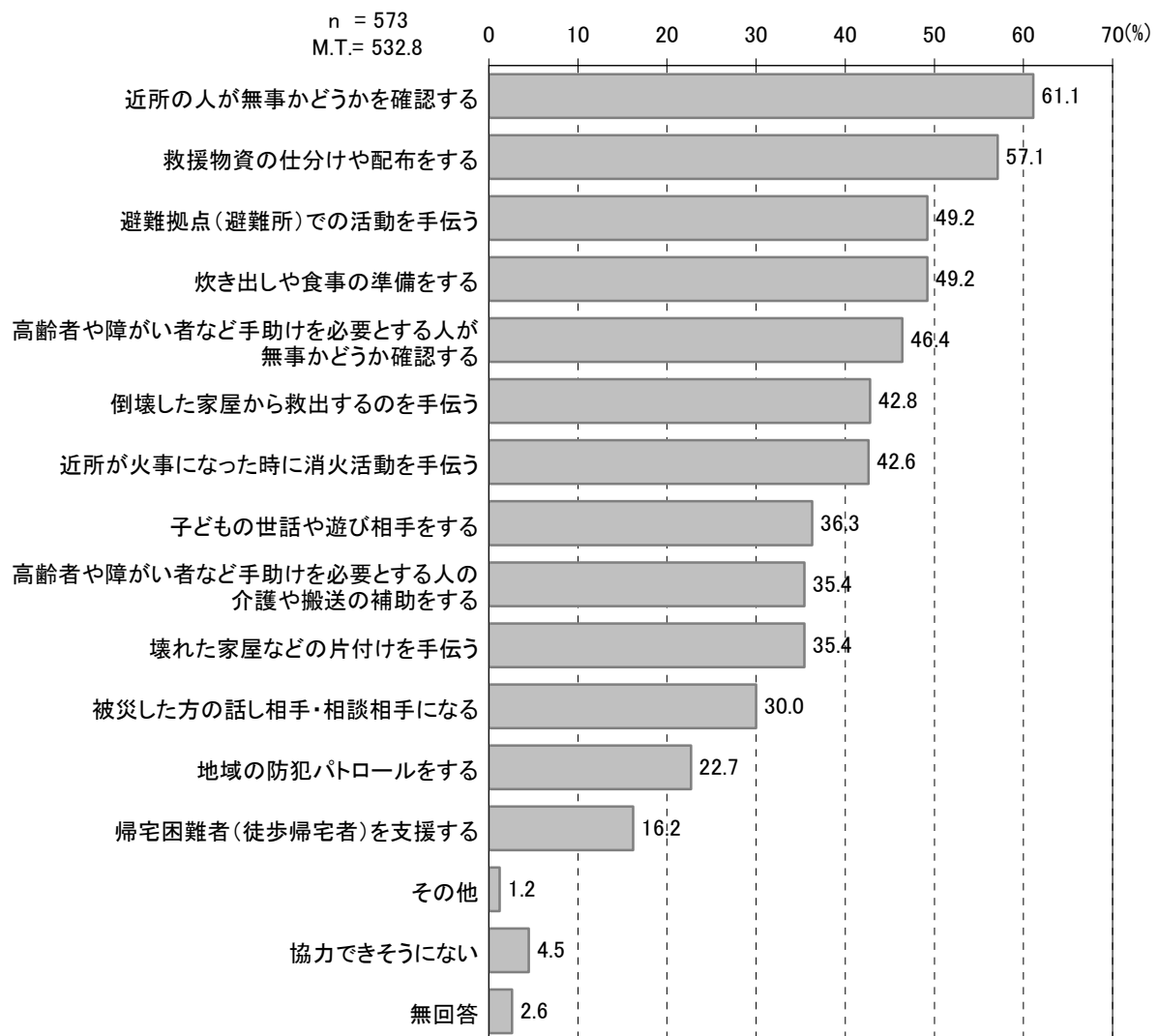
問18-1 あなたはどのような防災訓練に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)



問18で「いつも参加している」「過去に参加したことがある」と答えた方に、どのような防災訓練に参加したか聞いたところ、「消火訓練」(81.7%)が8割を超えて最も高く、次いで「避難訓練」(45.2%)となっている。また、「炊き出し訓練」(25.4%)、「資器材取扱訓練(発電機、軽可搬消火ポンプなど)」(23.0%)、「負傷者の救護訓練」(22.2%)が2割台となっている。

## (5) 災害発生時に協力できそうな防災活動

問19 災害が発生した場合、あなたが協力できそうだと思う地域での防災活動をあげてください。  
あなたご自身や家族の安全はおおむね確保されているものとします。(〇はいくつでも)



災害が発生した場合、協力できそうだと思う地域での防災活動を聞いたところ、「近所の人が無事かどうかを確認する」(61.1%)が6割を超えて最も高くなっている。以下、「救援物資の仕分けや配布をする」(57.1%)、「避難拠点(避難所)での活動を手伝う」と「炊き出しや食事の準備をする」(ともに49.2%)などの順となっている。

性別にみると、「炊き出しや食事の準備をする」と「子どもの世話や遊び相手をする」は女性が男性よりも大幅に高くなっている。「倒壊した家屋から救出するのを手伝う」「近所が火事になった時に消火活動を手伝う」「高齢者や障がい者など手助けを必要とする人の介護や搬送の補助をする」「壊れた家屋などの片付けを手伝う」「地域の防犯パトロールをする」は男性が女性よりも大幅に高くなっている。

年齢別にみると、「近所の人が無事かどうかを確認する」は50歳代（67.6%）で約7割となっている。「救援物資の仕分けや配布をする」は20歳代（76.1%）で7割台半ばとなっている。「避難拠点（避難所）での活動を手伝う」と「炊き出しや食事の準備をする」はともに20歳代（それぞれ63.0%、65.2%）で6割台半ばとなっている。

地区別にみると、「炊き出しや食事の準備をする」はⅡ地区（41.6%）でやや低く、他の地区では5割台半ばとなっている。

【性別、年齢別、地区別】

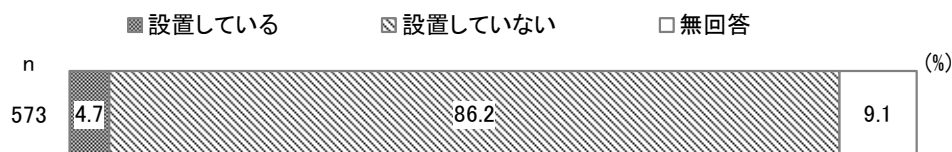
		n	近所の人が無事かどうかを確認する	救援物資の仕分けや配布をする	避難拠点（避難所）での活動を手伝う	炊き出しや食事の準備をする	高齢者や障がい者など手助けを必要とする人が無事かどうかを確認する	倒壊した家屋から救出するのを手伝う	近所が火事になった時に消火活動を手伝う	子どもの世話や遊び相手をする	高齢者や障がい者など手助けを必要とする人の介護や搬送の補助をする	壊れた家屋などの片付けを手伝う	被災した方の話し相手・相談相手になる	地域の防犯パトロールをする	帰宅困難者（徒歩帰宅者）を支援する	その他	協力できそうにない	無回答
全体		573	61.1	57.1	49.2	49.2	46.4	42.8	42.6	36.3	35.4	35.4	30.0	22.7	16.2	1.2	4.5	2.6
性別	男性	234	64.5	56.0	44.4	31.2	49.1	61.5	59.0	24.4	43.6	48.3	21.8	35.9	17.9	0.9	4.7	2.1
	女性	332	58.7	58.4	53.3	62.3	44.0	29.8	31.3	44.9	29.2	26.8	36.4	13.9	15.1	1.5	4.5	2.7
年齢別	20～29歳	46	50.0	76.1	63.0	65.2	45.7	39.1	41.3	63.0	34.8	41.3	34.8	19.6	15.2	4.3	2.2	0.0
	30～39歳	76	59.2	69.7	60.5	60.5	44.7	39.5	34.2	61.8	28.9	43.4	36.8	28.9	15.8	1.3	0.0	0.0
	40～49歳	88	62.5	63.6	55.7	55.7	45.5	55.7	50.0	47.7	36.4	42.0	35.2	26.1	20.5	1.1	2.3	3.4
	50～59歳	102	67.6	57.8	58.8	53.9	57.8	46.1	45.1	30.4	46.1	36.3	29.4	26.5	14.7	1.0	5.9	2.0
	60～69歳	125	60.0	61.6	44.8	47.2	45.6	43.2	48.8	24.8	33.6	37.6	28.0	23.2	14.4	0.8	4.8	2.4
	70歳以上	130	60.8	35.4	31.5	32.3	38.5	34.6	35.4	20.0	30.8	22.3	24.6	15.4	16.9	0.8	8.5	4.6
地区別	I地区(〒176)	127	63.0	58.3	51.2	53.5	47.2	37.8	45.7	38.6	37.0	38.6	26.8	23.6	17.3	2.4	1.6	2.4
	II地区(〒177)	173	60.7	51.4	48.0	41.6	45.7	42.8	43.4	33.5	31.2	30.1	25.4	17.3	16.2	2.3	5.8	3.5
	III地区(〒178)	109	61.5	60.6	50.5	53.2	47.7	47.7	45.0	35.8	37.6	43.1	36.7	22.9	18.3	0.0	5.5	3.7
	IV地区(〒179)	157	59.9	61.8	49.7	52.9	44.6	43.9	38.2	38.2	36.3	34.4	34.4	28.7	14.0	0.0	4.5	0.6

## 8 大地震が起きたときの行動について

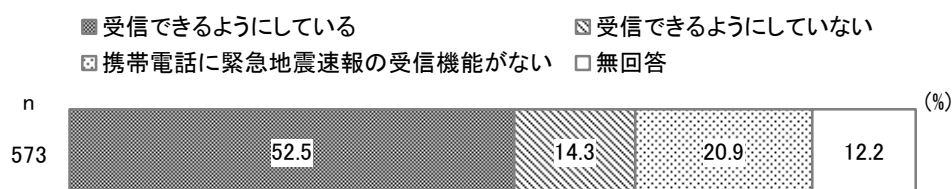
### (1) 緊急地震速報受信装置

問20 あなたのお宅には、緊急地震速報の専用の受信装置（テレビ・ラジオは該当しません）を設置していますか。また、携帯電話で緊急地震速報を受信できるようにしていますか。（○はそれぞれ1つ）

#### <緊急地震速報専用の受信装置の設置>



#### <携帯電話での緊急地震速報の受信>



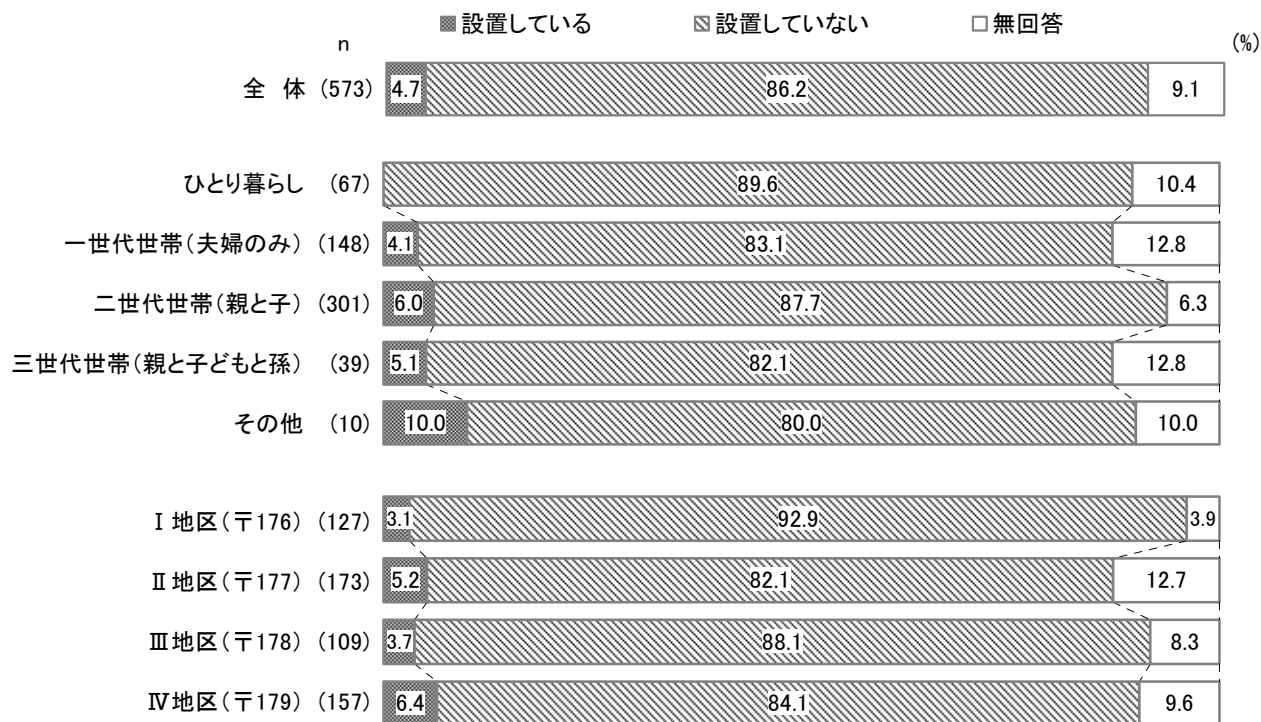
緊急地震速報の専用の受信装置を設置しているか聞いたところ、「設置していない」（86.2%）が8割台半ば、「設置している」（4.7%）が極めて低く、1割未満となっている。

携帯電話で緊急地震速報を受信できるようにしているか聞いたところ、「受信できるようにしている」（52.5%）が5割を超えて過半を占めている。以下、「携帯電話に緊急地震速報の受信機能がない」（20.9%）、「受信できるようにしていない」（14.3%）の順となっている。

緊急地震速報専用の受信装置の設置を家族構成別にみると、「設置している」割合は、家族がいる世帯で若干みられる。

地区別にみると、「設置している」割合は、大きな差はみられない。一方、「設置していない」はI地区（92.9%）で9割を超えている。

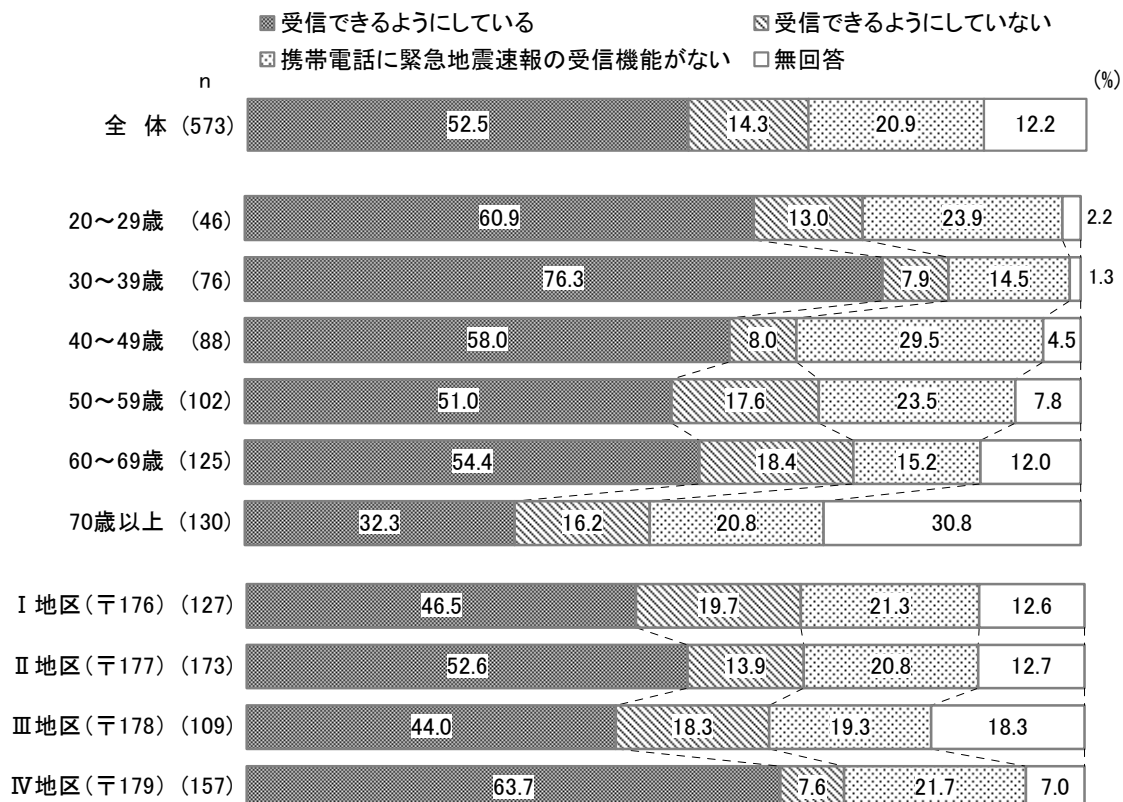
【緊急地震速報専用の受信装置の設置 — 家族構成別、地区別】



携帯電話での緊急地震速報の受信を年齢別にみると、「受信できるようにしている」は30～39歳（76.3%）で7割台半ばと高く、70歳以上（32.3%）では3割台と低い割合となっている。

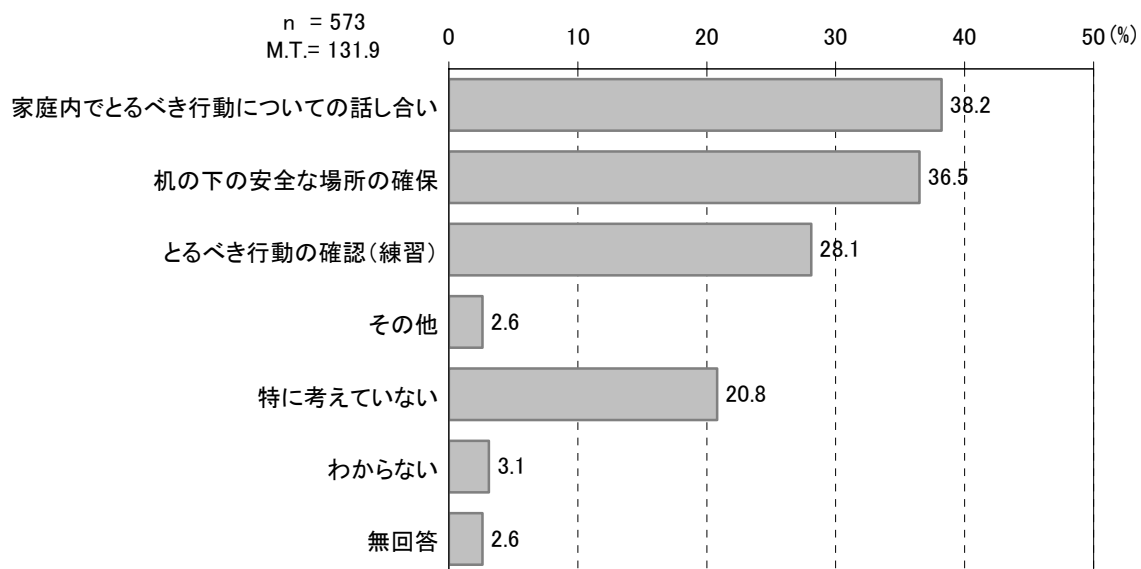
地区別にみると、「受信できるようにしている」はIV地区（63.7%）で6割台半ばと他地区に比べて高い割合となっている。「受信できるようにしていない」はI地区（19.7%）とIII地区（18.3%）で約2割となっている。

【携帯電話での緊急地震速報の受信 — 年齢別、地区別】



(2) 緊急地震速報受信時に対する準備

問21 緊急地震速報はテレビでも伝えられますが、あなたは、緊急地震速報を見聞きした場合を想定して、どのような準備をしておこうと考えていますか。(〇はいくつでも)



緊急地震速報を見聞きした場合を想定して、どのような準備をしておこうと考えているか聞いたところ、「家庭内でとるべき行動についての話し合い」(38.2%)が約4割と最も高くなっている。以下、「机の下の安全な場所の確保」(36.5%)、「とるべき行動の確認(練習)」(28.1%)、「特に考えていない」(20.8%)などの順となっている。



性別にみると、「家庭内でとるべき行動についての話し合い」「机の下の安全な場所の確保」「とるべき行動の確認（練習）」はいずれも女性が男性よりも5ポイント前後高くなっている。一方、「特に考えていない」は男性（28.6%）が女性（15.4%）よりも13.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「家庭内でとるべき行動についての話し合い」は40歳代（43.2%）と60歳代（44.8%）で4割台半ばとなっている。「机の下の安全な場所の確保」は30歳代から60歳代で4割前後となっている。「とるべき行動の確認（練習）」は30歳代（32.9%）と50歳代（35.3%）で3割台となっている。また、20歳代では、他の年代に比べて「特に考えていない」（37.0%）が高い割合となっている。

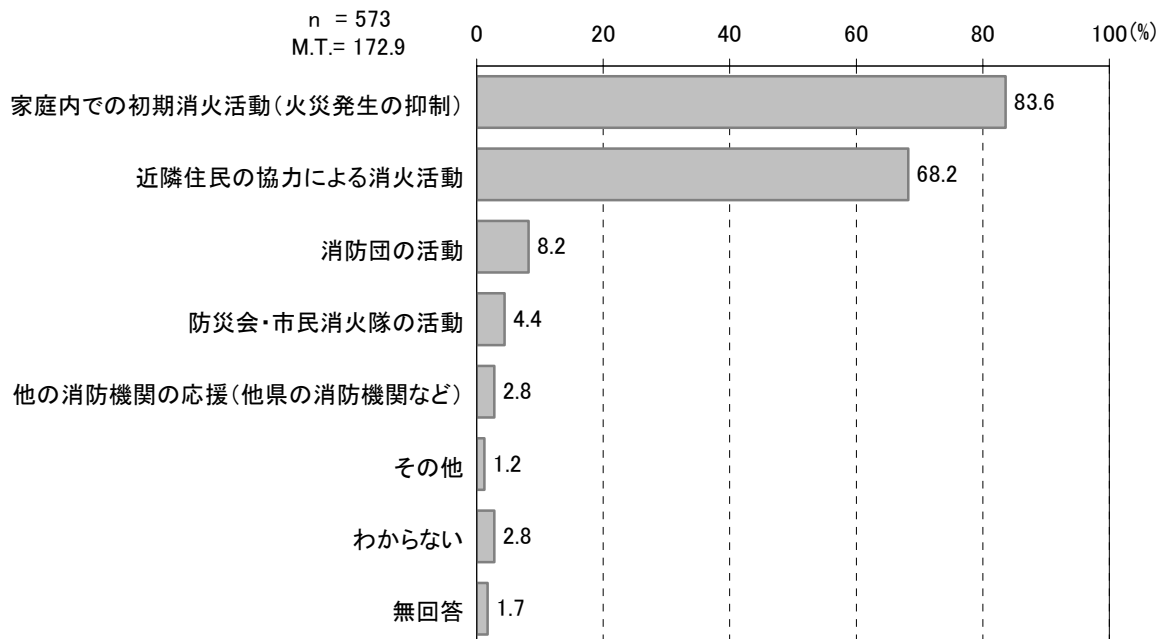
災害時要援護者の有無別にみると、「とるべき行動の確認（練習）」は災害時要援護者が家族に“いない”と回答した人（31.6%）が“いる”と回答した人（25.3%）よりも6.3ポイント高くなっており、災害時要援護者が家族にいても、とるべき行動の確認（練習）をしている家庭は多くない。

### 【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別】

		n	のき家 話行 し動 内 合 に で い つ と い る て べ	場 机 所 の 下 確 の 保 安 な	確 と る べ き 行 動 の （ 練 習 ）	そ の 他	い 特 に 考 え て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		573	38.2	36.5	28.1	2.6	20.8	3.1	2.6
性 別	男 性	234	35.5	32.5	25.6	3.4	28.6	2.6	1.3
	女 性	332	40.7	39.2	30.1	2.1	15.4	3.6	3.3
年 齢 別	20～29歳	46	26.1	32.6	28.3	2.2	37.0	2.2	0.0
	30～39歳	76	36.8	39.5	32.9	3.9	19.7	3.9	1.3
	40～49歳	88	43.2	38.6	29.5	1.1	18.2	2.3	1.1
	50～59歳	102	36.3	39.2	35.3	3.9	17.6	3.9	2.0
	60～69歳	125	44.8	40.0	24.8	1.6	20.8	0.8	2.4
	70歳以上	130	36.2	29.2	22.3	3.1	20.0	5.4	5.4
災 害 時 要 援 護 者 の 有 無 別	いる(計)	182	44.0	35.7	25.3	2.7	18.1	2.2	3.3
	妊婦	8	62.5	25.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	未就学児(乳幼児を含む)	64	50.0	37.5	40.6	3.1	17.2	0.0	3.1
	75歳以上の高齢者	96	38.5	34.4	16.7	3.1	20.8	4.2	3.1
	視覚・聴覚障がい者	5	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	身体障がい者	21	57.1	38.1	28.6	0.0	9.5	4.8	4.8
	自宅療養中の方	24	29.2	25.0	16.7	8.3	20.8	8.3	4.2
	いない	275	42.5	37.1	31.6	2.9	20.4	2.9	1.5

(3) 大地震による火災発生時、被害を最小限に抑えるために重要なこと

問22 大地震により火災が多数発生した場合、消防隊が不足し、到着が遅れる可能性があります。被害を最小限に抑えるために、重要だと思うことを教えてください。(〇は2つまで)



大地震による火災発生時に、被害を最小限に抑えるために重要だと思うことを聞いたところ、「家庭内での初期消火活動(火災発生の抑制)」(83.6%)が8割台半ばと最も高くなっている。次いで「近隣住民の協力による消火活動」(68.2%)となっており、自助及び共助の中でもより身近なご近所同士による消火活動を重要視していることがうかがえる。その他の活動等については、1割未満と低い割合となっている。

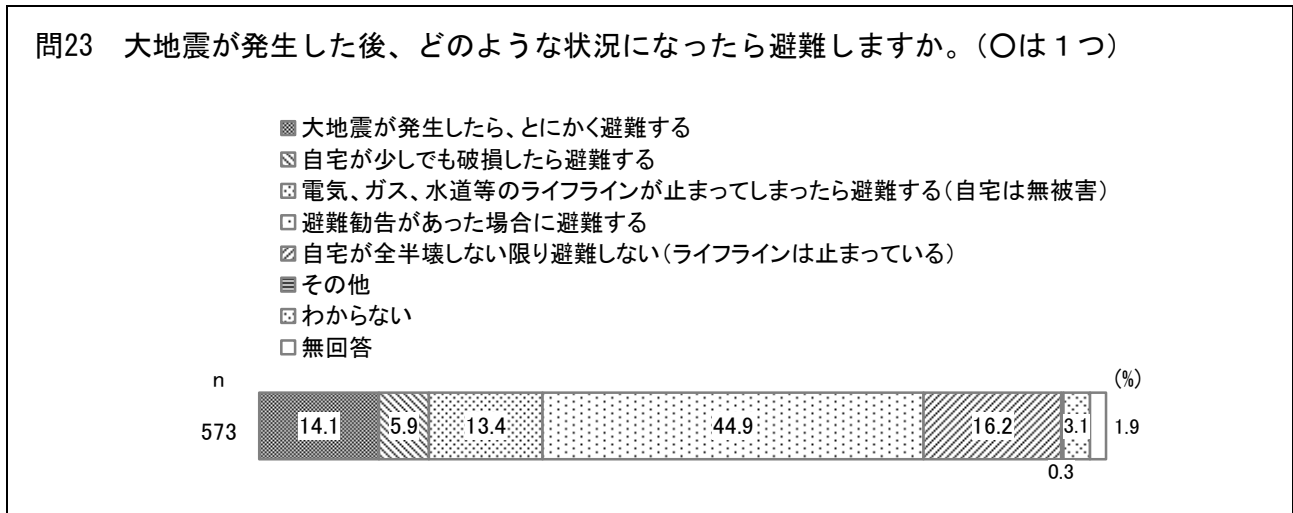
性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「家庭内での初期消火活動（火災発生の抑制）」は20歳代（87.0%）、40歳代（85.2%）、50歳代（85.3%）、60歳代（87.2%）で8割台後半となっている。「近隣住民の協力による消火活動」は40歳代（79.5%）で約8割となっている。

### 【性別、年齢別】

		(%)									
		n	発生消家庭内の活動で抑制（火災初期）	に近よ隣る住民の協力の活動	消防団の活動	消防隊会の活動・市民	消防機（他県などの）	他の消防機関の	その他	わからない	無回答
全 体		573	83.6	68.2	8.2	4.4	2.8	1.2	2.8	1.7	
性別	男 性	234	85.0	66.2	7.3	5.6	2.6	1.7	3.8	1.3	
	女 性	332	83.4	69.3	8.7	3.6	3.0	0.9	2.1	1.8	
年齢別	20～29歳	46	87.0	69.6	8.7	6.5	0.0	0.0	2.2	0.0	
	30～39歳	76	78.9	61.8	11.8	5.3	2.6	0.0	2.6	0.0	
	40～49歳	88	85.2	79.5	3.4	2.3	2.3	1.1	3.4	2.3	
	50～59歳	102	85.3	73.5	6.9	3.9	2.0	2.0	2.9	0.0	
	60～69歳	125	87.2	69.6	10.4	4.8	2.4	0.0	3.2	1.6	
	70歳以上	130	80.8	57.7	7.7	4.6	5.4	3.1	2.3	3.8	

(4) 大地震発生後、避難する状況



大地震が発生した後、どのような状況になったら避難するか聞いたところ、「避難勧告があった場合に避難する」(44.9%)が4割台半ばと行政による指示に従うという割合が最も高くなっている。以下、「自宅が全半壊しない限り避難しない(ライフラインは止まっている)」(16.2%)、「大地震が発生したら、とにかく避難する」(14.1%)、「電気、ガス、水道等のライフラインが止まってしまったら避難する(自宅は無被害)」(13.4%)などの順となっている。

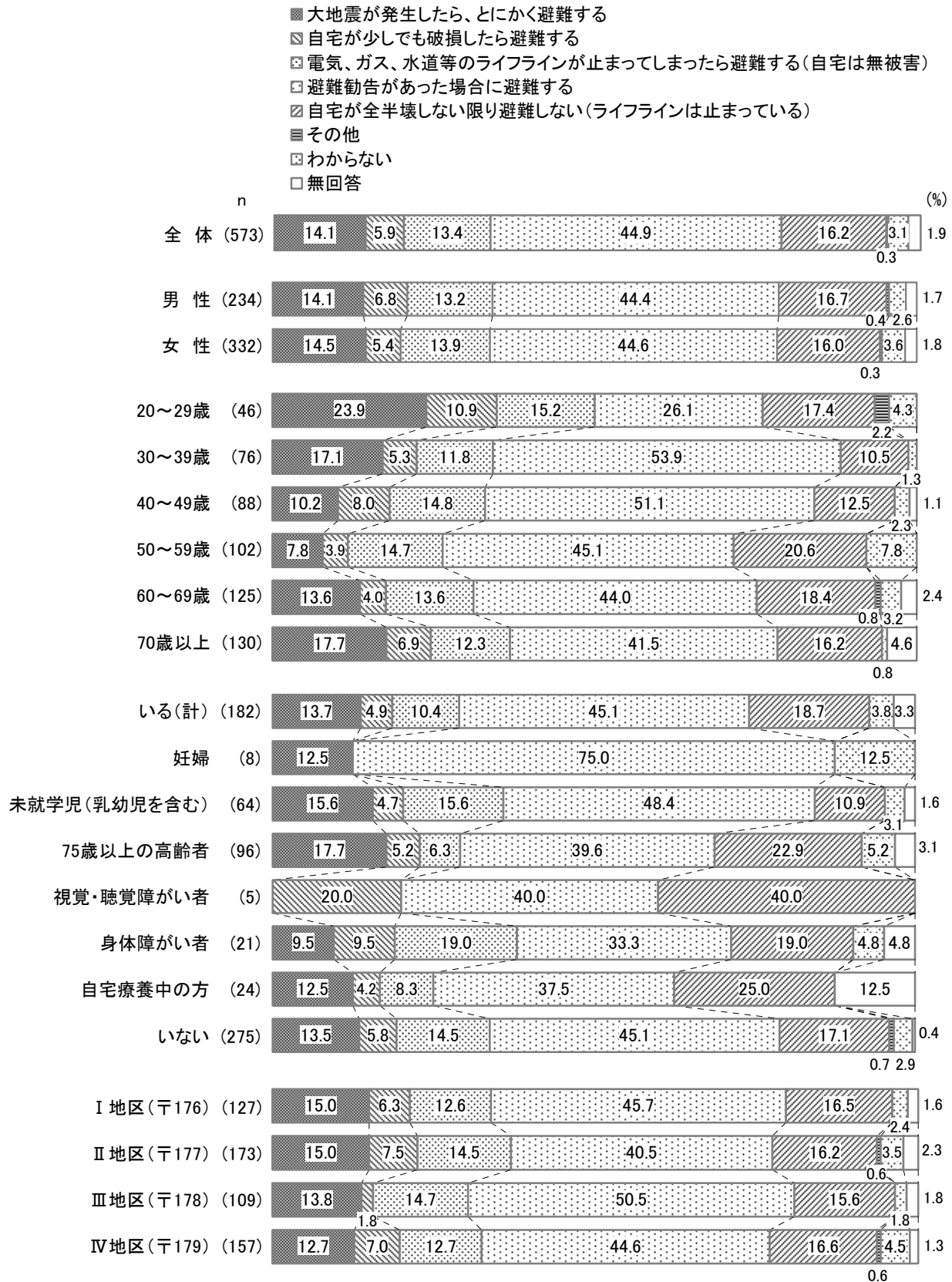
性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、50歳代を中心に、年代が低くなるほど、また、年代が高くなるほど避難の段階が早くなる傾向がうかがえる。また、20歳代では、「避難勧告があった場合に避難する」(26.1%)が他の年代と比較して低い割合となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、それほど大きな差はみられない。

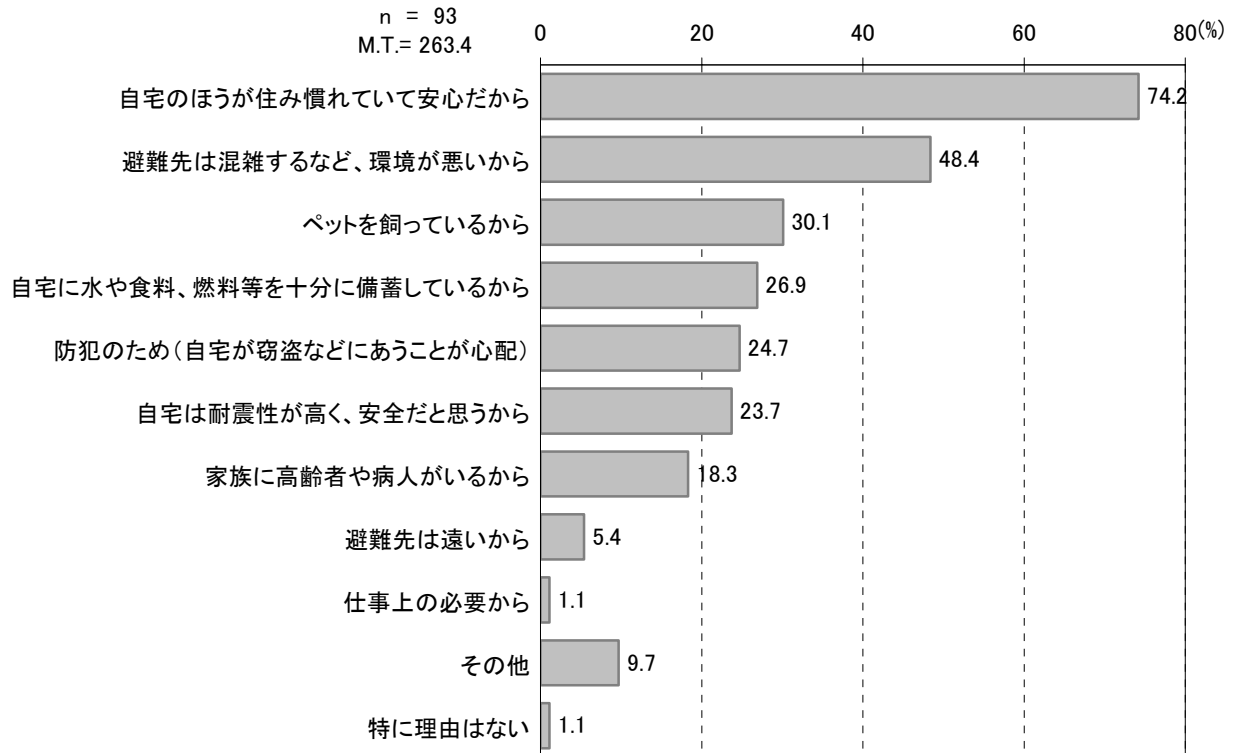
【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(5) 自宅が全半壊しなければ避難しない理由

《問23で「5 自宅が全半壊しない限り避難しない」と答えた方にお伺いします。》

問23-1 あなたは、なぜ、ライフラインが止まっても、自宅が全半壊しなければ避難しないのですか。(〇はいくつでも)



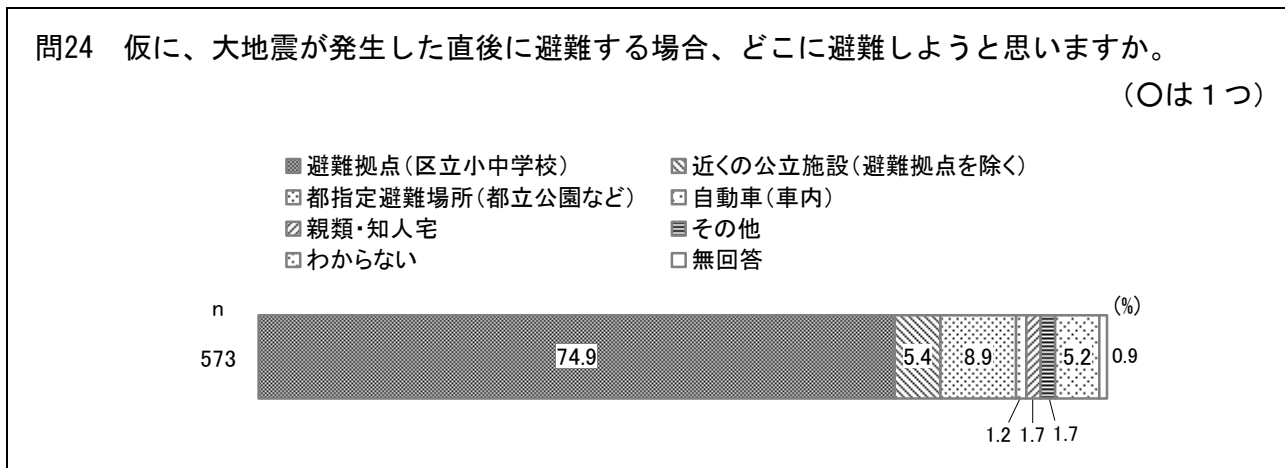
問23で「自宅が全半壊しない限り避難しない」と答えた方にその理由を聞いたところ、「自宅のほうに住み慣れていて安心だから」(74.2%)が7割台半ばと最も高くなっている。以下、「避難先は混雑するなど、環境が悪いから」(48.4%)、「ペットを飼っているから」(30.1%)、「自宅に水や食料、燃料等を十分に備蓄しているから」(26.9%)などの順となっている。

性別にみると、「自宅のほうが住み慣れていて安心だから」は男性（79.5%）が女性（71.7%）よりも7.8ポイント高くなっている。一方、「避難先は混雑するなど、環境が悪いから」「ペットを飼っているから」「防犯のため（自宅が窃盗などにあうことが心配）」「家族に高齢者や病人がいるから」は女性の方が男性よりも10ポイント以上高くなっている。

## 【性別】

		n	自宅のほうが住み慣れていて安心だから	避難先は混雑するなど、環境が悪いから	ペットを飼っているから	自宅に水や食料、燃料等を十分に備蓄しているから	防犯のため（自宅が窃盗などにあうことが心配）	自宅は耐震性が高く、安全だと思っから	家族に高齢者や病人がいるから	避難先は遠いから	仕事上の必要から	その他	特に理由はない
全体		93	74.2	48.4	30.1	26.9	24.7	23.7	18.3	5.4	1.1	9.7	1.1
性別	男性	39	79.5	41.0	23.1	23.1	15.4	25.6	10.3	0.0	2.6	7.7	2.6
	女性	53	71.7	52.8	35.8	30.2	30.2	22.6	22.6	9.4	0.0	11.3	0.0

(6) 大地震発生直後に避難する場所



仮に、大地震が発生した直後に避難する場合、どこに避難するか聞いたところ、「避難拠点（区立小中学校）」（74.9%）が7割台半ばと最も高くなっている。以下、「都指定避難場所（都立公園など）」（8.9%）、「近くの公立施設（避難拠点を除く）」（5.4%）などの順となっている。

性別にみると、「避難拠点（区立小中学校）」は女性（77.4%）が男性（72.2%）よりも5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「避難拠点（区立小中学校）」は20歳代（82.6%）で8割を超えて最も高く、70歳以上（66.2%）で6割台半ばと最も低くなっている。「都指定避難場所（都立公園など）」は70歳以上（13.8%）で1割台半ばと他の年代に比べて若干高い割合となっている。

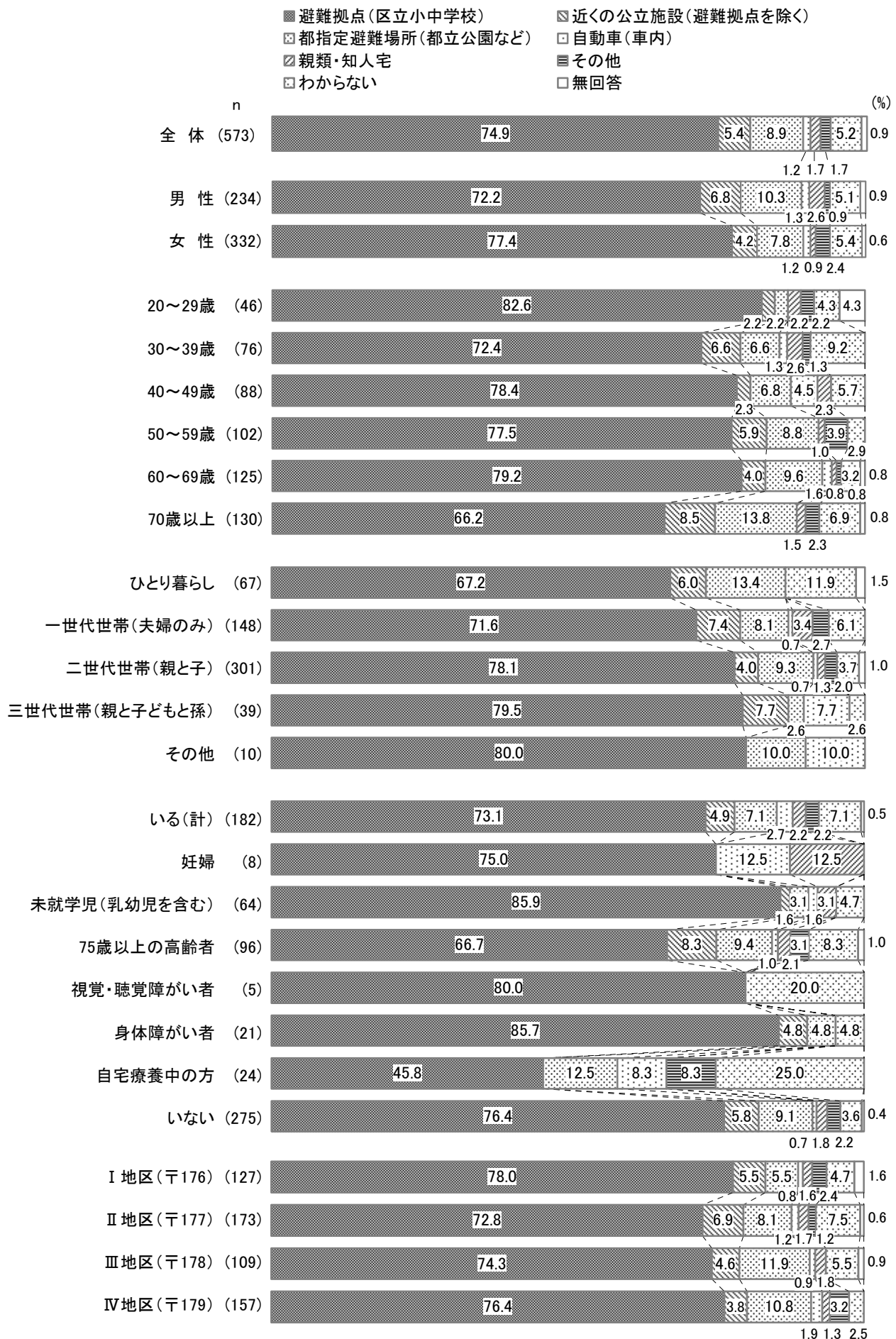
家族構成別にみると、「避難拠点（区立小中学校）」は二世帯世帯（親と子）（78.1%）と三世帯世帯（親と子どもと孫）（79.5%）で約8割となっており、多世代の世帯になるほど割合が高くなる傾向がみられる。一方、「都指定避難場所（都立公園など）」は、ひとり暮らし（13.4%）で1割台半ばと他の世帯と比べて若干高い割合となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、「避難拠点（区立小中学校）」はどの地区も7割台と大きな差はみられない。



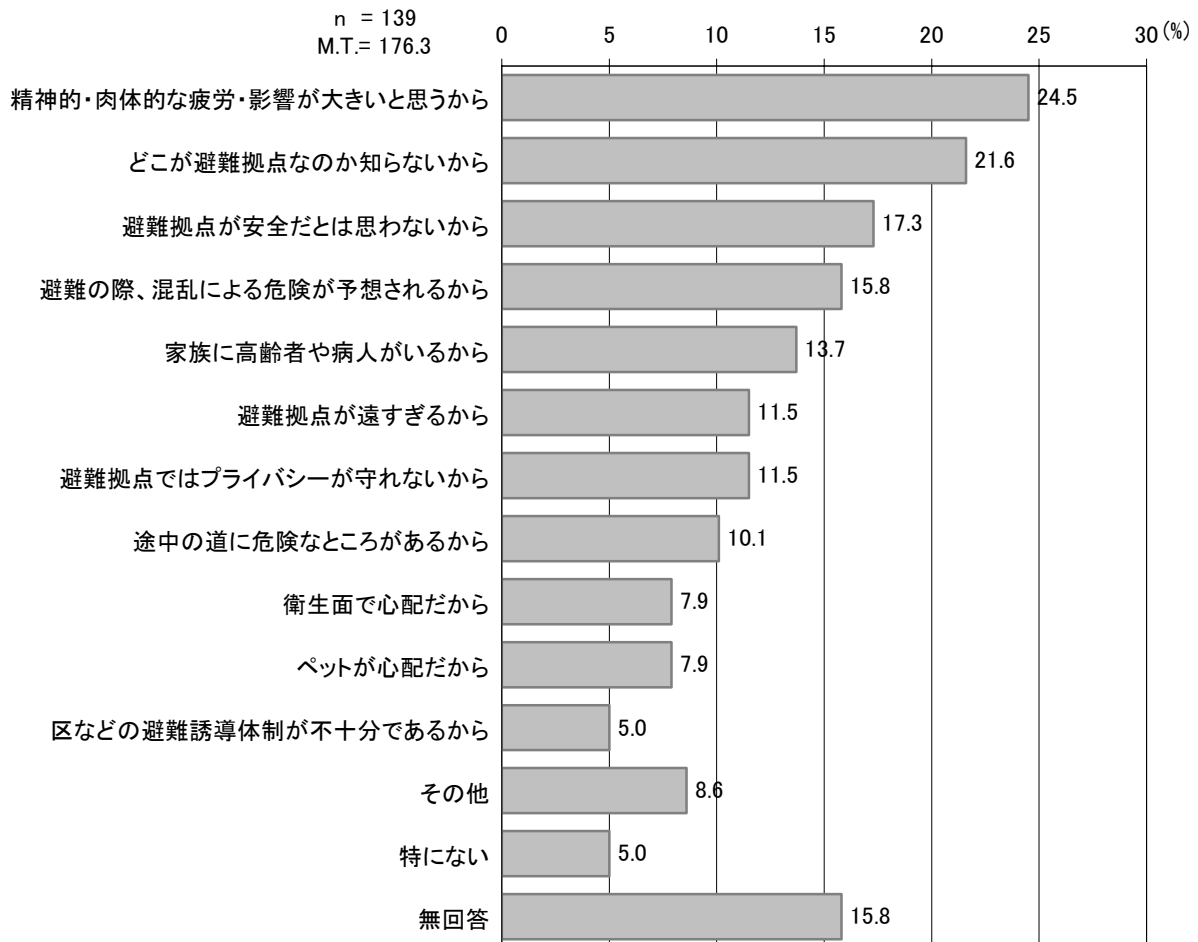
【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(7) 避難拠点に避難しない理由

《問24で「2 近くの公立施設（避難拠点を除く）」「3 都指定避難場所（都立公園など）」  
「4 自動車（車内）」「5 親類・知人宅」「6 その他」「7 わからない」と答えた方にお伺いします。》

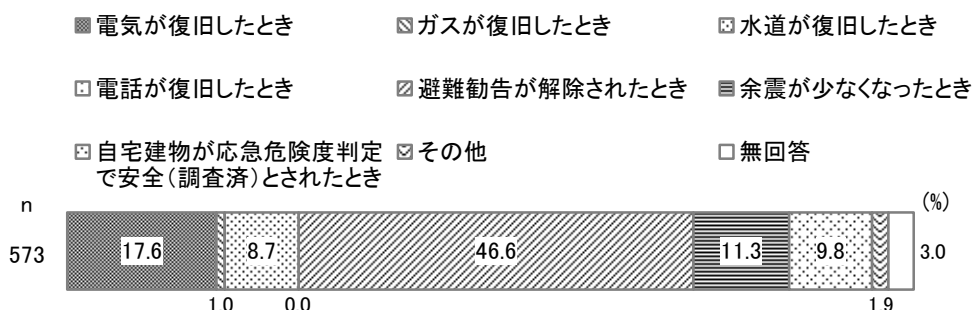
問24-1 避難拠点（区立小中学校）に避難しない理由を教えてください。（〇はいくつでも）



問24で「近くの公立施設（避難拠点を除く）」「都指定避難場所（都立公園など）」「自動車（車内）」「親類・知人宅」「その他」「わからない」と答えた方に避難拠点（区立小中学校）に避難しない理由を聞いたところ、「精神的・肉体的な疲労・影響が大きいと思うから」（24.5%）が2割台半ばと最も高くなっている。以下、「どこが避難拠点なのか知らないから」（21.6%）、「避難拠点が安全だとは思わないから」（17.3%）、「避難の際、混乱による危険が予想されるから」（15.8%）などの順となっている。

## (8) 自宅に戻るきっかけ

問25 あなたが避難していたとして、自宅の建物自体は壊れていない場合、自宅に戻ることにする最大のきっかけを教えてください。(〇は1つ)



避難した際、自宅の建物自体は壊れていない場合、自宅に戻ることにする最大のきっかけを聞いたところ、「避難勧告が解除されたとき」(46.6%)が4割台半ばと最も高く、前述の「大地震発生後、避難する状況」と同様に、行政の指示に従うという割合が高くなっている。以下、「電気が復旧したとき」(17.6%)、「余震が少なくなったとき」(11.3%)などの順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

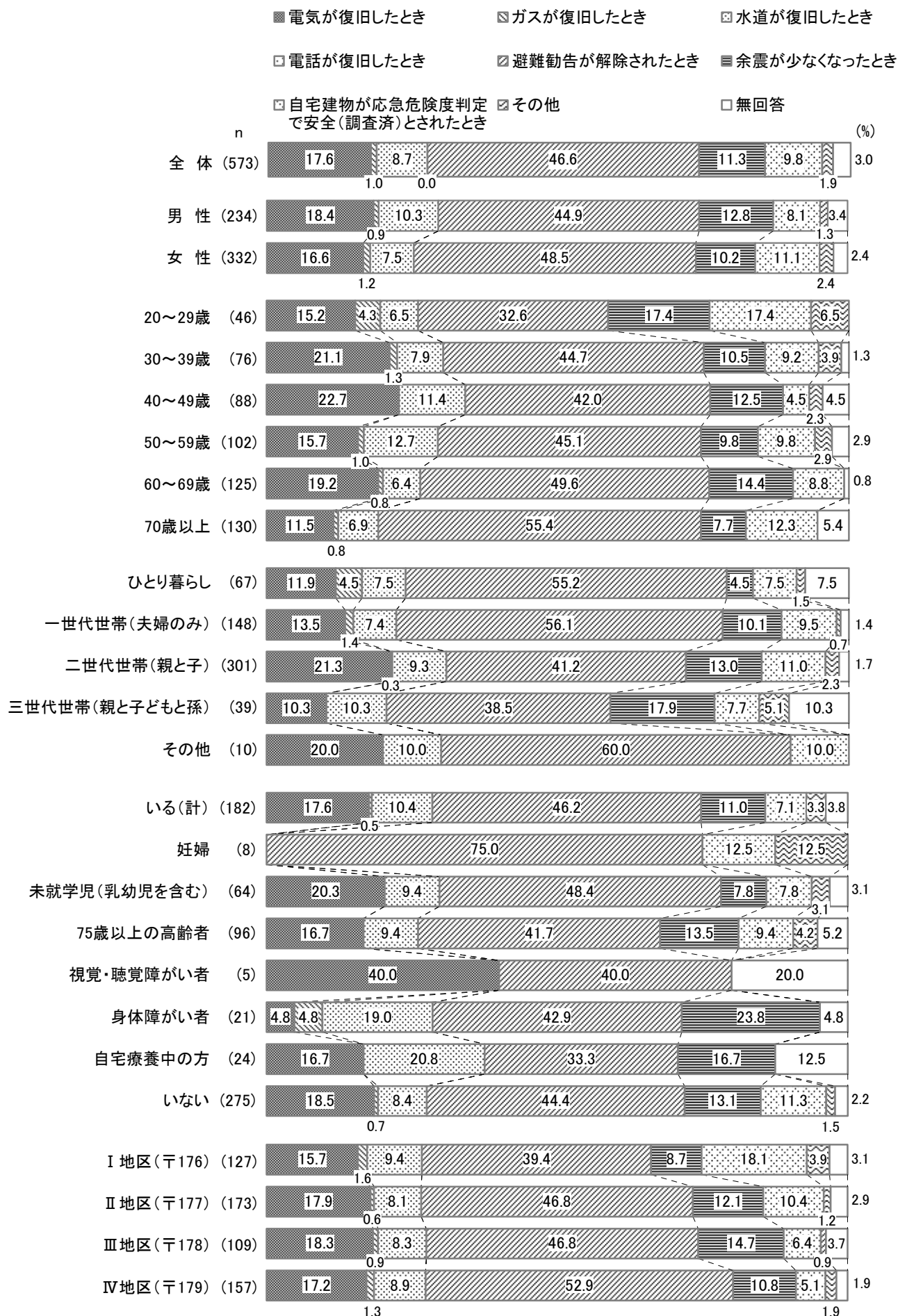
年齢別にみると、「避難勧告が解除されたとき」は70歳以上(55.4%)で5割台半ばと他の年代と比べて高い割合となっており、20歳代(32.6%)で低い割合となっている。「電気が復旧したとき」は30歳代(21.1%)と40歳代(22.7%)で2割を超えている。「余震が少なくなったとき」は20歳代(17.4%)で約2割と若干高くなっている。

家族構成別にみると、「避難勧告が解除されたとき」はひとり暮らし(55.2%)と一世代世帯(夫婦のみ)(56.1%)で5割台半ばと他の年代と比べて高い割合となっており、三世代世帯(親と子どもと孫)(38.5%)で4割未満とやや低い割合となっている。「電気が復旧したとき」は二世代世帯(親と子)(21.3%)で2割を超えている。

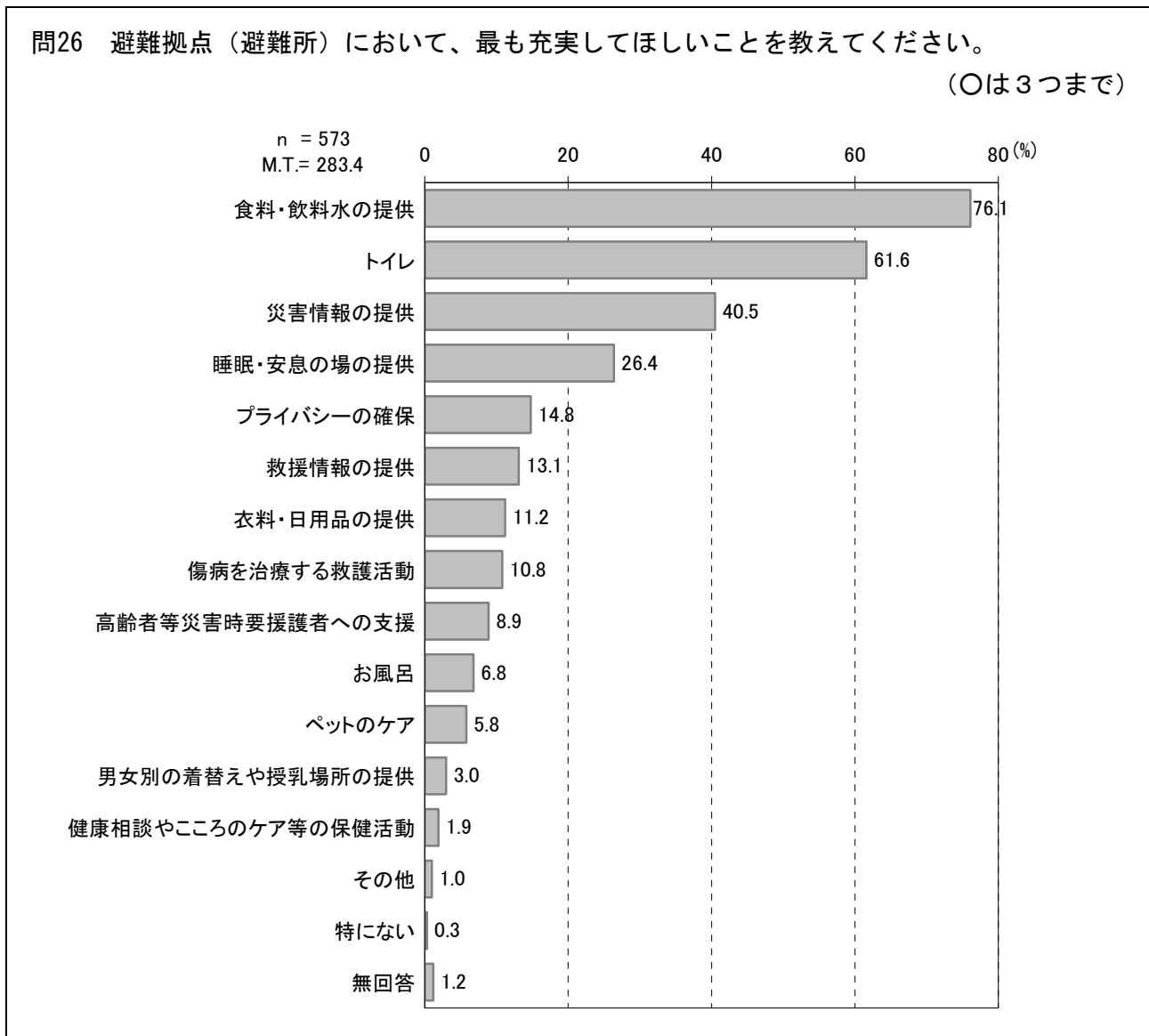
災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、「避難勧告が解除されたとき」はIV地区(52.9%)で5割を超えているが、I地区(39.4%)で4割未満となっている。「自宅建物が応急危険度判定で安全(調査済)とされたとき」はI地区(18.1%)で約2割と若干高くなっている。

【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】



## (9) 避難拠点（避難所）において最も充実してほしいこと



避難拠点（避難所）において、最も充実してほしいことを聞いたところ、「食料・飲料水の提供」（76.1%）が7割台半ばと最も高く、次いで、「トイレ」（61.6%）、「災害情報の提供」（40.5%）、「睡眠・安息の場の提供」（26.4%）などの順となっている。避難拠点（避難所）では、基本的な生活の場としての環境及び災害情報の提供を充足することが求められている。

性別にみると、「食料・飲料水の提供」は男性（81.6%）が女性（72.0%）よりも9.6ポイント高くなっている。一方、「トイレ」では12.2ポイント、「災害情報の提供」では5.2ポイント、「高齢者等災害時要援護者への支援」では6.7ポイント、女性の方が男性よりも高くなっている。

年齢別にみると、「食料・飲料水の提供」は30歳代（86.8%）で8割台半ばと高い割合になっている。「トイレ」は20歳代（45.7%）を除いて6割台となっている。「災害情報の提供」は50歳以上で4割台となっている。「睡眠・安息の場の提供」「プライバシーの確保」「お風呂」は20歳代（それぞれ39.1%、32.6%、19.6%）が他の年代に比べて高い割合となっている。

家族構成別にみると、「食料・飲料水の提供」はひとり暮らし（80.6%）で約8割となっている。「トイレ」は三世帯世帯（親と子どもと孫）（53.8%）を除いて6割台となっている。「災害情報の提供」は三世帯世帯（親と子どもと孫）（53.8%）で5割台半ばとなっている。「睡眠・安眠の場の提供」はひとり暮らし（31.3%）と一世帯世帯（夫婦のみ）（29.7%）で3割前後となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、「災害情報の提供」は“いる”と回答した人（45.6%）が“いない”と回答した人（38.5%）よりも7.1ポイント、「高齢者等災害時要援護者への支援」は“いる”と回答した人（18.1%）が“いない”と回答した人（3.3%）よりも14.8ポイント高くなっている。

地区別にみると、「食料・飲料水の提供」はⅢ地区（78.9%）とⅣ地区（80.3%）で8割前後となっている。「トイレ」はどの地区も6割前後となっている。「災害情報の提供」はⅠ地区（45.7%）とⅡ地区（46.8%）で4割台半ばとなっている。

【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別、地区別】

(%)

		n	食料・飲料水の提供	トイレ	災害情報の提供	睡眠・安眠の場の提供	プライバシーの確保	救援情報の提供	衣料・日用品の提供	活動を治療する救護	傷病者への支援	高齢者等災害時要援護	お風呂	ペットのケア	授乳場所の提供	男女別の着替えや	ケア等の保健活動	健康相談やこころの	その他	特にな	無回答
全 体		573	76.1	61.6	40.5	26.4	14.8	13.1	11.2	10.8	8.9	6.8	5.8	3.0	1.9	1.0	0.3	1.2			
性別	男 性	234	81.6	54.7	37.6	28.2	12.0	15.0	15.8	10.7	4.7	7.3	2.1	2.1	3.4	1.3	0.9	1.3			
	女 性	332	72.0	66.9	42.8	25.3	16.9	11.7	7.5	11.1	11.4	6.6	8.4	3.6	0.9	0.9	0.0	0.9			
年齢別	20～29歳	46	69.6	45.7	21.7	39.1	32.6	8.7	13.0	6.5	4.3	19.6	15.2	6.5	4.3	0.0	0.0	0.0			
	30～39歳	76	86.8	63.2	36.8	22.4	18.4	11.8	9.2	19.7	3.9	5.3	0.0	10.5	1.3	1.3	0.0	0.0			
	40～49歳	88	76.1	62.5	36.4	30.7	25.0	8.0	13.6	5.7	6.8	3.4	11.4	0.0	3.4	2.3	0.0	0.0			
	50～59歳	102	76.5	68.6	41.2	20.6	10.8	16.7	14.7	8.8	7.8	7.8	5.9	1.0	1.0	2.0	0.0	1.0			
	60～69歳	125	76.0	62.4	48.0	27.2	9.6	16.8	9.6	8.0	7.2	8.8	5.6	1.6	0.8	0.8	0.8	0.8			
	70歳以上	130	71.5	60.0	45.4	25.4	7.7	12.3	8.5	15.4	16.2	3.1	2.3	2.3	2.3	0.0	0.8	3.1			
家族構成別	ひとり暮らし	67	80.6	62.7	41.8	31.3	9.0	3.0	16.4	9.0	1.5	14.9	1.5	1.5	1.5	0.0	0.0	4.5			
	一世帯世帯(夫婦のみ)	148	77.0	62.8	41.2	29.7	9.5	16.9	10.1	11.5	13.5	6.1	4.1	2.0	0.7	1.4	0.0	0.7			
	二世帯世帯(親と子)	301	76.1	61.8	39.5	24.3	19.9	13.3	11.0	11.6	7.0	6.0	6.6	4.0	2.3	0.7	0.3	0.3			
	三世帯世帯(親と子どもと孫)	39	66.7	53.8	53.8	20.5	2.6	17.9	10.3	7.7	15.4	0.0	12.8	0.0	5.1	5.1	0.0	2.6			
	その他	10	70.0	70.0	20.0	30.0	30.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0			
災害時要援護者の有無別	いる(計)	182	71.4	53.3	45.6	20.9	13.2	11.5	8.8	15.4	18.1	6.0	3.3	6.0	3.8	0.5	0.0	2.2			
	妊婦	8	87.5	62.5	25.0	62.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0			
	未就学児(乳幼児を含む)	64	84.4	53.1	37.5	18.8	18.8	9.4	15.6	17.2	3.1	6.3	1.6	10.9	4.7	1.6	0.0	1.6			
	75歳以上の高齢者	96	62.5	47.9	53.1	21.9	10.4	13.5	5.2	12.5	28.1	6.3	5.2	1.0	3.1	0.0	0.0	4.2			
	視覚・聴覚障がい者	5	80.0	40.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0			
	身体障がい者	21	71.4	76.2	42.9	4.8	14.3	0.0	4.8	38.1	28.6	0.0	0.0	4.8	14.3	0.0	0.0	0.0			
	自宅療養中の方	24	62.5	37.5	41.7	25.0	8.3	4.2	12.5	20.8	33.3	4.2	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	4.2			
	いない	275	79.6	64.7	38.5	28.4	16.4	14.9	11.6	10.2	3.3	7.3	7.6	1.8	0.4	1.5	0.7	0.0			
地区別	Ⅰ地区(〒176)	127	76.4	63.8	45.7	23.6	13.4	16.5	13.4	11.0	6.3	3.1	3.9	3.9	2.4	0.8	0.8	0.8			
	Ⅱ地区(〒177)	173	70.5	60.7	46.8	27.2	12.1	11.6	9.8	9.2	11.0	6.4	4.0	3.5	2.3	2.3	0.0	1.2			
	Ⅲ地区(〒178)	109	78.9	57.8	31.2	28.4	16.5	12.8	12.8	14.7	8.3	7.3	8.3	0.9	1.8	0.9	0.9	1.8			
	Ⅳ地区(〒179)	157	80.3	63.7	36.9	26.8	17.8	12.1	9.6	10.2	7.6	9.6	7.6	3.2	1.3	0.0	0.0	0.6			

## (10) 勤務先・通学先までの距離

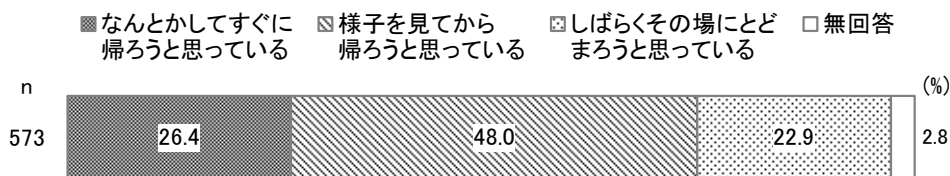
問27 ご自宅から普段の勤務先・通学先までの距離はどのくらいですか。通勤・通学していない方は、よく買い物に行く場所までの距離をお答えください。(〇は1つ)



自宅から普段の勤務先・通学先、よく買い物に行く場所までの距離を聞いたところ、「10km未満」(65.3%)が6割台半ばと最も高くなっている。以下、「10km以上20km未満」(21.3%)、「20km以上」(9.9%)の順となっている。

(11) 勤務先や外出先で大地震にあった場合の帰宅

問28 大地震が起こった場合、交通機関の停止や混乱、道路被害の発生や渋滞が予想されます。あなたは勤務先（通学先）や外出先（買物等）で大地震にあったら、自宅に帰ろうと思えますか。（○は1つ）



勤務先（通学先）や外出先（買物等）で大地震にあったら、自宅に帰ろうと思うか聞いたところ、「なんとかしてすぐに帰ろうと思っている」（26.4%）と「様子を見てから帰ろうと思っている」（48.0%）を合わせた『帰宅する意向がある』（74.4%）は7割台半ばである。

一方、「しばらくその場にとどまろうと思っている」（22.9%）は2割程度にとどまる。

性別にみると、大きな差はみられない。

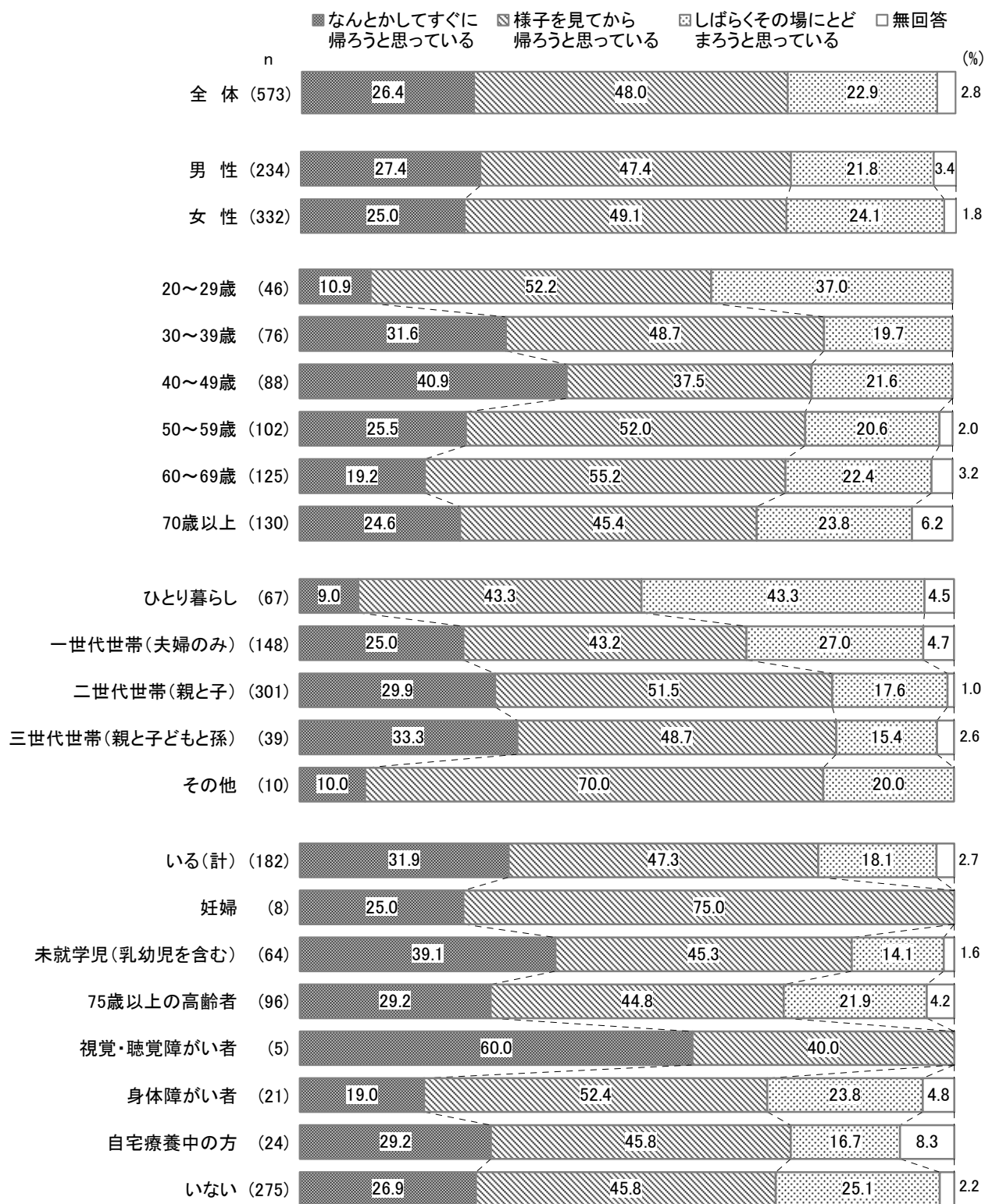
年齢別にみると、「なんとかすぐに帰ろうと思っている」は40歳代（40.9%）、30歳代（31.6%）でやや高くなっている。一方、「しばらくその場にとどまろうと思っている」は20歳代（37.0%）で約4割と他の年代（2割前後）よりも高くなっている。

家族構成別にみると、『帰宅する意向がある』は二世帯世帯（親と子）（81.4%）と三世帯世帯（親と子どもと孫）（82.0%）で8割を超え、子どもがいる世帯で高い割合となっている。「しばらくその場にとどまろうと思っている」はひとり暮らし（43.3%）で4割台半ばと他の世代よりも高くなっている。

災害時要援護者の有無別にみると、『帰宅する意向がある』は災害時要援護者が家族に“いる”と回答した人（79.2%）が“いない”と回答した人（72.7%）よりも6.5ポイント高くなっている。



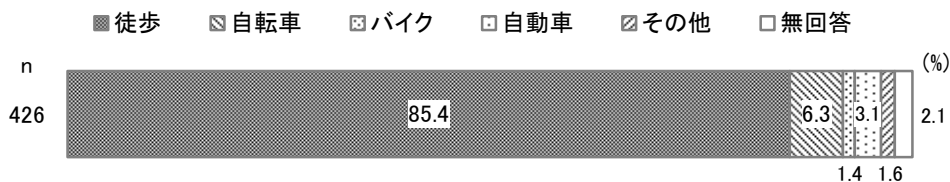
【性別、年齢別、家族構成別、災害時要援護者の有無別】



(12) 交通機関が停止している場合の帰宅方法

《問28で「1 なんとかしてすぐに帰ろうと思っている」「2 様子を見てから帰ろうと思っている」と答えた方にお伺いします。》

問28-1 交通機関が停止している場合、どのような方法で帰ろうと思いますか。(〇は1つ)

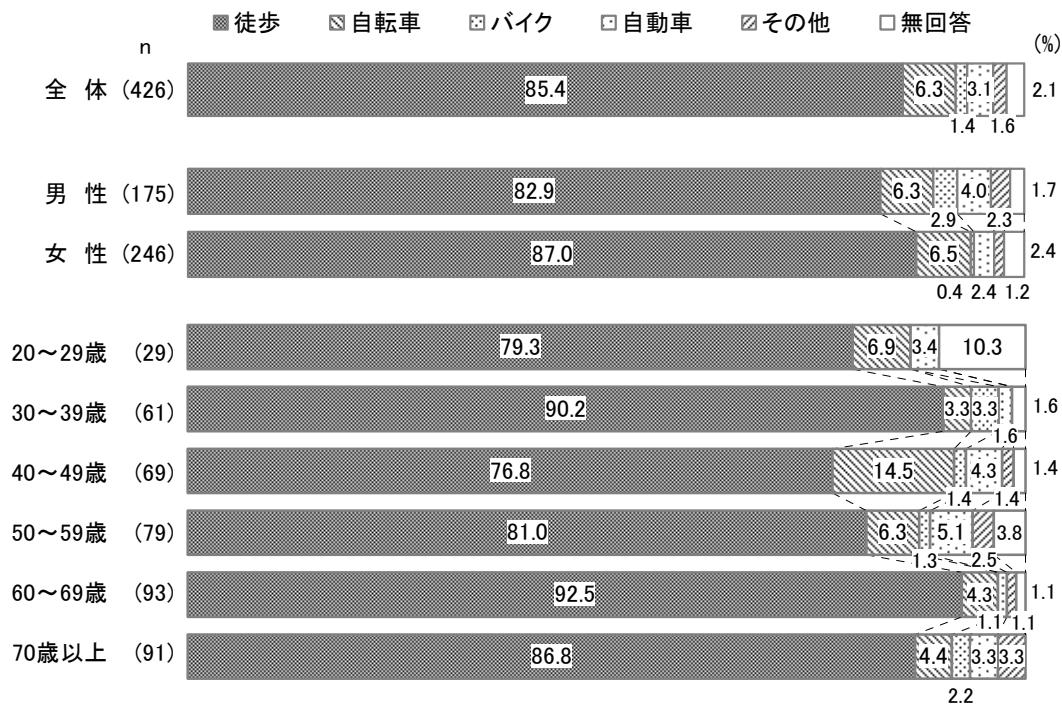


問28で「なんとかしてすぐに帰ろうと思っている」「様子を見てから帰ろうと思っている」と答えた方に、交通機関が停止している場合、どのような方法で帰るか聞いたところ、「徒歩」(85.4%)が8割台半ばを占めている。

性別にみると、大きな差はみられない。

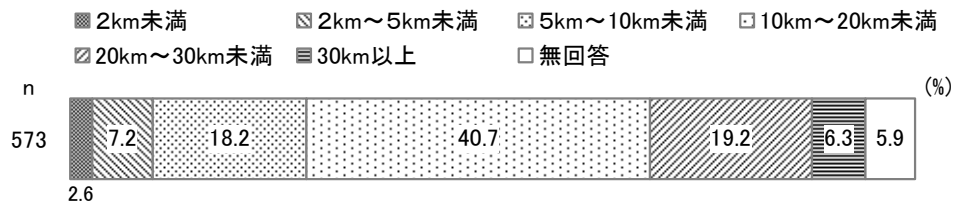
年齢別にみると、「徒歩」は30歳代(90.2%)と60歳代(92.5%)で9割台となっている。

【性別、年齢別】



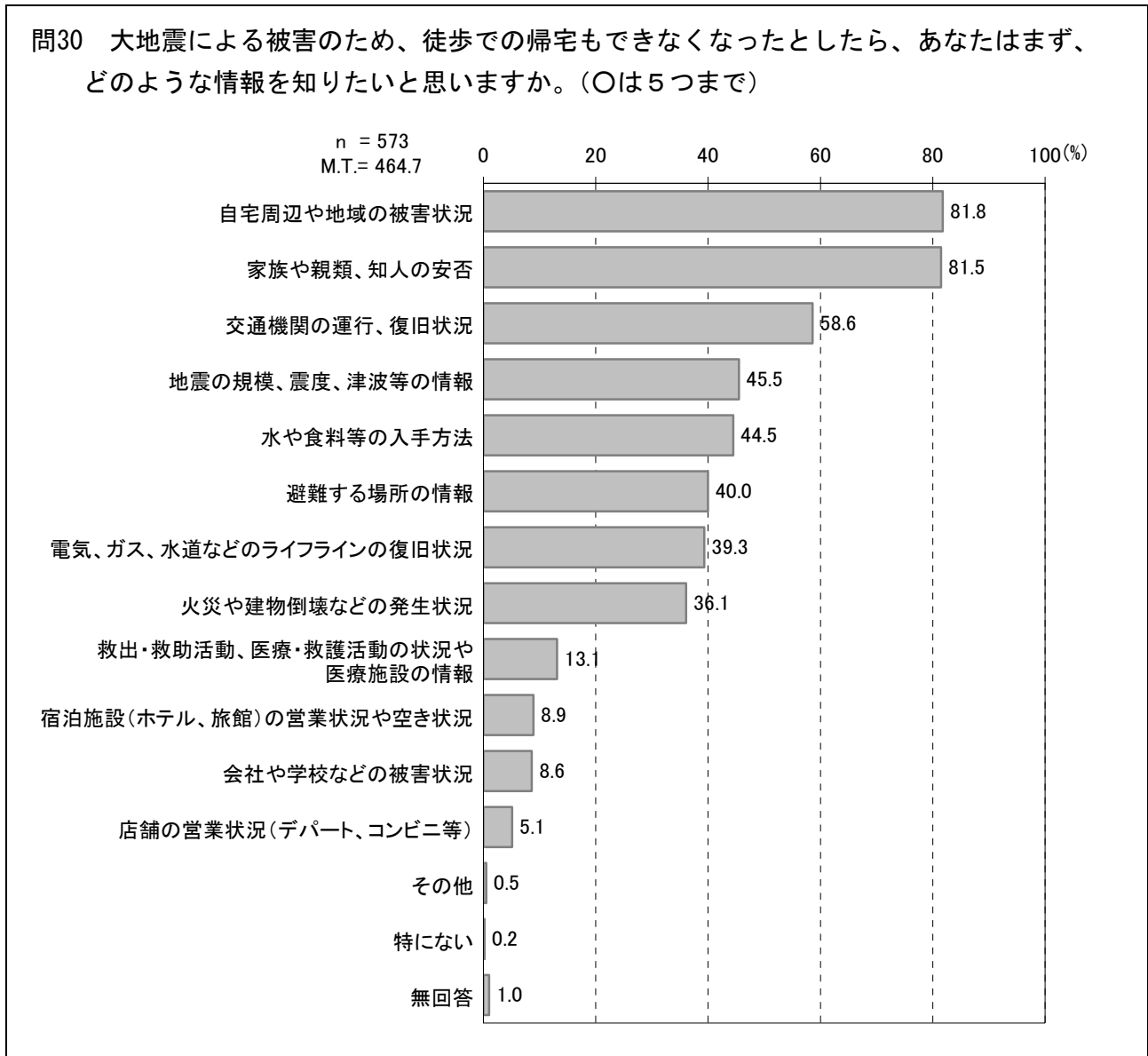
## (13) 外出先にいた場合、歩いて帰る距離

問29 勤務先・通学先などに限らず、あなたが外出先にいた場合、どれくらいの距離までならば歩いて帰ろうと思いますか。(枠内に数字を記入してください)



外出先にいた場合、どれくらいの距離までならば歩いて帰ろうと思うか聞いたところ、「10km～20km未満」(40.7%)が約4割と最も高く、次いで「20km～30km未満」(19.2%)が2割程度となっている。「2km未満」「2km～5km未満」「5km～10km未満」を合わせた『10km未満』(28.0%)は約3割となっている。

(14) 徒歩での帰宅もできなくなった場合に知りたい情報



大地震による被害のため、徒歩での帰宅もできなくなったとした場合、どのような情報を知りたいか聞いたところ、「自宅周辺や地域の被害状況」(81.8%)と「家族や親類、知人の安否」(81.5%)が8割を超えて高くなっている。以下、「交通機関の運行、復旧状況」(58.6%)、「地震の規模、震度、津波等の情報」(45.5%)、「水や食料等の入手方法」(44.5%)などの順となっている。

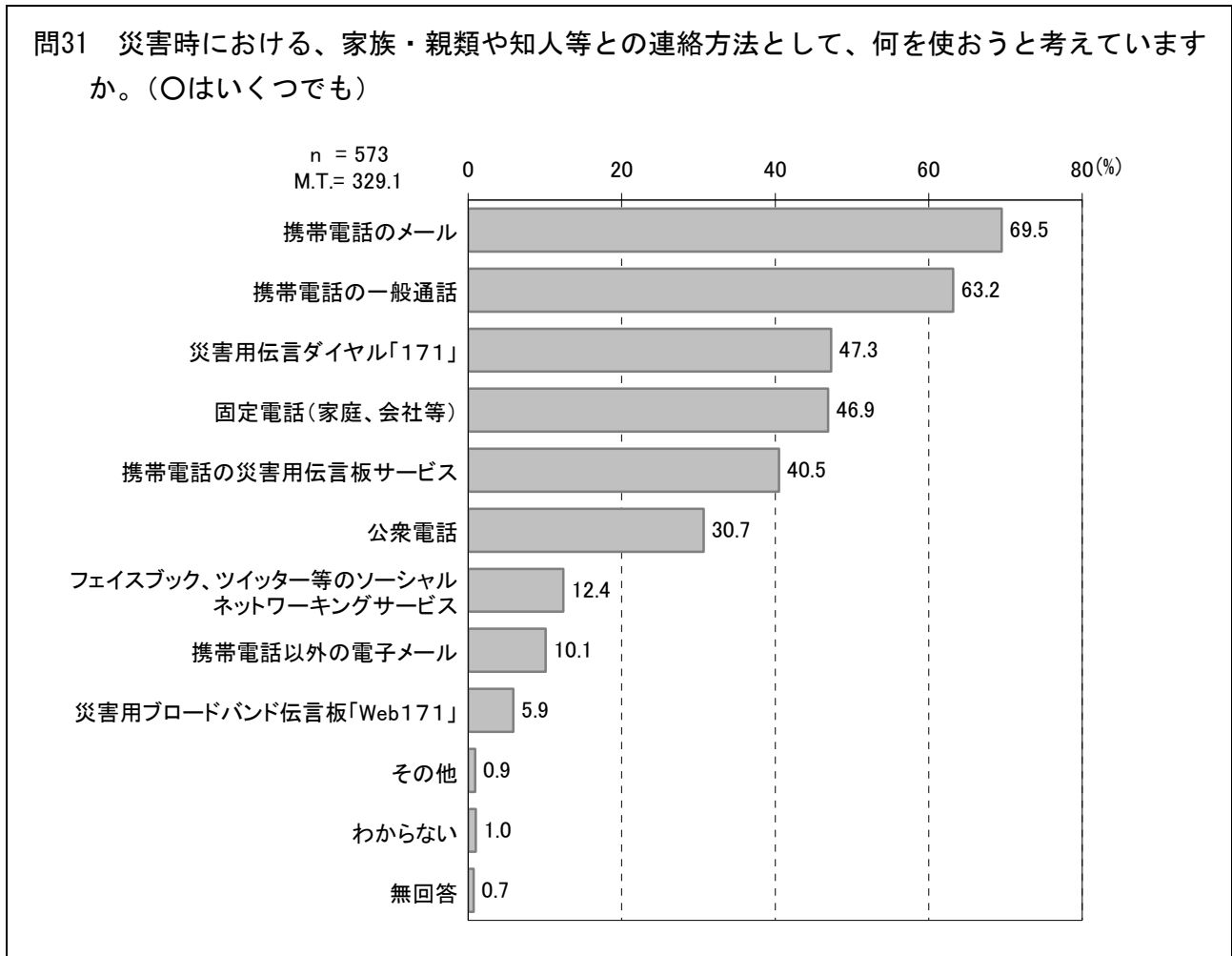
性別にみると、女性の方が男性よりも「家族や親類、知人の安否」は5.8ポイント、「避難する場所の情報」は13.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自宅周辺や地域の被害状況」は50歳以上で8割台となっている。「家族や親類、知人の安否」は20歳代～50歳代で9割前後と高い割合だが、60歳代（79.2%）では約8割、70歳代（64.6%）では6割台半ばとなっている。「交通機関の運行、復旧状況」は50歳代（68.6%）で約7割となっている。「地震の規模、震度、津波等の情報」は20歳代（71.7%）で7割を超え、他の年代と比べると極めて高くなっている。「水や食料等の入手方法」は70歳以上（52.3%）で5割を超えている。また、「会社や学校などの被害状況」は30歳代（21.1%）、40歳代（22.7%）で2割を超え、他の年代に比べて高い割合となっている。

## 【性別、年齢別】

		n	自宅周辺や地域の被害状況	家族や親類、知人の安否	交通機関の運行、復旧状況	地震の規模、震度、津波等の情報	水や食料等の入手方法	避難する場所の情報	電気、ガス、水道などのライフラインの復旧状況	火災や建物倒壊などの発生状況	救出・救助活動、医療施設の情報	宿泊施設（ホテル、旅館）の営業状況や空き状況	会社や学校などの被害状況	店舗の営業状況（デパート、コンビニ等）	その他	特になし	無回答
全体		573	81.8	81.5	58.6	45.5	44.5	40.0	39.3	36.1	13.1	8.9	8.6	5.1	0.5	0.2	1.0
性別	男性	234	82.1	78.2	57.7	45.7	47.4	32.1	40.6	36.3	15.0	6.0	9.0	6.0	0.4	0.4	1.3
	女性	332	82.2	84.0	59.3	45.8	43.1	45.5	38.0	35.8	12.0	11.1	8.1	4.2	0.6	0.0	0.6
年齢別	20～29歳	46	69.6	93.5	56.5	71.7	47.8	43.5	39.1	30.4	8.7	6.5	4.3	4.3	2.2	0.0	0.0
	30～39歳	76	77.6	89.5	55.3	48.7	46.1	43.4	34.2	28.9	9.2	3.9	21.1	3.9	2.6	0.0	0.0
	40～49歳	88	79.5	90.9	58.0	48.9	40.9	38.6	37.5	27.3	13.6	11.4	22.7	5.7	0.0	0.0	0.0
	50～59歳	102	86.3	87.3	68.6	48.0	44.1	41.2	32.4	35.3	12.7	9.8	2.0	3.9	0.0	0.0	0.0
	60～69歳	125	86.4	79.2	60.0	41.6	38.4	43.2	36.8	38.4	11.2	10.4	4.0	4.0	0.0	0.8	2.4
	70歳以上	130	83.1	64.6	53.1	34.6	52.3	33.8	50.8	46.2	19.2	9.2	2.3	7.7	0.0	0.0	1.5

(15) 災害時における家族・親類や知人等との連絡方法



災害時の家族・親類や知人等との連絡方法を聞いたところ、「携帯電話のメール」(69.5%)が約7割、次いで「携帯電話の一般通話」(63.2%)となっており、携帯電話を使う割合が高くなっている。以下、「災害用伝言ダイヤル『171』」(47.3%)、「固定電話(家庭、会社等)」(46.9%)、「携帯電話の災害用伝言板サービス」(40.5%)などの順となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「災害用伝言ダイヤル『171』」では7.3ポイント、「固定電話（家庭、会社等）」では5.5ポイント、「携帯電話の災害用伝言板サービス」では5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「携帯電話のメール」と「携帯電話の一般通話」はともに30歳代（それぞれ92.1%、71.1%）で他の年代に比べて高い割合となっている。「災害用伝言ダイヤル『171』」は50歳代（55.9%）で5割台半ばとなっている。「固定電話（家庭、会社等）」は70歳以上（62.3%）で6割を超えている。また、「フェイスブック、ツイッター等のソーシャルネットワークワーキングサービス」は、20歳代（63.0%）で6割を超え、他の年代に比べて極めて高い割合となっている。

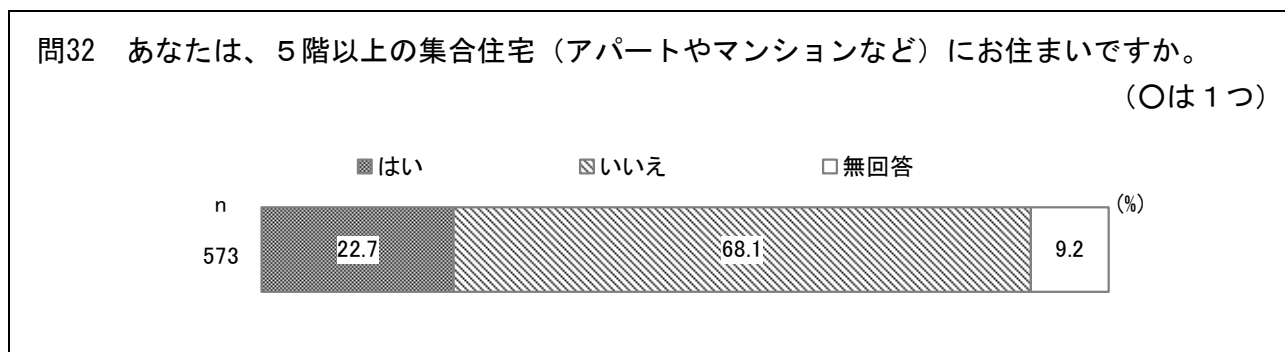
家族構成別にみると、「携帯電話のメール」は三世帯世帯（親と子どもと孫）（84.6%）で8割台半ばとなっており、多世代の世帯になるほど割合が高くなる傾向がみられる。「携帯電話の一般通話」は三世帯世帯（親と子どもと孫）（71.8%）及び一世代世帯（夫婦のみ）（69.6%）で7割前後となっている。「災害用伝言ダイヤル『171』」は二世帯世帯（親と子）（53.2%）で5割台半ばとなっている。

## 【性別、年齢別、家族構成別】

		n	携帯電話のメール	携帯電話の一般通話	「災害用伝言ダイヤル『171』」	固定電話（家庭、会社等）	携帯電話の災害用伝言板サービス	公衆電話	ワーキングサービス	フェイスブック、ツイッター等のソーシャルネットワーク	携帯電話以外の電子メール	災害用ブロードバンド伝言板「Web171」	その他	わからない	無回答
全体		573	69.5	63.2	47.3	46.9	40.5	30.7	12.4	10.1	5.9	0.9	1.0	0.7	
性別	男性	234	69.7	65.8	43.6	43.6	38.0	30.8	12.4	12.8	5.6	0.4	0.9	0.9	
	女性	332	69.9	61.4	50.9	49.1	43.1	30.7	12.7	8.4	6.3	1.2	0.9	0.3	
年齢別	20～29歳	46	78.3	65.2	37.0	34.8	56.5	47.8	63.0	6.5	8.7	2.2	0.0	2.2	
	30～39歳	76	92.1	71.1	50.0	36.8	39.5	26.3	23.7	15.8	7.9	1.3	1.3	0.0	
	40～49歳	88	73.9	63.6	50.0	42.0	52.3	29.5	13.6	14.8	9.1	1.1	1.1	0.0	
	50～59歳	102	82.4	58.8	55.9	41.2	52.9	30.4	6.9	9.8	5.9	1.0	0.0	1.0	
	60～69歳	125	69.6	64.8	49.6	48.8	38.4	27.2	3.2	8.8	3.2	0.0	1.6	0.8	
	70歳以上	130	41.5	59.2	40.8	62.3	21.5	31.5	0.8	6.9	4.6	0.8	0.8	0.0	
家族構成別	ひとり暮らし	67	53.7	56.7	32.8	40.3	32.8	38.8	14.9	11.9	3.0	0.0	1.5	1.5	
	一世代世帯（夫婦のみ）	148	66.2	69.6	43.2	48.6	31.1	30.4	8.1	8.1	2.0	0.7	0.7	0.0	
	二世帯世帯（親と子）	301	73.1	60.8	53.2	47.8	48.5	30.6	15.6	11.0	9.0	1.0	0.7	0.7	
	三世帯世帯（親と子どもと孫）	39	84.6	71.8	46.2	41.0	30.8	20.5	2.6	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0	
	その他	10	80.0	50.0	70.0	60.0	50.0	30.0	10.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	

## 9 中高層住宅の対策について

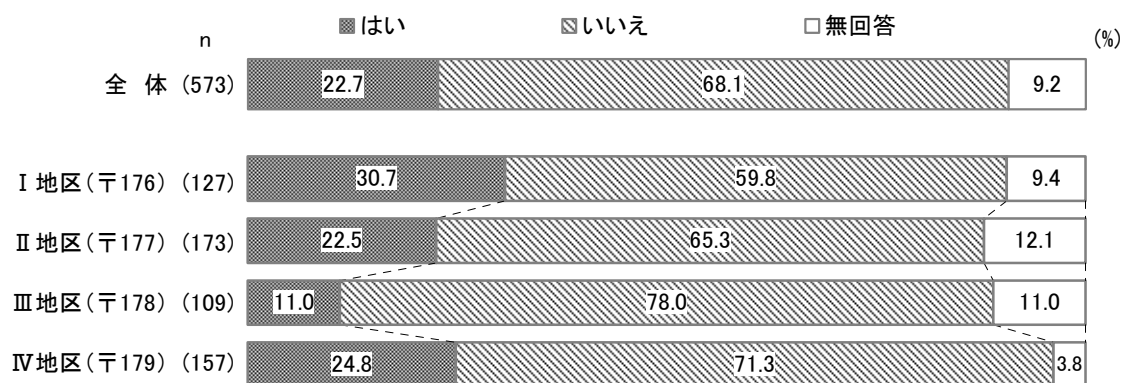
### (1) 5階以上の集合住宅に居住しているか



5階以上の集合住宅（アパートやマンションなど）に住んでいるか聞いたところ、「いいえ」（68.1%）が約7割、「はい」（22.7%）が約2割となっている。

地区別にみると、「はい」はI地区（30.7%）で約3割と最も高く、III地区（11.0%）で1割台と低くなっている。

#### 【地区別】





## (2) 居住建物のエレベーターの有無

《問32で「1 はい」と答えた方にお伺いします。》

問32-1 あなたのお住まいの建物にエレベーターはありますか。(○は1つ)



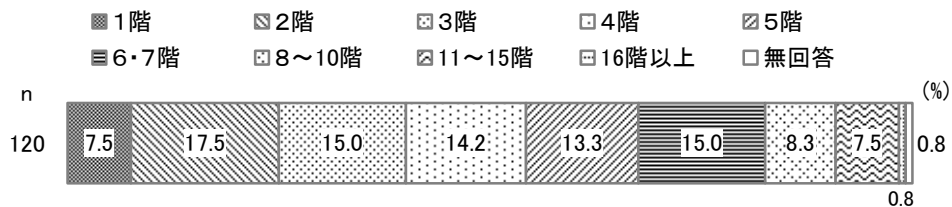
問32で「はい」と答えた方に、居住建物にエレベーターはあるか聞いたところ、「ある」(92.3%)が9割を超えている。

問32の設問を考慮すると、全体の約2割がエレベーターのある建物に住んでいる。

## (3) 居住階数

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問32-2 あなたは建物の何階にお住まいですか。(枠内に数字を記入してください)

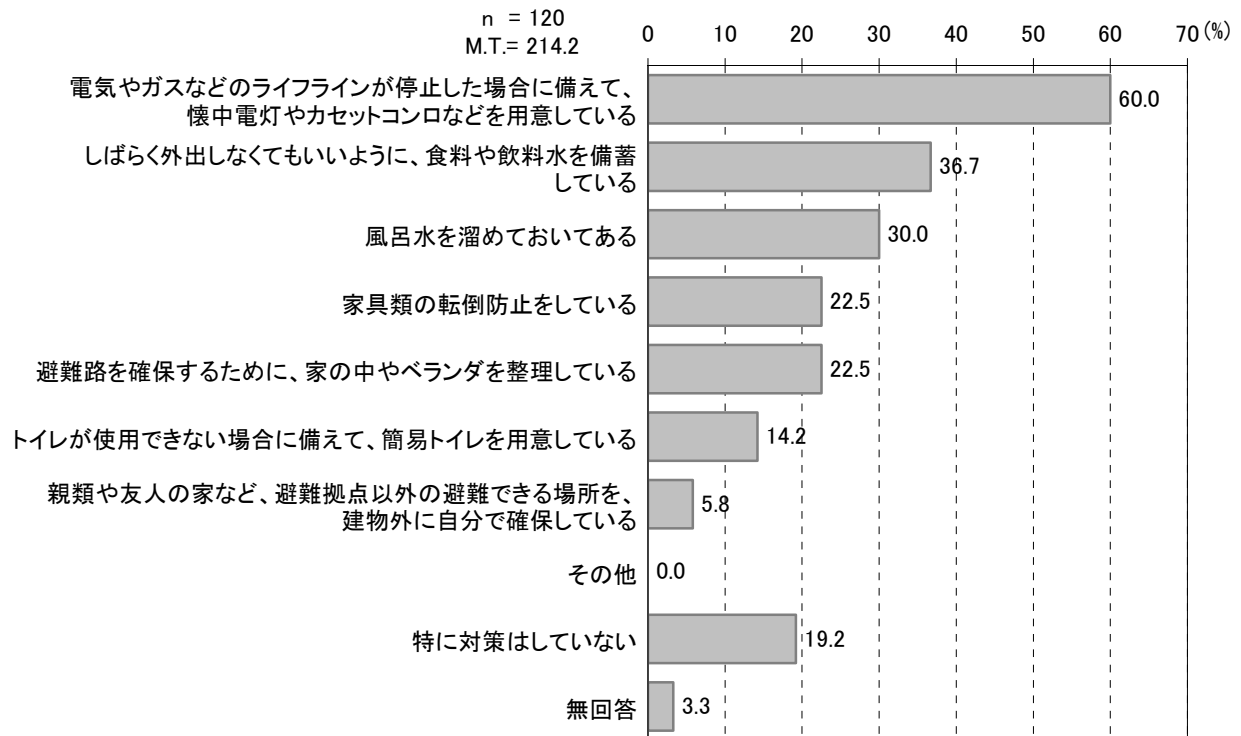


問32-1で「ある」と答えた方に建物の何階に住んでいるか聞いたところ、「2階」(17.5%)、「3階」と「6・7階」(ともに15.0%)、「4階」(14.2%)などの順となっている。

(4) エレベーターが利用できない場合の個人・家庭における対策

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問32-3 あなたは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、個人または家庭でどのような対策をしていますか。(〇はいくつでも)

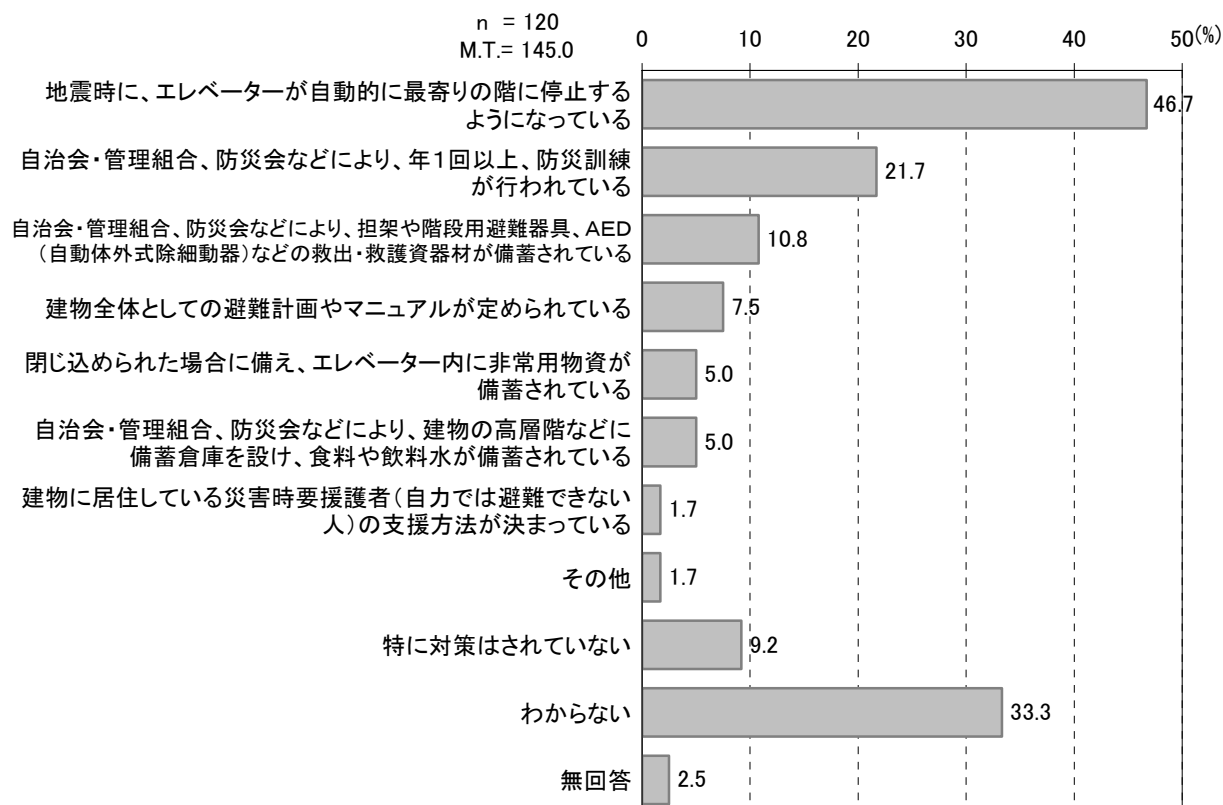


問32-1で「ある」と答えた方に、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、個人または家庭でどのような対策をしているか聞いたところ、「電気やガスなどのライフラインが停止した場合に備えて、懐中電灯やカセットコンロなどを用意している」(60.0%)が6割と最も高くなっている。以下、「しばらく外出しなくてもいいように、食料や飲料水を備蓄している」(36.7%)、「風呂水を溜めておいてある」(30.0%)などの順となっている。

## (5) エレベーターが利用できない場合の建物の対策

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問32-4 お住まいの建物では、地震時のエレベーターの安全確保のため、あるいは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、どのような対策が行われていますか。(〇はいくつでも)

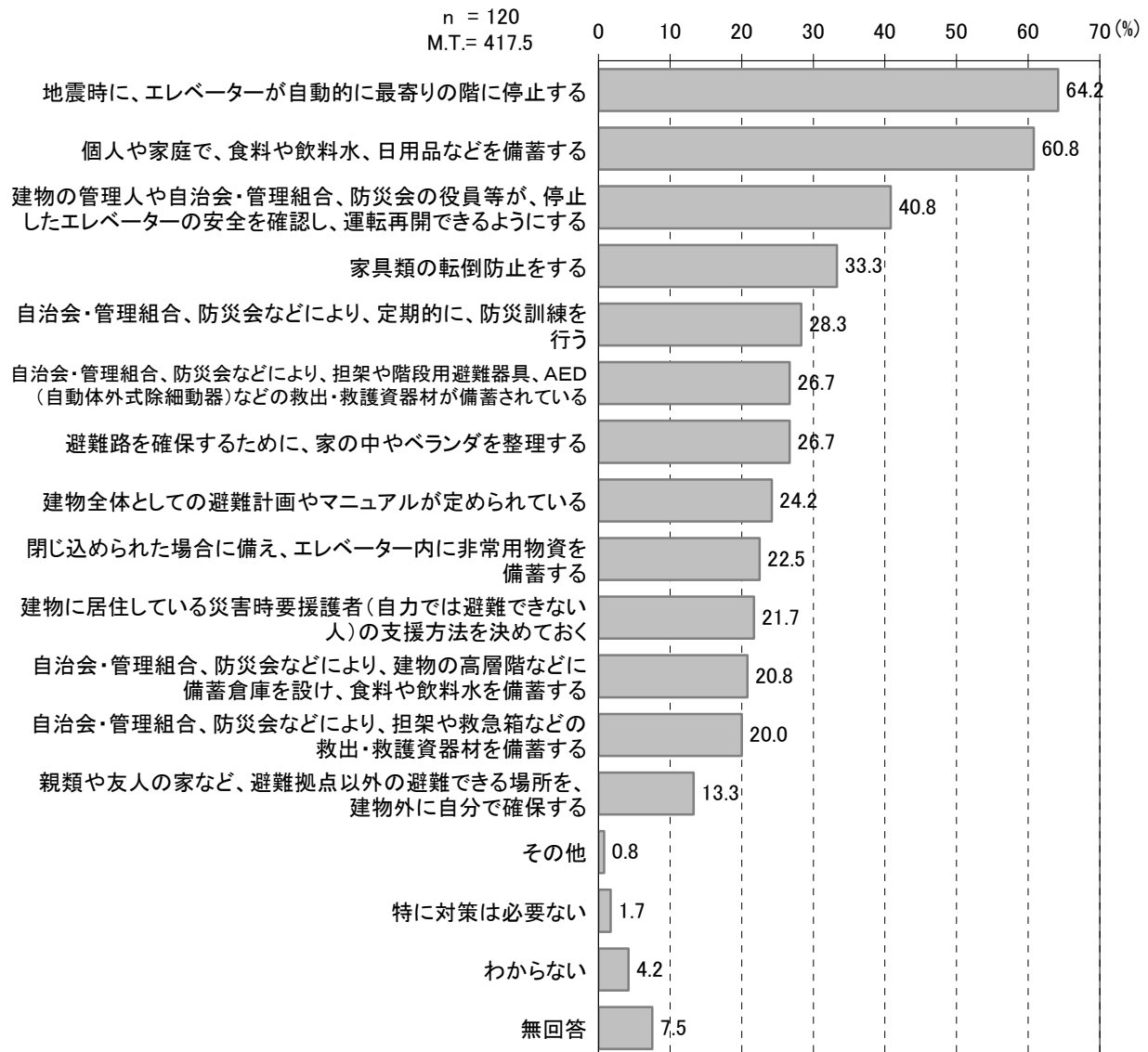


問32-1で「ある」と答えた方に、居住建物では、地震時のエレベーターの安全確保のため、あるいは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、どのような対策が行われているか聞いたところ、「地震時に、エレベーターが自動的に最寄りの階に停止するようになっている」(46.7%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「自治会・管理組合、防災会などにより、年1回以上、防災訓練が行われている」(21.7%)となっている。その他の対策については1割前後、若しくは1割以下となっている。

(6) エレベーターが利用できない場合に必要な対策

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問32-5 あなたは、個人や家庭、またはお住まいの建物で、地震時のエレベーターの安全確保のため、あるいは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、今後、どのような対策が必要だと思いますか。既に実施している対策も含めて結構です。(〇はいくつでも)

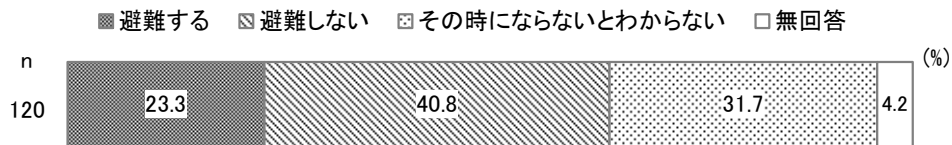


問32-1で「ある」と答えた方に、個人や家庭、または居住建物で、地震時のエレベーターの安全確保のため、あるいは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、今後どのような対策が必要だと思うか聞いたところ、「地震時に、エレベーターが自動的に最寄りの階に停止する」(64.2%)及び、「個人や家庭で、食料や飲料水、日用品などを備蓄する」(60.8%)が6割台と高くなっている。以下、「建物の管理人や自治会・管理組合、防災会の役員等が、停止したエレベーターの安全を確認し、運転再開できるようにする」(40.8%)、「家具類の転倒防止をする」(33.3%)などの順となっている。

## (7) エレベーターが使いなくなった場合の避難

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

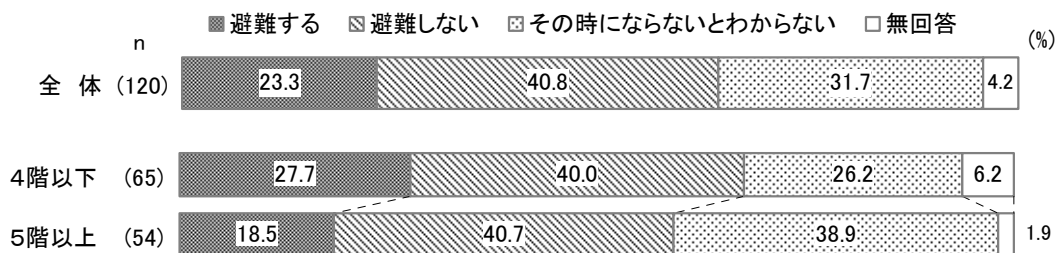
問32-6 お住まいの建物で、もしエレベーターが使いなくなったとしたら、避難しますか。  
(○は1つ)



問32-1で「ある」と答えた方に、居住建物でエレベーターが使いなくなったとしたら、避難するか聞いたところ、「避難しない」(40.8%)が「避難する」(23.3%)を上回っている。また、「その時にならないとわからない」(31.7%)は約3割となっている。

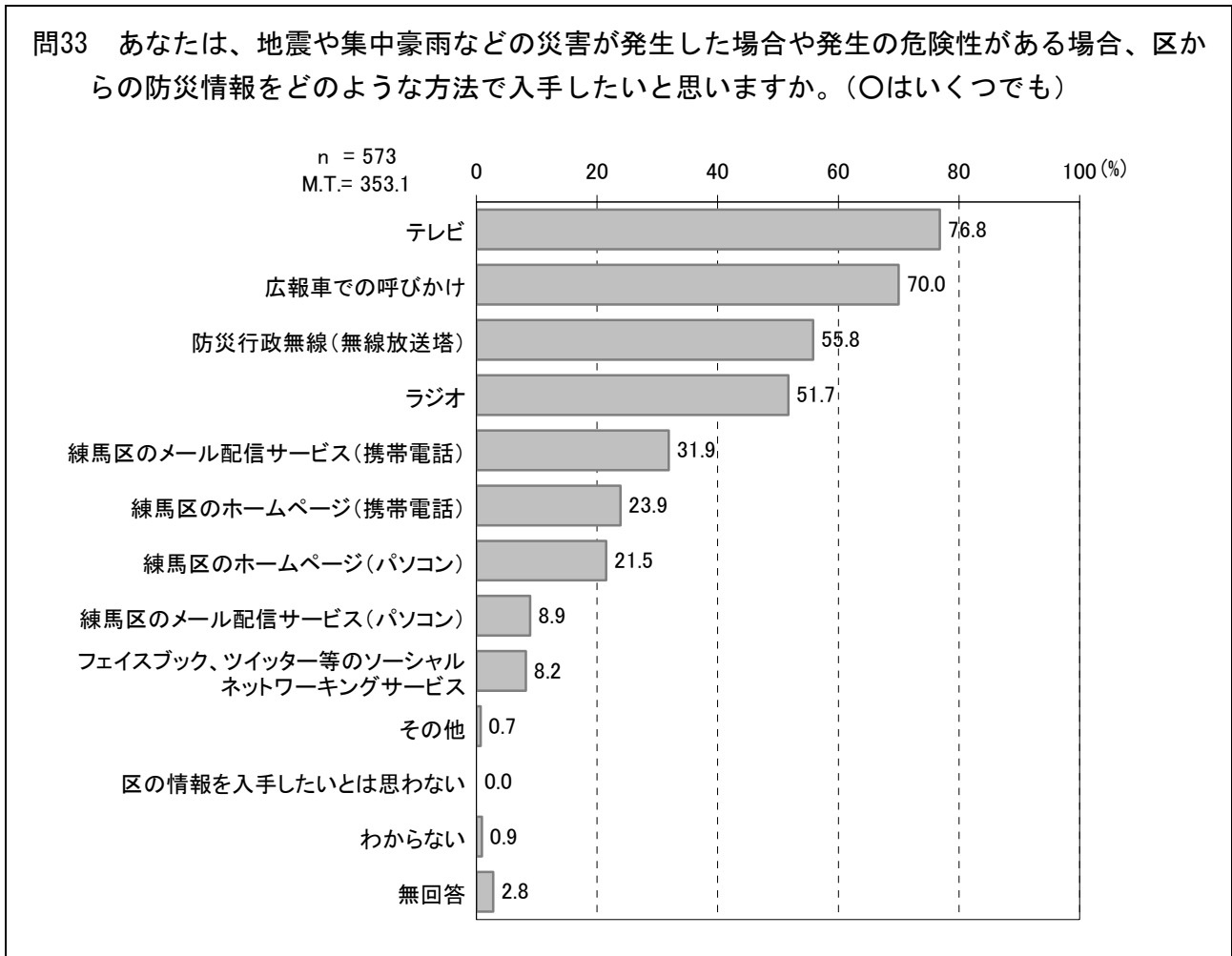
居住階数別にみると、「避難する」は4階以下に居住している人(27.7%)が5階以上に居住している人(18.5%)よりも9.2ポイント高くなっている。「その時にならないとわからない」は5階以上に居住している人(38.9%)が4階以下に居住している人(26.2%)よりも12.7ポイント高くなっている。

## 【居住階数別】



## 10 区の施策について

### (1) 区からの防災情報の入手方法



地震や集中豪雨などの災害が発生した場合や発生の危険性がある場合、区からの防災情報をどのような方法で入手したいか聞いたところ、「テレビ」(76.8%)が7割台半ばと最も高くなっている。以下、「広報車での呼びかけ」(70.0%)、「防災行政無線(無線放送塔)」(55.8%)、「ラジオ」(51.7%)などの順となっている。

性別にみると、「テレビ」は女性（80.7%）が男性（70.9%）よりも9.8ポイント高くなっている。その他は、性別で大きな差はみられない。

年齢別にみると、「テレビ」は70歳以上（82.3%）で8割を超えている。「広報車での呼びかけ」は60歳以上で7割台となっている。「防災行政無線（無線放送塔）」は30歳代（61.8%）、50歳代（65.7%）、60歳代（61.6%）で6割台となっている。また、「ラジオ」は年代が上がるほど割合が高く、「練馬区のホームページ（パソコン）」は年代が低くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。「フェイスブック、ツイッター等のソーシャルネットワーキングサービス」は、20歳代（47.8%）で5割程度と他の年代に比べて極めて高くなっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、「テレビ」はⅡ地区（79.8%）とⅢ地区（80.7%）で8割前後となっている。「広報車での呼びかけ」はⅣ地区を除いて7割台となっている。「防災行政無線（無線放送塔）」はⅠ地区（59.1%）で約6割となっている。

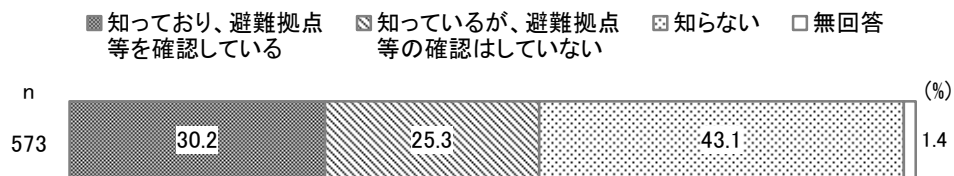
### 【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別】

(%)

	n	テレビ	広報車での呼びかけ	防災行政無線（無線放送塔）	ラジオ	練馬区のメール配信サービス（携帯電話）	練馬区のホームページ（携帯電話）	練馬区のホームページ（パソコン）	練馬区のメール配信サービス（パソコン）	フェイスブック、ツイッター等のソーシャルネットワーキングサービス	その他	区の情報を入手したいとは思わない	わからない	無回答
全 体	573	76.8	70.0	55.8	51.7	31.9	23.9	21.5	8.9	8.2	0.7	0.0	0.9	2.8
性別														
男 性	234	70.9	67.5	57.3	49.1	32.1	25.2	22.6	11.1	9.4	1.3	0.0	1.7	3.8
女 性	332	80.7	72.0	54.8	53.6	31.9	23.2	21.1	7.2	7.5	0.3	0.0	0.3	1.8
年齢別														
20～29歳	46	76.1	58.7	52.2	32.6	28.3	43.5	30.4	8.7	47.8	2.2	0.0	0.0	0.0
30～39歳	76	72.4	65.8	61.8	38.2	42.1	39.5	32.9	9.2	11.8	0.0	0.0	1.3	1.3
40～49歳	88	75.0	67.0	48.9	43.2	47.7	31.8	26.1	6.8	11.4	1.1	0.0	1.1	1.1
50～59歳	102	74.5	68.6	65.7	50.0	35.3	18.6	21.6	12.7	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0
60～69歳	125	76.8	77.6	61.6	60.0	29.6	16.8	19.2	10.4	1.6	0.0	0.0	1.6	4.8
70歳以上	130	82.3	73.1	44.6	66.2	16.9	13.8	11.5	5.4	1.5	0.0	0.0	0.8	3.8
災害時要援護者の有無別														
いる(計)	182	78.6	70.3	58.8	50.5	28.0	24.2	21.4	7.1	6.6	0.5	0.0	1.1	2.7
妊婦	8	87.5	75.0	50.0	25.0	50.0	50.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0
未就学児(乳幼児を含む)	64	76.6	68.8	65.6	39.1	40.6	39.1	37.5	9.4	9.4	0.0	0.0	1.6	0.0
75歳以上の高齢者	96	81.3	71.9	55.2	59.4	24.0	14.6	12.5	8.3	4.2	1.0	0.0	0.0	3.1
視覚・聴覚障がい者	5	80.0	60.0	40.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
身体障がい者	21	81.0	76.2	57.1	61.9	9.5	4.8	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	9.5
自宅療養中の方	24	66.7	70.8	45.8	45.8	8.3	16.7	12.5	0.0	4.2	4.2	0.0	4.2	4.2
いない	275	78.5	71.6	56.0	52.7	37.5	25.5	25.1	12.0	8.4	0.7	0.0	0.7	2.9
地区別														
Ⅰ地区(〒176)	127	74.0	70.9	59.1	51.2	24.4	21.3	19.7	5.5	11.0	1.6	0.0	0.8	2.4
Ⅱ地区(〒177)	173	79.8	71.7	54.9	45.7	32.9	24.3	20.8	9.2	4.6	1.2	0.0	0.6	2.9
Ⅲ地区(〒178)	109	80.7	71.6	54.1	63.3	45.9	26.6	26.6	11.9	8.3	0.0	0.0	0.9	1.8
Ⅳ地区(〒179)	157	72.6	66.9	54.8	51.0	28.0	24.2	21.0	8.9	10.2	0.0	0.0	1.3	3.2

(2) 防災地図の認知度

問34 練馬区では、震災時における避難拠点や医療救護所、防災井戸などを記した「防災地図」を作成しています。「防災地図」は、区が各戸配布している「わたしの便利帳」にはさみこまれているほか、区防災課窓口でも受け取ることができます。あなたは、この「防災地図」をご存知ですか。(〇は1つ)



「防災地図」を知っているか聞いたところ、「知っており、避難拠点等を確認している」(30.2%)と「知っているが、避難拠点等の確認はしていない」(25.3%)を合わせた『知っている』(55.5%)は5割台半ばとなっている。

一方、「知らない」(43.1%)は4割台半ばとなっている。

性別にみると、『知っている』は大きな差はみられない。

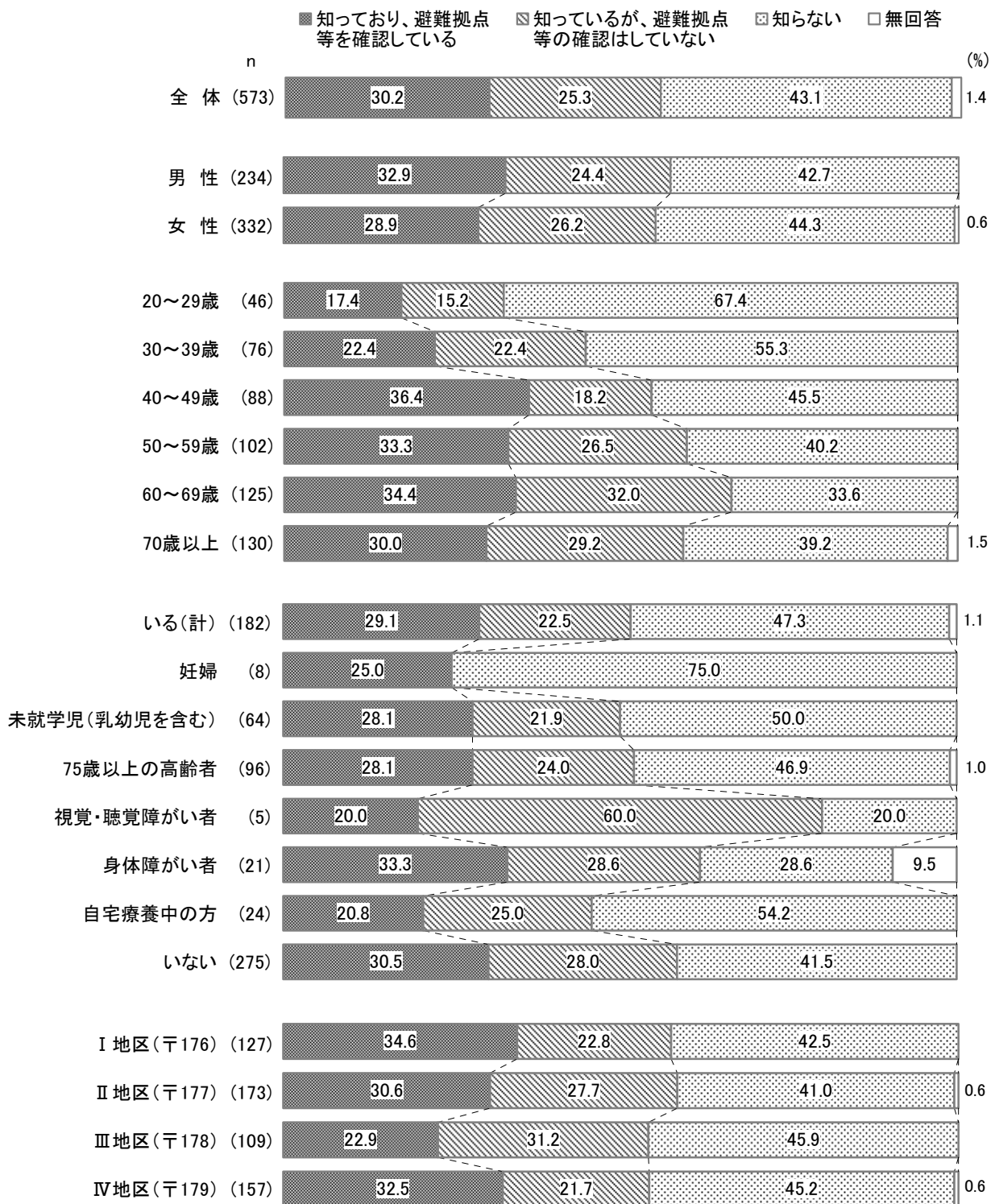
年齢別にみると、『知っている』は60歳代(66.4%)で6割台半ばとなっており、他の世代よりも認知度が高くなっている。一方、「知らない」は20歳代(67.4%)で約7割と最も高くなっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

地区別にみると、『知っている』はどの地区も大きな差はみられないが、「知っており、避難拠点等を確認している」はⅢ地区(22.9%)を除いて3割台となっている。

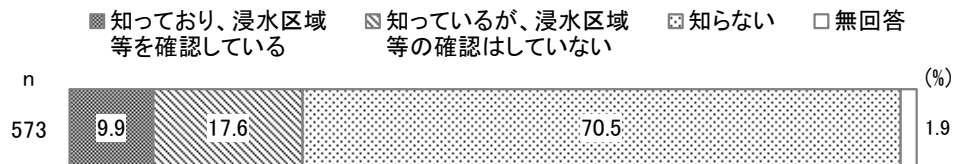


【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(3) 浸水ハザードマップの認知度

問35 練馬区では、浸水が予想される区域とその浸水の深さ、各地域の避難所を示した「浸水ハザードマップ」を作成しており、区防災課窓口、各区民事務所（練馬を除く）、各出張所で受け取ることができます。あなたは、この「浸水ハザードマップ」をご存知ですか。  
 (〇は1つ)



「浸水ハザードマップ」を知っているか聞いたところ、「知っており、浸水区域等を確認している」(9.9%)と「知っているが、浸水区域等の確認はしていない」(17.6%)を合わせた『知っている』(27.5%)は約3割となっている。

一方、「知らない」(70.5%)は約7割となっており、あまり知られていないことがうかがえる。

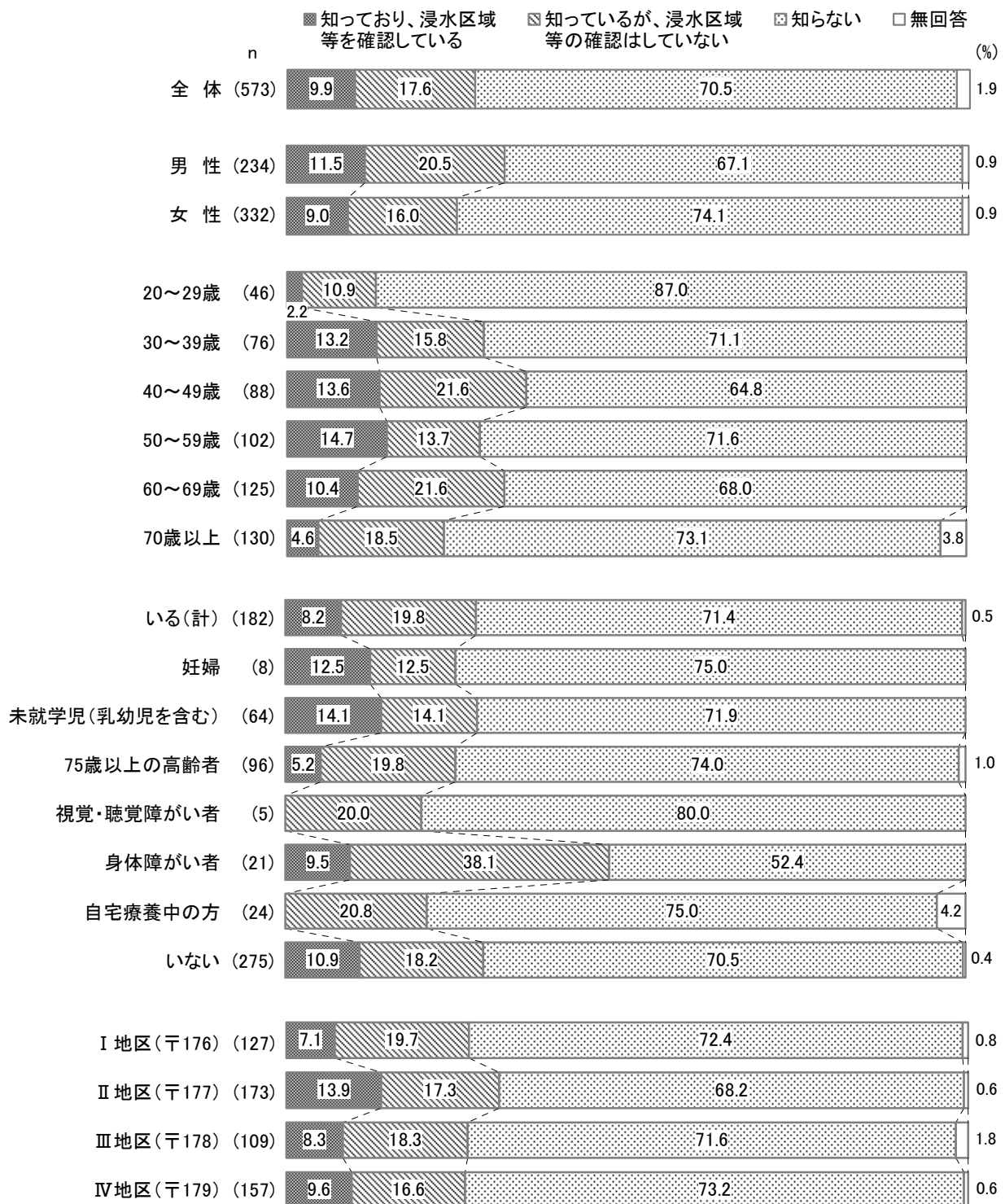
性別にみると、『知っている』は男性(32.0%)が女性(25.0%)よりも7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『知っている』は40歳代(35.2%)と60歳代(32.0%)で3割台となっている。一方、「知らない」は20歳代(87.0%)で、他の年代に比べてやや高い割合となっている。

災害時要援護者の有無別にみると、大きな差はみられない。

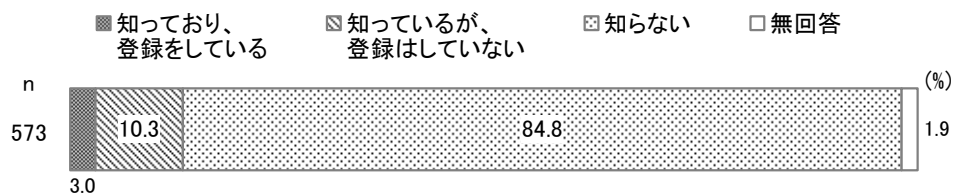
地区別にみると、『知っている』はⅡ地区(31.2%)で3割を超えている。

【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(4) 練馬区防災気象情報配信メールの認知度

問36 練馬区では、防災情報、気象情報等の情報をメールでお知らせする「練馬区防災気象情報配信メール」を実施しています。あなたは、この「練馬区防災気象情報配信メール」をご存知ですか。(○は1つ)

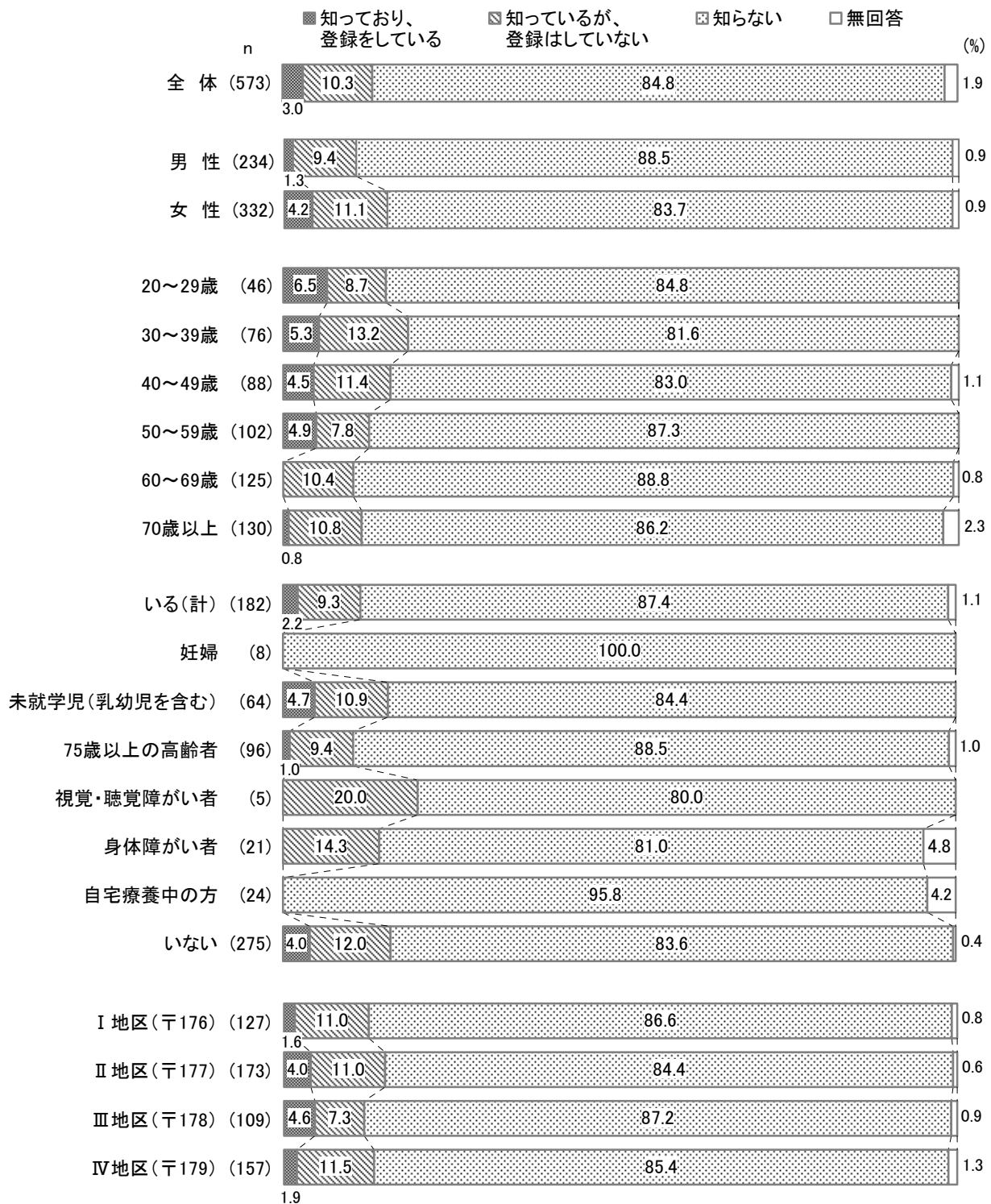


「練馬区防災気象情報配信メール」を知っているか聞いたところ、「知っており、登録をしている」(3.0%)は極めて低い割合となっている。また、「知っているが、登録はしていない」(10.3%)を合わせた『知っている』(13.3%)は1割台半ばとなっている。

一方、「知らない」(84.8%)は8割台半ばとなっており、あまり知られていないことがうかがえる。

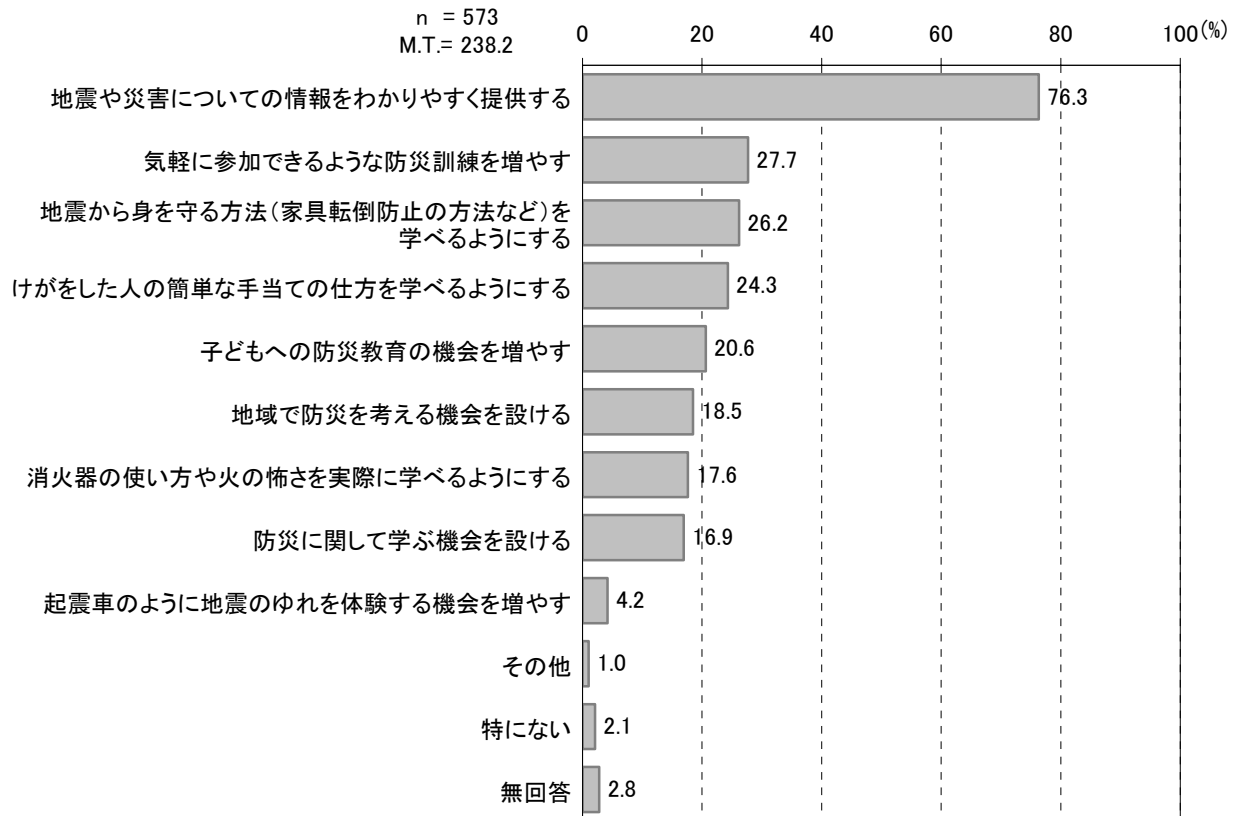
性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別では、大きな差はみられない。

【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別】



(5) 地域の防災意識を高めたり防災活動を活発化するための取り組み

問37 災害が起きたときに安全を守るためには、地域の皆様の力が必要です。そのため、日ごろから地域の防災に関する意識を高めたり、防災活動を活発にしたりすることが大切です。その際に、区がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)



日ごろから地域の防災に関する意識を高めたり、防災活動を活発にしたりするために、区はどのようなことに取り組むべきか聞いたところ、「地震や災害についての情報をわかりやすく提供する」(76.3%)が7割台半ばと最も高くなっている。また、その他の取り組みは、3割未満となっている。

性別にみると、「気軽に参加できるような防災訓練を増やす」は女性（30.4%）が男性（24.4%）よりも6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「地震や災害についての情報をわかりやすく提供する」は70歳以上（86.2%）で8割台半ばとなっており、年代が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。また、「けがをした人の簡単な手当の仕方を学べるようにする」は年代が低くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。

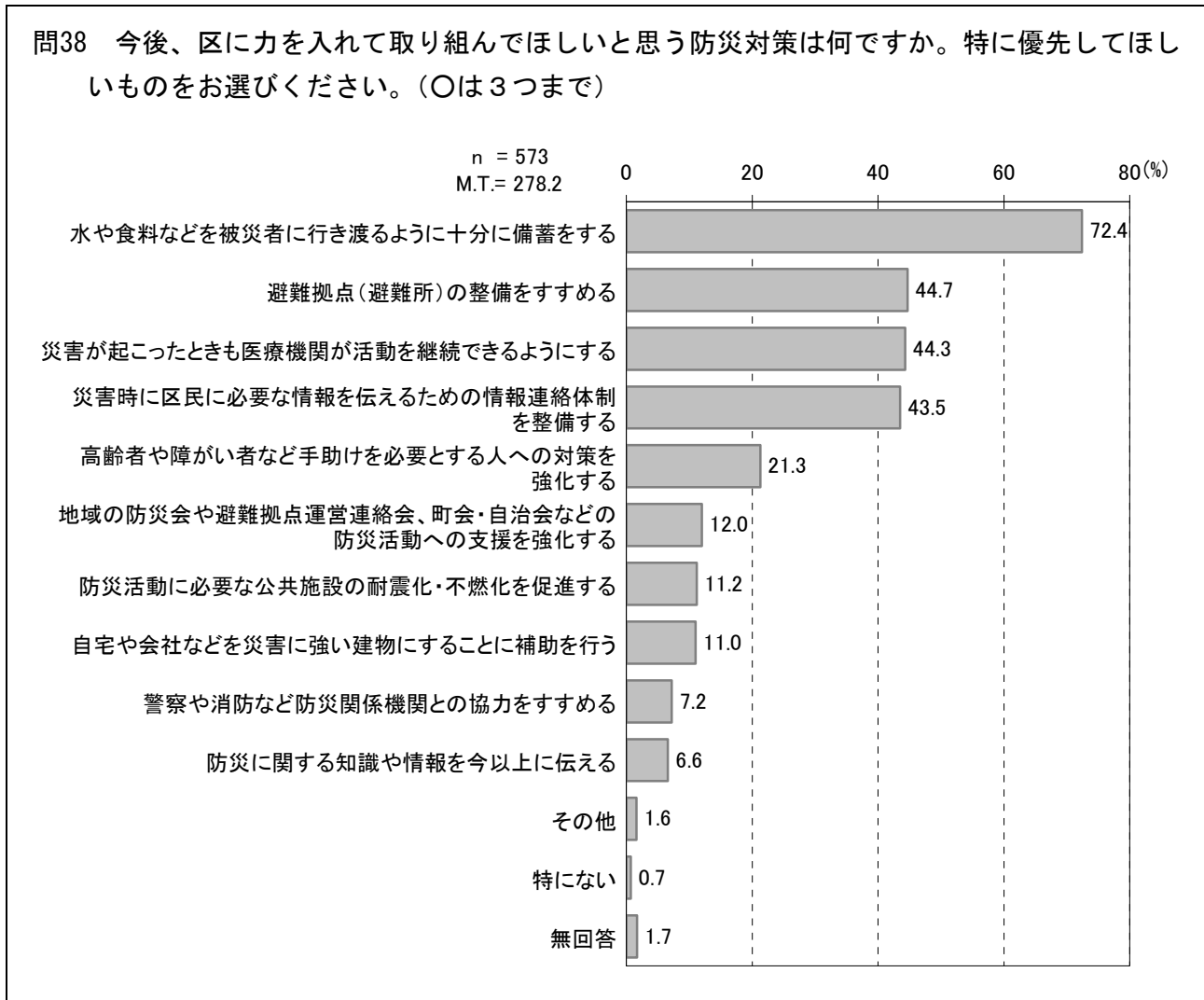
災害時要援護者の有無別にみると、「気軽に参加できるような防災訓練を増やす」は災害時要援護者が家族に“いる”と回答した人（33.5%）が“いない”と回答した人（25.1%）よりも8.4ポイント高くなっている。

地区別にみると、「気軽に参加できるような防災訓練を増やす」はI地区（35.4%）で3割台半ばと他地区と比べて若干高い割合になっている。「地震から身を守る方法（家具転倒防止の方法など）を学べるようにする」はII地区（29.5%）とIII地区（31.2%）で3割前後と他地区と比べて若干高い割合になっている。

### 【性別、年齢別、災害時要援護者の有無別、地区別】

		n	地震や災害について の情報をわかり やすく提供する	気軽に参加できる ような防災訓練を 増やす	地震から身を守る 方法（家具転倒防 止の方法など）を 学べるようにする	けがをした人の簡 単な手当の仕方 を学べるように する	子どもへの防災 教育の機会を増 やす	地域で防災を考 える機会を設け る	消火器の使い方 や火の怖さを実 際に学べるように する	防災に関して学 ぶ機会を設ける	起震車のように 地震のゆれを体 験する機会を増 やす	その他	特 に ない	無 回 答
全 体		573	76.3	27.7	26.2	24.3	20.6	18.5	17.6	16.9	4.2	1.0	2.1	2.8
性別	男 性	234	77.8	24.4	25.2	22.2	20.5	21.4	15.0	18.8	3.4	2.1	3.8	0.0
	女 性	332	76.8	30.4	27.1	26.2	21.1	16.9	19.9	16.0	4.8	0.3	0.9	3.0
年齢別	20～29歳	46	69.6	21.7	23.9	56.5	10.9	6.5	15.2	10.9	6.5	2.2	6.5	0.0
	30～39歳	76	69.7	39.5	25.0	34.2	32.9	14.5	17.1	13.2	3.9	3.9	0.0	0.0
	40～49歳	88	71.6	28.4	25.0	22.7	29.5	21.6	17.0	14.8	3.4	1.1	2.3	1.1
	50～59歳	102	77.5	26.5	26.5	21.6	18.6	13.7	24.5	22.5	0.0	0.0	3.9	1.0
	60～69歳	125	78.4	30.4	26.4	21.6	17.6	24.8	16.0	19.2	8.0	0.0	1.6	2.4
	70歳以上	130	86.2	22.3	29.2	13.8	16.2	21.5	16.2	16.9	3.8	0.8	0.8	3.8
災害時 要援護 者の有 無別	いる(計)	182	80.2	33.5	23.6	24.2	26.9	21.4	17.0	14.8	5.5	1.6	1.1	0.5
	妊婦	8	87.5	50.0	12.5	50.0	62.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	未就学児(乳幼児を含む)	64	70.3	43.8	23.4	23.4	40.6	23.4	12.5	14.1	7.8	4.7	1.6	0.0
	75歳以上の高齢者	96	86.5	27.1	26.0	27.1	11.5	22.9	14.6	16.7	4.2	0.0	1.0	1.0
	視覚・聴覚障がい者	5	80.0	20.0	60.0	40.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	身体障がい者	21	90.5	19.0	19.0	33.3	33.3	14.3	42.9	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0
	自宅療養中の方	24	83.3	20.8	33.3	20.8	25.0	25.0	29.2	16.7	4.2	0.0	0.0	0.0
いない	275	75.6	25.1	28.0	22.2	19.6	18.2	19.3	18.5	3.3	0.7	3.3	1.1	
地区別	I地区(〒176)	127	78.0	35.4	18.9	28.3	20.5	15.0	17.3	19.7	6.3	0.0	3.1	0.8
	II地区(〒177)	173	75.1	23.7	29.5	20.8	20.8	17.9	20.2	16.2	2.3	1.7	2.9	1.7
	III地区(〒178)	109	77.1	28.4	31.2	24.8	22.9	22.9	15.6	14.7	4.6	1.8	1.8	3.7
	IV地区(〒179)	157	78.3	26.1	26.1	25.5	19.7	19.7	17.2	17.2	4.5	0.6	0.6	1.3

(6) 今後区に取り組んでほしい防災対策



今後、区に力を入れて取り組んでほしいと思う防災対策を聞いたところ、「水や食料などを被災者に行き渡るように十分に備蓄をする」(72.4%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「避難拠点(避難所)の整備をすすめる」(44.7%)、「災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする」(44.3%)、「災害時に区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する」(43.5%)が4割台となっている。



性別にみると、「地域の防災会や避難拠点運営連絡会、町会・自治会などの防災活動への支援を強化する」は男性（15.4%）が女性（9.9%）よりも5.5ポイント高くなっている。その他は性別でそれほど大きな差はみられない。

年齢別にみると、「水や食料などを被災者に行き渡るように十分に備蓄をする」はどの世代でも一番高い割合となっている。次いで、30歳代から50歳代では「避難拠点（避難所）の整備をすすめる」、20歳代及び60歳代では「災害時に区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する」、70歳以上では「災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする」が2番目に高い割合となっている。

地区別にみると、「水や食料などを被災者に行き渡るように十分に備蓄をする」はどの地区でも一番高い割合となっている。また、Ⅱ地区及びⅣ地区では「避難拠点（避難所）の整備をすすめる」、Ⅰ地区及びⅢ地区では「災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする」が2番目に高い割合となっている。

## 【性別、年齢別、地区別】

(%)

		n	水や食料などを被災者に行き渡るように十分に備蓄をする	避難拠点（避難所）の整備をすすめる	災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする	災害時に区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する	高齢者や障がい者など手助けを必要とする人への対策を強化する	地域の防災会や避難拠点運営連絡会、町会・自治会などの防災活動への支援を強化する	防災活動を促進する 燃化を促進する	自宅や会社などを災害に強い建物にすることに補助を行う	警察や消防など防災関係機関との協力をすすめる	防災に関する知識や情報を今以上に伝える	その他	特にない	無回答
全体		573	72.4	44.7	44.3	43.5	21.3	12.0	11.2	11.0	7.2	6.6	1.6	0.7	1.7
性別	男性	234	73.1	45.3	43.2	44.0	20.1	15.4	10.7	9.4	9.4	6.4	1.7	0.9	0.0
	女性	332	73.2	44.9	46.1	43.7	22.6	9.9	11.7	12.3	5.7	6.9	1.5	0.6	1.2
年齢別	20～29歳	46	78.3	34.8	43.5	52.2	21.7	6.5	17.4	13.0	4.3	4.3	4.3	0.0	0.0
	30～39歳	76	81.6	47.4	43.4	42.1	10.5	11.8	11.8	18.4	7.9	5.3	1.3	0.0	0.0
	40～49歳	88	84.1	51.1	38.6	47.7	14.8	5.7	11.4	13.6	9.1	5.7	1.1	0.0	0.0
	50～59歳	102	72.5	52.0	49.0	44.1	17.6	11.8	9.8	9.8	6.9	5.9	2.9	0.0	1.0
	60～69歳	125	69.6	48.0	40.0	49.6	21.6	16.8	12.0	6.4	8.0	8.0	0.8	0.8	0.0
	70歳以上	130	63.1	35.4	51.5	33.8	35.4	14.6	9.2	10.0	6.2	8.5	0.8	2.3	2.3
地区別	Ⅰ地区(〒176)	127	64.6	38.6	50.4	44.1	24.4	12.6	15.0	12.6	8.7	7.9	1.6	1.6	0.0
	Ⅱ地区(〒177)	173	76.9	50.9	39.9	47.4	20.2	9.8	7.5	8.7	6.4	6.4	3.5	1.2	0.6
	Ⅲ地区(〒178)	109	76.1	36.7	49.5	40.4	21.1	16.5	11.9	16.5	6.4	4.6	0.0	0.0	2.8
	Ⅳ地区(〒179)	157	73.9	49.7	42.7	42.7	20.4	11.5	12.1	8.9	7.6	7.6	0.6	0.0	0.0

## 11 自由意見

## (1) 行政に対する要望や防災に対する意見

F5 最後に、行政に対する要望や防災に対するご意見等がありましたら、ご記入ください。

203人から延べ226件の回答が得られた。回答の内容が複数の項目に渡る場合は、原文の内容をそこなわないう下表の項目ごとに分類した。内訳は下表のとおりである。

項 目	件数
<b>平常時、行政に対する要望</b>	
東日本大震災の経験を活かして対策をしてほしい	8
放射線対策	3
地域防災計画の充実	2
災害時要援護者対策	13
建築物の耐震化の促進	9
災害時の避難路の整備	8
集合住宅への対策	5
家具の転倒防止策の推進（転倒防止器具の配布や販売、対策の促進）	2
仮設住宅用の土地の確保	2
防災に関する情報提供	36
防災行政無線の整備	19
物資の備蓄	27
避難時の防犯、防火対策	1
避難する場所の整備	10
ペット対策	7
地域のつながりの強化	2
行政に対する要望その他	23
<b>自分自身が行う対策に関すること</b>	
自ら災害に対する意識を高める	5
自分自身が行う対策その他	6
<b>地域に関すること</b>	
町会・自治会をもっと活用すべき	4
町会・自治会に参加できないので不安	2
防災訓練	3
地域関係その他	1
<b>災害発生時、行政に対する要望</b>	
情報提供、通信連絡手段の確保	17
幼稚園児、小学生などの対策	3
帰宅困難者対策	1
<b>その他</b>	
このアンケートの活用について	6
さらにアンケートを行うべき	1
その他アンケートに対する意見	2
その他行政、公共機関に対する意見	21
その他	3
合 計	226

以下に一部を抜粋して、基本的に原文のまま掲載した。

## 平常時、行政に対する要望

### 【東日本大震災の経験を活かして対策をしてほしい】

- ・東日本大震災から多くのことを学び取り、施策に反映して頂きたいと思います。(男性/30～39歳)
- ・練馬区の職員の方が東北に派遣されていましたが、その際の経験を活かした対応をして欲しいです。(女性/30～39歳)
- ・東日本大震災で水の確保とトイレに非常に苦勞しました。電気、ガスの復旧は早かったのですが、水道の復旧は非常に時間がかかりました。考えておいて欲しいと思います。(男性/40～49歳)

### 【放射線対策】

- ・震災の2次被害、特に原子力発電所の事故など2度と起こらないように区民をリードして欲しい。(女性/30～39歳)

### 【地域防災計画の充実】

- ・今後も防災計画に力を入れてください。(男性/50～59歳)

### 【災害時要援護者対策】

- ・一人では避難が難しい老人や乳幼児を抱えた人達への対策。避難拠点の充実。(女性/50～59歳)
- ・税金を上げてもいいので、医療等を充実させ生活弱者となった際にお金がかからないようにして欲しい。(男性/30～39歳)
- ・一人住まいのためいつでも不安で一杯です。民生委員の人にたまに来て頂いて色々アドバイスを頂きたい。(不明)
- ・高齢者が健康であると何の支援や連絡がなく、大災害があった時、1人で2人の面倒を見られるか心配。高齢者を区は把握しているのだろうか。(女性/50～59歳)

### 【建築物の耐震化の促進】

- ・練馬区で大地震が起こった場合、水害よりも家やビルの倒壊および火事の被害が重大になるように思われるので、それらに対する対策が重要と思います。(男性)

### 【災害時の避難路の整備】

- ・道路整備、避難救助活動をスムーズに行う。(男性/70歳以上)
- ・バス通り等を含めた生活道路が狭く、電柱が出っ張っている所も少なくありません。そのような道路の整備をお願いしたい。(不明)
- ・歩道の整備、植木等の植え込みの幅を小さくし、歩ける幅を広くしてなるだけ平らにし、車椅子など通りやすくして欲しい。段差も多いです。傾斜している所も多いです。安全な歩道をお願いします。(女性/70歳以上)

### 【集合住宅への対策】

- ・防災訓練の必要性を住民(集合住宅)に指導強化。(不明)

### 【家具の転倒防止策の推進(転倒防止器具の配布や販売、対策の促進)】

- ・家具転倒防止の器具を配布して欲しい。(女性/20～29歳)

### 【仮設住宅用の土地の確保】

- ・災害は必ず来ると予想し、仮設住宅を速やかにできるよう準備しておいて欲しいと思います。(女性／70歳以上)

### 【防災に関する情報提供】

- ・自助力、共助、公助をバランス良く効率的に働かせるよう活発に広報啓蒙活動をお願いします。(男性／50～59歳)
- ・ねりま区報はよく見えています。しかし地震に関連したような情報や対処の仕方はまとめて特別区報として出してもらいたい。(女性／60～69歳)
- ・練馬区に住んで1年になります。練馬区の情報には主に近所の掲示板、図書館での掲示などで知ることが多いです。災害時、誰にでも分かりやすくシンプルな行動が取れるよう、案内、掲示して頂けると助かります。私自身、災害時には協力もしたいと思っています。(女性／40～49歳)
- ・各家庭で必ず(防災必需品)確保しておくもの、水×何本×人数、具体的に全員が揃えることを義務付けて欲しい。その為に見やすいパンフレットや実際用意できているかをチェックできる方がいましたら有難いです。それと食料や水などコンパクトに保管できるように防災グッズを改善してお知らせください。皆さん何処に置いていますか。(女性／40～49歳)
- ・防災地図、浸水ハザードマップ、練馬区防災気象情報配信メールを今回のアンケートで知りました。こういったものを配布していることをもっと区報などに大きく載せるべきだと思います。また新聞をとっていない為、区報を見ていない人もいますので、区内の大きな駅などに配布を知らせるポスターなどを9月や3月に貼って周知を図ってはどうでしょうか。(不明)

### 【防災行政無線の整備】

- ・電気が止まっても防災無線は使えるようにして下さい。(女性／60～69歳)
- ・無線放送塔の音が反響してしまい聞き取りにくい時があるので何とかして頂きたい。(女性／50～59歳)
- ・東日本大震災の際、防災行政無線が何を言っているのか非常に聞き取りづらかった。何らかの改良をして欲しい。(不明)
- ・肝心の防災無線が言葉が重なることと、線路の近くということもあり聞き取れません。停電すると情報の生命線なので改善をお願いします。(不明)

### 【物資の備蓄】

- ・地震や災害などが起きた時に、食料や水その他のものを準備しておく必要があると思います。(不明)
- ・食料や水の確実な確保、具体的な品名や数、何日分のものが供給されるのか知っておきたい。(女性／30～39歳)
- ・備蓄も水、燃料、トイレ対策だけは必要と思えば備えている。特に水は大切。また乾物類、缶詰なども必要と思う。(女性／50～59歳)
- ・大規模災害が起きた場合、速やかに避難拠点等へ水、食料、トイレ、通信手段を配備できるような体制を整えて下さい。(男性／40～49歳)
- ・避難拠点の備品や医療、食料等は明確にし、充実を常に図って欲しい。災害時は我々住人が主体に行動を行うことになっている。交通マヒで官公庁関係者はすぐ来られないとのこと。(男性／70歳以上)

**【避難時の防犯、防火対策】**

- ・避難時の防犯、防火対策。目に見える方法が望まれる。新聞やTV等で近い将来その発生が予測されている。早急に対策を講じ区都共同で実行して下さい。60万人以上の区民の安全を守る責務がありますよ。(男性/70歳以上)

**【避難する場所の整備】**

- ・避難拠点と都指定避難場所が同程度の距離の場合、どちらに避難すべきですか。各々の防災設備を教えて欲しい。(女性/70歳以上)
- ・4年以内に70%の確率で大地震が来ると聞き、大きな不安と共に今準備できることはしておかなくてはと改めて思っています。避難所に人が溢れて入れないなんていう事態もあるのかと想像したりします。万一の時、とにかく多くの人々が避難できる場所の確保、当面の最低限の生活の保障、医療現場への受け入れができるだけスムーズに行くことをまず望みます。(不明)

**【ペット対策】**

- ・我が家はペットがいます。一緒に避難できる場所を希望します。ペットのいない人、ペットのいる人、別々の避難所ができることを希望します。(女性/60~69歳)

**【地域のつながりの強化】**

- ・町会のつながりがよく分からないので行政からの働きかけをもっとして欲しい。町会はあるみたいだけど何も分からない。(不明)

**【行政に対する要望その他】**

- ・区の防災拠点の拡充(設置方法など)。(女性/60~69歳)
- ・経費の用途も色々あると思われませんが、最悪の状態を想定し安全第一を最優先して活動して頂きたい。(男性/60~69歳)
- ・元気な高齢者(退職者)等の方々の力を緊急時に活用できたら良いので、平常時から組織できないものだろうか。(男性/70歳以上)
- ・住民の意見を聞きながら、あらゆるケースを想定した防災施策、対策の見直しが進められているとの事。早急に立案願いたい。(男性/30~39歳)
- ・職員の配備やボランティアの組織化など、どの地域においても指揮系統をはっきりして迅速に対応することが一番大切かと思います。(女性/60~69歳)
- ・地震が起きた時など車は(トラック乗用車など)すぐ止めて車を側面に着けて救急車、消防車などがスムーズに通れるよう、徹底した対策をして欲しいです。(不明)
- ・今回、練馬区は被災地に比べると被害は全くないと言っていいほどでした。なので冷静に被災地を助けるボランティアや救助活動のガイドラインを作ったらどうですか。1ヶ月位学校が休校になり、五体満足な高校生、大学生が自宅待機したり何か伝えることはないかと思います。(女性/50~59歳)

**自分自身が行う対策に関すること****【自ら災害に対する意識を高める】**

- ・災害時に被害を最小限にする努力は常にやっておいて頂きたいと思います。(男性/50~59歳)
- ・東北の地震が起きてから改めて防災に対しての考え方が変わりました。一人ひとりの意識の変化によって防げることも沢山あると思います。(女性/20~29歳)

### 【自分自身が行う対策その他】

- ・私の場合は一般の人と違う聴覚障害者なので、年も年だし対策といっても特になし。自分の出来る範囲で努力する。(不明)
- ・災害になった時は、今このような状態では考えられない。その場になったら慌てて考えている。行動できないのでは。落ち着いたら人々の為全力で助けたいと思います。(女性/70歳以上)
- ・現在76歳健康で生きている故、協力したいという思いはいっぱいありますが、かえって出過ぎると人に迷惑かけるのではないかと思います。せめて自分の身だけは安全性を考え行動したいと思います。(女性/70歳以上)

## 地域に関すること

### 【町会・自治会をもっと活用すべき】

- ・次は地域住民が現実に行動できるかどうかだと思います。各防災会のリードで防災について集団学習する機会が必要だと思います。(男性/40~49歳)

### 【町会・自治会に参加できないので不安】

- ・我が家のような転勤族、賃貸入居者のような人は周囲に知り合いもなく、いざという時とても不安です。そういう人達をまとめる防火活動の充実を希望します。(女性/50~59歳)

### 【防災訓練】

- ・防災訓練や活動にもう少し若い人達の参加を望みます。(女性/50~59歳)

### 【地域関係その他】

- ・高齢化で手助けを必要とする人が多くいると思うが、練馬区を故郷としていない若い人達に地域とのつながりあいや、助け合いの心を普段から啓蒙していく必要があると思う。(女性/60~69歳)

## 災害発生時、行政に対する要望

### 【情報提供、通信連絡手段の確保】

- ・地震防災の時は無線放送塔と広報の車の呼びかけよろしくお願い致します。(男性/70歳以上)
- ・震災時の情報等をパソコン、メール等ではなく無線放送等で分かりやすく対応の早い提供を希望します。(不明)
- ・区の安全安心メールに登録しているため、災害時はそのメールでも情報が受けられるようになると有難いです。昨年の災害時はパソコンで見たのですが。(女性/40~49歳)
- ・万一震災に遭った場合、一番に震災の正確な情報を区民に知らせる体制を整えて欲しい。方法は1つではなく様々な起こりうる状況を想定した上で。例えばテレビが壊れた場合、それに替わる物(強度の強い何か)を予め提供・・・情報が早く行き渡る専用のラジオなど。(女性/30~39歳)

### 【幼稚園児、小学生などの対策】

- ・練馬区に住んで初めての大震災を体験し、一番に考えたのは家から出たものの、どこが安全かわからず近所の方と私道に座るだけでした。子供もいますし動けないだけでした。行政に対しての要望は保育所、幼稚園にもし子供がいた場合、何時に迎えに行けるかは、その時にしか分かりません。その不安だけでも解消して欲しいです。少し早く迎えに行かなければ大変困っていた方を見ました。(女性/30~39歳)

**【帰宅困難者対策】**

- ・練馬駅に近いが帰宅困難者が多く出たが、区の対応はなかった。区の情報伝達もあつたら良いと思う。(男性/50~59歳)

**その他****【このアンケートの活用について】**

- ・このようなアンケートを取ってちゃんと皆の意見が生かされるのでしょうか。何事にも後手後手にならないようにして下さい。(女性/60~69歳)

**【さらにアンケートを行うべき】**

- ・今回のアンケートでも災害に対する意識が増して準備が足りないを実感できたので、自治会や町会などで各家ごとに聞き取りアンケート（簡単な形でも）に回り、意識を高めるなど能動的な形で啓蒙に努めてもらいたい。(女性/50~59歳)

**【その他行政、公共機関に対する意見】**

- ・昼間は一人なので不安です。(女性/60~69歳)
- ・災害の大きさによると思うが自宅避難を強く希望する。(男性/60~69歳)
- ・練馬区はとても防災に力を入れていて素晴らしいと思います。練馬区に住めて嬉しいです。(男性/40~49歳)

**【その他】**

- ・東日本大震災をテレビで見て思うことは、あのような大震災がこの東京で起こるとなると、何をしてもまず逃げなくてはいけないと思う。でもどこへ逃げればいいのか。山もなければ丘もない東京で、高い所はビル、高い建物だけです。津波が来なければいいけど。(不明)





## 参考資料 1 集計表



【1 大地震への不安について】

問1 大地震の不安を感じるか		無回答	
調査数	573	100.0	90.1
不安を感じる(計)	516	244	42.6
非常に不安を感じる	272	47.5	
少し不安を感じる	29	5.1	
不安を感じない(計)	26	4.5	
あまり不安を感じない	3	0.5	
全く不安を感じない	28	4.9	

【1 大地震への不安について】

問2 居住地域で大地震にあった場合、特に心配なこと		問1 大地震への不安について	
調査数	573	何も分からないこと	15
土砂くずれ・がけくずれ	5	ペットのケア	47
液状化現象	11	区民防災組織が機能するか	27
火災の発生	315	消火隊などが同時多発したときの不足	60
ガスなどの危険物の爆発	65	避難所生活	78
建物の倒壊	291	近くに避難拠点（避難所）がないこと	12
道路沿いのブロック塀等の倒壊	42	治安	34
支災害時要援護者（災害弱者）の	40	けがや病気の場合の医療体制	154
道路沿いのブロック塀等の倒壊	42	トイレの不足	166
道路沿いのブロック塀等の倒壊	7.3	食料や飲料水などが確保できないこと	292
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	日用品が不足すること	112
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	電気、ガス、水道の供給停止	391
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	金融機関の混乱	20
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	情報の混乱	86
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	電話などの通信機能の停止や混乱	221
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	道路や鉄道機関の被害や混乱	113
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	エレベーターの停止（閉じ込め）	57
支災害時要援護者（災害弱者）の	7.0	エレベーターの停止（閉じ込め）	9.9

問2 居住地域で大地震にあった場合、特に心配なこと

避難拠点（避難所）を知らない	15	無回答	6
避難拠点（避難所）を知らない	2.6	わからない	1
避難拠点（避難所）を知らない	2.6	心配なことはない	0.2
避難拠点（避難所）を知らない	2.6	その他	13
避難拠点（避難所）を知らない	2.6	その他	2.3
避難拠点（避難所）を知らない	2.6	その他	0.2
避難拠点（避難所）を知らない	2.6	その他	1.0

【2 住宅の地震対策について】

問3 練馬区居住年数

	30年以上	20年以上30年未満	10年以上20年未満	5年以上10年未満	1年以上5年未満	1年未満	無回答
調査数	213	106	106	59	65	20	4
	100.0	37.2	18.5	10.3	11.3	3.5	0.7

問4 住居の建築年代

	〔昭和55年6月1日～昭和60年5月31日〕	〔昭和56年6月1日～昭和60年5月31日〕	〔昭和61年6月1日～昭和65年5月31日〕	〔昭和66年6月1日～昭和70年5月31日〕	〔昭和71年6月1日～昭和75年5月31日〕	〔平成1年6月1日～平成10年5月31日〕	〔平成11年6月1日～平成20年5月31日〕	〔平成21年6月1日～平成30年5月31日〕	〔平成31年6月1日～平成40年5月31日〕	無回答
調査数	13	34	103	111	153	114	34	9	1.6	
	2.3	5.9	18.0	19.4	26.7	19.9	5.9	0.3	1.6	

問5 住居の構造

	木造住宅	軽量鉄骨造住宅	(重量)鉄骨造住宅	鉄筋コンクリート造住宅	その他	わからない	無回答
調査数	285	37	27	185	3	28	8
	100.0	49.7	6.5	32.3	0.5	4.9	1.4

問6 住居形態

	自己の持ち家(一戸建)	戸建やその他の親類の持ち家(一戸建)	等自己の持ち家(分譲マンション)	譲親やその他の親類の持ち家(分譲マンション等)	賃貸住宅(一戸建・長屋建)	賃貸住宅(賃貸マンション等)	社宅・寮・下宿等	その他	無回答
調査数	251	43	91	10	26	133	13	2	4
	100.0	43.8	15.9	1.7	4.5	23.2	2.3	0.3	0.7

問6-1 耐震診断の受診

	受けた	今後受ける予定である	受けていない	わからない	無回答
調査数	35	1	218	21	19
	11.9	0.3	74.1	7.1	6.5

【2 住宅の地震対策について】

問6-1-1 耐震診断を受けていない理由

調査数	218	49	15	22	4	43	32	-	14	1	3	1	23	3	8
100.0	22.5	6.9	10.1	1.8	19.7	14.7	-	-	6.4	0.5	1.4	0.5	10.6	1.4	3.7
	あり、必要だと思わないから	不経過年数や構造から見て、強度が不足していることがはっきりしているから	診断方法がわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	被害は避けられないと思うから	大地震が起こると思わないから	新築だから	耐震改修済みだから	建て替える予定だから	転居する予定だから	い（どこに頼めば良いかわからないから信用できる業者がわからないから）	その他	無回答	

問6-2 耐震改修の実施

調査数	294	24	5	222	15	28
100.0	8.2	1.7	75.5	5.1	9.5	
	耐震改修を行った	今後耐震改修を行う予定である	耐震改修は行っていない	わからない	無回答	

問6-2-1 耐震改修を行わない理由

調査数	222	58	17	5	54	40	1	16	3	1	3	14	14	9	4
100.0	26.1	7.7	2.3	24.3	18.0	0.5	0.5	7.2	1.4	0.5	6.3	4.1	1.8		
	あり、必要だと思わないから	耐震改修のやり方がわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	改修しても大地震の被害は避けられないと思うから	大地震が起こると思わないから	新築だから	建て替える予定だから	転居する予定だから	い（どこに頼めば良いかわからないから信用できる業者がわからないから）	その他	無回答			

問7 地震による建物被害を補償する保険・共済への加入

調査数	573	40	170	255	94	14
100.0	7.0	29.7	44.5	16.4	2.4	
	加入していて補償も十分である	加入しているが補償額には不安がある	加入していない	わからない	無回答	

問7-1 マンション共用部分の地震被害を補償する保険・共済への加入

調査数	91	34	15	39	3
100.0	37.4	16.5	42.9	3.3	
	加入している	加入していない	わからない	無回答	

【2 住宅の地震対策について】

問8 現在の住宅に住めなくなった場合の生活再建場所

調査数	573	100.0					
現在の住所で再建すると思う	158	27.6					
練馬区内に住むと思う	82	14.3					
区外に転居すると思う	71	12.4					
その他	16	2.8					
わからない	236	41.2					
無回答	10	1.7					

### 【3 日ごろの防災対策について】

問9 食料・飲料水の備蓄 <食料>

調査数	1日分	2日分	3日分	4日～6日分	1週間分以上	用意していない	無回答
573	77	110	146	71	38	119	12
100.0	13.4	19.2	25.5	12.4	6.6	20.8	2.1

問9 食料・飲料水の備蓄 <飲料水>

調査数	1日分	2日分	3日分	4日～6日分	1週間分以上	用意していない	無回答
573	100	117	125	51	34	136	10
100.0	17.5	20.4	21.8	8.9	5.9	23.7	1.7

問10 住宅内の消火器の設置

調査数	置いてある	置いていない	無回答
573	243	327	3
100.0	42.4	57.1	0.5

問11 消火器の使い方の認知

調査数	知っている	知らない	無回答
573	429	136	8
100.0	74.9	23.7	1.4

問12 住宅用火災警報器の設置

調査数	設置している	設置していない	無回答
573	445	127	1
100.0	77.7	22.2	0.2

問13 地震に備えた家具・家電品・重量物の固定

調査数	大部分固定している	一部固定している	固定していない
573	66	213	294
100.0	11.5	37.2	51.3



#### 【4 家具・家電などの固定について】

問13-1 家具・家電の固定の状況

	調査数	しっかりした固定	簡易な固定	固定していない	対象の家具・家電等がない	無回答
(1) 居間のタンス	279 100.0	26 9.3	75 26.9	41 14.7	104 37.3	33 11.8
(2) 居間の本棚	279 100.0	30 10.8	83 29.7	40 14.3	90 32.3	36 12.9
(3) 寝室のタンス	279 100.0	33 11.8	87 31.2	53 19.0	73 26.2	33 11.8
(4) 寝室の本棚	279 100.0	24 8.6	58 20.8	44 15.8	107 38.4	46 16.5
(5) 食器棚	279 100.0	53 19.0	114 40.9	57 20.4	27 9.7	28 10.0
(6) オーディオ類	279 100.0	7 2.5	34 12.2	102 36.6	81 29.0	55 19.7
(7) テレビ	279 100.0	37 13.3	106 38.0	103 36.9	8 2.9	25 9.0
(8) エアコン	279 100.0	56 20.1	17 6.1	142 50.9	11 3.9	53 19.0
(9) 冷蔵庫	279 100.0	12 4.3	48 17.2	183 65.6	3 1.1	33 11.8
(10) 電子レンジ・オーブン	279 100.0	7 2.5	27 9.7	194 69.5	10 3.6	41 14.7
(11) デスクトップパソコン	279 100.0	1 0.4	22 7.9	123 44.1	86 30.8	47 16.8

#### 【4 家具・家電などの固定について】

問13-1 家具・家電の固定の状況

	調査数	しっかりした固定	簡易な固定	固定していない
(1)居間のダンス	142 100.0	26 18.3	75 52.8	41 28.9
(2)居間の本棚	153 100.0	30 19.6	83 54.2	40 26.1
(3)寝室のダンス	173 100.0	33 19.1	87 50.3	53 30.6
(4)寝室の本棚	126 100.0	24 19.0	58 46.0	44 34.9
(5)食器棚	224 100.0	53 23.7	114 50.9	57 25.4
(6)オーディオ類	143 100.0	7 4.9	34 23.8	102 71.3
(7)テレビ	246 100.0	37 15.0	106 43.1	103 41.9
(8)エアコン	215 100.0	56 26.0	17 7.9	142 66.0
(9)冷蔵庫	243 100.0	12 4.9	48 19.8	183 75.3
(10)電子レンジ・オーブン	228 100.0	7 3.1	27 11.8	194 85.1
(11)デスクトップパソコン	146 100.0	1 0.7	22 15.1	123 84.2

【4 家具・家電などの固定について】

問13-2 家具・家電品・重量物を固定していない理由					
調査数	294	100.0			
固定のしかたがわからないから	39	13.3			
自分ではできないと思うから	52	17.7			
部屋の見た目が悪くなるから	19	6.5			
家具・家電等や壁に傷をつけるから	56	19.0			
面倒くさいから	68	23.1			
お金がかかるから	49	16.7			
大きい家具・家電等や、背の高い家具・家電等はないから	47	16.0			
地震が起きても転倒しないと思うから	24	8.2			
転倒しても危険ではないと思うから	36	12.2			
大地震の時には効果がないと思うから	59	20.1			
賃貸住宅のため	76	25.9			
その他	12	4.1			
特になし、考えたことがない	15	5.1			
わからない	1	0.3			
無回答	4	1.4			

【5 窓ガラスやブロック塀などの対策について】

問14 窓ガラスの破損・飛散対策の実施

調査数	573	51	67	448	7
	100.0	8.9	11.7	78.2	1.2
		大部分行っている	一部行っている	行っていない	無回答

問14-1 窓ガラスの破損・飛散対策として実施しているもの

調査数	118	78	40	9	2
	100.0	66.1	33.9	7.6	1.7
		強化ガラスや合わせガラスなど安全ガラスにしている	飛散防止フィルムを貼っている	その他	無回答

問14-2 窓ガラスの破損・飛散対策を行っていない理由

調査数	448	121	86	47	62	99	20	27	72	18	4	7		
	100.0	27.0	19.2	10.5	13.8	22.1	4.5	6.0	16.1	4.0	0.9	1.6		
		らどうしたらよいかわからないか	自分ではできないと思うから	ら見た目や日当たりが悪くなるか	面倒くさいから	お金がかかるから	地震が起きても割れないと思う	割れても危険ではないと思うか	対策しても大地震の時には効果がないと思うから	賃貸住宅のため	その他	特にない、考えたことがない	わからない	無回答

問15 道路に面している塀の有無

調査数	573	209	349	15
	100.0	36.5	60.9	2.6
		ある	ない	無回答

問15-1 道路に面している塀の種類

調査数	209	107	11	32	5	25	9	7	13
	100.0	51.2	5.3	15.3	2.4	12.0	4.3	3.3	6.2
		ブロック塀	石塀	コンクリート塀	万年塀	フェンス(柵)	生け垣	その他	無回答

問15-2 ブロック塀や石塀、門柱などの補強・変更予定

調査数	209	9	6	19	60	9	22	
	100.0	4.3	2.9	9.1	28.7	4.3	10.5	
		すでに補強した・変えた	補強や変える予定がある	補強や変える予定はない	検討中	わからない	もともとから生け垣だった	無回答

【6 地域との関わり合いや地域協力について】

問16 近隣の人との付き合い

調査数	573 100.0	42 7.3	41 7.2	186 32.5	248 43.3	47 8.2	9 1.6	
		いる人がいる	家族のように親しく付き合っている	一緒にでかけたり食事をしたりする	立ち話などをする程度	程度会ったときにあいさつをする	お互いほとんど会話をしない	無回答

問17 居住地域の防災会、市民消防隊の有無

調査数	573 100.0	163 28.4	38 6.6	361 63.0	11 1.9
		ある	ない	知らない	無回答

問18 自主的な防災訓練への参加経験

調査数	573 100.0	126 22.0	26 4.5	100 17.5	163 28.4	18 3.1	256 44.7	10 1.7
		参加経験がある(計)	いつも参加している	過去に参加したことがある	参加したことはないが、参加したことがある	防災訓練は行われていない	防災訓練が行われているか知らない	無回答

問18-1 参加したことがある防災訓練

調査数	126 100.0	103 81.7	57 45.2	17 13.5	16 12.7	28 22.2	2 1.6	32 25.4	4 3.2	29 23.0	7 5.6	2 1.6	3 2.4
		消火訓練	避難訓練	情報伝達訓練	負傷者の救出訓練	負傷者の救護訓練	避難所宿泊体験訓練	吹き出し訓練	図上訓練	機具器材取扱訓練(発電機、軽自動車、ポンプなど)	地域内の危険箇所の点検	その他	無回答

【6 地域との関わり合いや地域協力について】

問19 災害発生時に協力できそうな防災活動

調査数	573	100.0	無回答	15	2.6
	532	92.8	協力できそうである	26	4.5
			協力できそうにない		
			無回答		

調査数	573	100.0	近所の人が無事かどうかを確認	350	61.1	手伝った家屋から救出するのを手伝う	245	42.8	近所が火事になった時に消火活動を手伝う	244	42.6	要する人が無事かどうか確認する	266	46.4	要する人が介護や搬送の補助を必要とする	203	35.4	手伝った家屋などの片付けを手伝う	203	35.4	手伝った避難拠点（避難所）での活動を手伝う	282	49.2	救援物資の仕分けや配布をする	327	57.1	炊き出しや食事の準備をする	282	49.2	地域の防犯パトロールをする	130	22.7	子どもの世話や遊び相手をする	208	36.3	手被災した方の話し相手・相談相手になる	172	30.0	援帰宅難者（徒歩帰宅者）を支援する	93	16.2	その他	7	1.2	協力できそうにない	26	4.5	無回答	15	2.6
-----	-----	-------	----------------	-----	------	-------------------	-----	------	---------------------	-----	------	-----------------	-----	------	---------------------	-----	------	------------------	-----	------	-----------------------	-----	------	----------------	-----	------	---------------	-----	------	---------------	-----	------	----------------	-----	------	---------------------	-----	------	-------------------	----	------	-----	---	-----	-----------	----	-----	-----	----	-----

【7 大地震が起きたときの行動について】

問20 緊急地震速報受信装置  
＜専用の受信装置＞

調査数	設置している	27	4.7	86.2	52	9.1	無回答
	設置していない	494					
100.0							

問20 緊急地震速報受信装置  
＜携帯電話＞

調査数	受信できているようにしている	301	52.5	受信できているようにしていない	82	14.3	機能が電話に緊急地震速報の受信できない	120	20.9	70	12.2	無回答
100.0												

問21 緊急地震速報受信時に対する準備

調査数	机の下の安全な場所の確保	209	36.5	とるべき行動の確認（練習）	161	28.1	家庭内でとるべき行動について話し合い	219	38.2	その他	15	2.6	特に考えていない	119	20.8	わからない	18	3.1	15	2.6	無回答	
100.0																						

問22 大地震による火災発生時、被害を最小限に抑えるために  
重要なこと

調査数	発生家庭内の初期消火活動（火災の抑制）	479	83.6	近隣住民の協力による消火活動	391	68.2	消防団の活動	47	8.2	防災会・市民消防隊の活動	25	4.4	他の消防機関の応援（他県の消防機関など）	16	2.8	7	1.2	2.8	1.7	10	1.7	16	2.8	1.7	無回答
100.0																									

問23 大地震発生後、避難する状況

調査数	大地震が発生したら、とにかく避難する	81	14.1	自宅が少しでも破損したら避難する	34	5.9	電気がガス、水道等のライフラインが止まってしまったら避難する（自宅は無被害）	77	13.4	避難勧告があった場合に避難する	257	44.9	自宅が全半壊しない限り避難しない（ライフラインは止まっていない）	93	16.2	その他	2	0.3	わからない	18	3.1	11	1.9	無回答
100.0																								

【7 大地震が起きたときの行動について】

問23-1 自宅が全半壊しなければ避難しない理由

心自宅のほうに住み慣れていて安	69	74.2	心自宅に備蓄しているから	25	26.9	自宅が耐震性が高く、安全だと	22	23.7	避難先は遠いから	5	5.4	悪避難先は混雑するなど、環境が	45	48.4	家族に高齢者や病人がいるから	17	18.3	ペットを飼っているから	28	30.1	防犯のため（自宅が窃盗などに	23	24.7	仕事上の必要から	1	1.1	その他	9	9.7	特に理由はない	1	1.1
調査数	93	100.0																														

問24 大地震発生直後に避難する場所

調査数	573	100.0	避難拠点（区立小中学校）	429	74.9	近くの公立施設（避難拠点を除	31	5.4	都指定避難場所（都立公園な	51	8.9	自動車（車内）	7	1.2	親類・知人宅	10	1.7	その他	10	1.7	わからない	30	5.2	無回答	5	0.9
-----	-----	-------	--------------	-----	------	----------------	----	-----	---------------	----	-----	---------	---	-----	--------	----	-----	-----	----	-----	-------	----	-----	-----	---	-----

問24-1 避難拠点到避難しない理由

調査数	139	100.0	避難拠点が遠すぎるから	16	11.5	途中の道に危険なところがある	14	10.1	家族に高齢者や病人がいるから	19	13.7	避難拠点はプライバシーが守	16	11.5	どこが避難拠点なのか知らない	30	21.6	避難の際、混乱による危険が予	22	15.8	区などの避難誘導体制が不十分	7	5.0	避難拠点が安全だとは思わない	24	17.3	衛生面で心配だから	11	7.9	精神的・肉体的な疲労・影響が	34	24.5	ペットが心配だから	11	7.9	特にな	7	5.0	無回答	22	15.8
-----	-----	-------	-------------	----	------	----------------	----	------	----------------	----	------	---------------	----	------	----------------	----	------	----------------	----	------	----------------	---	-----	----------------	----	------	-----------	----	-----	----------------	----	------	-----------	----	-----	-----	---	-----	-----	----	------

問25 自宅に戻るきっかけ

調査数	573	100.0	調査数	573	100.0	電気が復旧したとき	101	17.6	ガスが復旧したとき	6	1.0	水道が復旧したとき	50	8.7	電話が復旧したとき	-	-	避難勧告が解除されたとき	267	46.6	余震が少なくなったとき	65	11.3	全（調査済）とされたとき	56	9.8	その他	11	1.9	無回答	17	3.0
-----	-----	-------	-----	-----	-------	-----------	-----	------	-----------	---	-----	-----------	----	-----	-----------	---	---	--------------	-----	------	-------------	----	------	--------------	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----



【7 大地震が起きたときの行動について】

問26 避難拠点(避難所)において最も充実してほしいこと

調査数	573	232	75	436	64	51	151	85	62	11	17	353	39	33	6	2	7
100.0	40.5	13.1	76.1	11.2	8.9	26.4	14.8	10.8	1.9	3.0	61.6	6.8	5.8	1.0	0.3	1.2	
	災害情報の提供	救援情報の提供	食料・飲料水の提供	衣料・日用品の提供	高齢者等災害時要援護者への支援	睡眠・安息の場の提供	プライバシーの確保	傷病を治療する救護活動	健康相談やこころのケア等の保健活動	健康相談やこころのケア等の保健活動	供男女別の着替えや授乳場所の提供	トイレ	お風呂	ペットのケア	その他	特になし	無回答

問27 勤務先・通学先までの距離

調査数	573	374	122	57	20
100.0	65.3	21.3	9.9	3.5	
	10 k m 未満	10 k m 以上 20 k m 未満	20 k m 以上	無回答	

問28 勤務先や外出先で大地震にあった場合の帰宅

調査数	573	426	151	275	131	16
100.0	74.3	26.4	48.0	22.9	2.8	
	帰ろうと思っている(計)	思っているかしてすぐに帰ろうと思っている	様子を見てから帰ろうと思っている	思っているその場にとどまろうと思っている	無回答	

問28-1 交通機関が停止している場合の帰宅方法

調査数	426	364	27	6	13	7	9
100.0	85.4	6.3	1.4	3.1	1.6	2.1	
	徒歩	自転車	バイク	自動車	その他	無回答	

問29 外出先にいた場合、歩いて帰る距離(6区分)

調査数	573	41	15	104	233	110	36	34
100.0	7.2	2.6	40.7	19.2	6.3	5.9		
	2 k m 未満	2 k m ～ 5 k m 未満	5 k m ～ 10 k m 未満	10 k m ～ 20 k m 未満	20 k m ～ 30 k m 未満	30 k m 以上	無回答	

【7 大地震が起きたときの行動について】

問29 外出先にいた場合、歩いて帰る距離

調査数	539 100.0	平均 (k m)	12.32	最小値	0.0	最大値	80.0
-----	--------------	----------	-------	-----	-----	-----	------

問30 徒歩での帰宅もできなくなった場合に知りたい情報

調査数	573 100.0	自宅周辺や地域の被害状況	469 81.8	会社や学校などの被害状況	49 8.6	地震の規模、震度、津波等の情報	261 45.5	火災や建物倒壊などの発生状況	207 36.1	交通機関の運行、復旧状況	336 58.6	電気、ガス、水道などのライフラインの復旧状況	225 39.3	家族や親類、知人の安否	467 81.5	店舗の営業状況(デパート、コンビニ等)	29 5.1	水や食料等の入手方法	255 44.5	避難する場所の情報	229 40.0	救助の状況や医療施設の情報	75 13.1	宿泊施設(ホテル、旅館)の営業状況や空き状況	51 8.9	その他	3 0.5	特にない	1 0.2	無回答	6 1.0
-----	--------------	--------------	-------------	--------------	-----------	-----------------	-------------	----------------	-------------	--------------	-------------	------------------------	-------------	-------------	-------------	---------------------	-----------	------------	-------------	-----------	-------------	---------------	------------	------------------------	-----------	-----	----------	------	----------	-----	----------

問31 災害時における家族・親類や知人等との連絡方法

調査数	573 100.0	災害用伝言ダイヤル「171」	271 47.3	「災害用ブロードバンド伝言板 Web 171」	34 5.9	携帯電話の災害用伝言板サービス	232 40.5	携帯電話の一般通話	362 63.2	携帯電話のメール	398 69.5	携帯電話以外の電子メール	58 10.1	固定電話(家庭、会社等)	269 46.9	公衆電話	176 30.7	ビジネス用ソーシャルネットワーキングサービス	71 12.4	その他	5 0.9	わからない	6 1.0	無回答	4 0.7
-----	--------------	----------------	-------------	-------------------------	-----------	-----------------	-------------	-----------	-------------	----------	-------------	--------------	------------	--------------	-------------	------	-------------	------------------------	------------	-----	----------	-------	----------	-----	----------

【8 中高層住宅の対策について】

問32-1 5階以上の集合住宅に居住しているか  
問32-1 居住建物のエレベーター

調査数	はい	いいえ	無回答
573	130	390	53
100.0	22.7	68.1	9.2
調査数	はい	いいえ	無回答
130	120	10	
100.0	92.3	7.7	

問32-2 居住階数(9区分)

調査数	1階	2階	3階	4階	5階	6・7階	8～10階	11～15階	16階以上	無回答
120	9	21	18	17	16	18	10	9	1	1
100.0	7.5	17.5	15.0	14.2	13.3	15.0	8.3	7.5	0.8	0.8

問32-2 居住階数

調査数	平均(階)	最小値	最大値
119	5.05	1	33
100.0			

問32-3 エレベーターが利用できない場合の個人・家庭における対策

調査数	家具類の転倒防止をしている	中継やベランダを整理している	避難路を確保している	自らの確保している	親類や友人の家など、避難拠点を確保している	風呂水を溜めておいてある	その他	特に対策はしていない	無回答
120	44	27	27	7	36	30.0	-	23	4
100.0	36.7	22.5	22.5	5.8	30.0			19.2	3.3

問32-3 エレベーターが利用できない場合の個人・家庭における対策

調査数	対策をしている	特に対策はしていない	無回答
120	93	23	4
100.0	77.5	19.2	3.3



【9 区の施策について】

問33 区からの防災情報の入手方法

調査数	573	100.0	320	55.8	70.0	21.5	401	70.0	123	29.9	137	23.9	51	8.9	183	31.9	440	76.8	296	51.7	47	8.2	4	0.7	-	-	5	0.9	16	2.8
			防災行政無線（無線放送塔）		広報車での呼びかけ	練馬区のホームページ（パソコン）	練馬区のホームページ（携帯電話）	練馬区のメール配信サービス（パソコン）	練馬区のメール配信サービス（携帯電話）	テレビ	ラジオ	フェイスブック、ツイッター等のソーシャルネットワーキングサービス	その他	ない	ない	区の情報入手したいとは思わない	わからない	無回答												

問34 防災地図の認知度

調査数	573	100.0	318	55.5	173	30.2	145	25.3	247	43.1	8	1.4
			知っている（計）	知っている	知っており、避難拠点等を確知している	確認しているが、避難拠点等の確認していない	知らない	無回答				

問35 浸水ハザードマップの認知度

調査数	573	100.0	158	27.6	57	9.9	101	17.6	404	70.5	11	1.9
			知っている（計）	知っている	知っており、浸水区域等を確知している	確認しているが、浸水区域等の確認していない	知らない	無回答				

問36 練馬区防災気象情報配信メールの認知度

調査数	573	100.0	76	13.3	17	3.0	59	10.3	486	84.8	11	1.9
			知っている（計）	知っている	知っており、登録をしている	知っているが、登録はしていない	知らない	無回答				

問37 地域の防災意識を高めたり防災活動を活発化するための取り組み

調査数	573	100.0	437	76.3	24	4.2	101	17.6	139	24.3	150	26.2	159	27.7	118	20.6	97	16.9	106	18.5	6	1.0	12	2.1	16	2.8
			地震や災害についての情報をわかりやすく提供する	地震車のように地震のゆれを体験する機会を増やす	実際に学ぶようにする	消防に火器の使い方や火の怖さを実践方法を学ぶようにする	仕方をした人の簡単な手当ての仕方を学ぶようにする	止るから身を守る方法（家具転倒防止の方法など）を学ぶようにする	地震から身を守る方法（家具転倒防止の方法など）を学ぶようにする	子どもへの防災教育の機会を増やす	防災に関して学ぶ機会を設ける	地域で防災を考える機会を設ける	その他	特にな	無回答											



【10 あなたのことについて】

F1 性別

調査数	男性	女性	無回答
573 100.0	234 40.8	332 57.9	7 1.2

F2 年齢

調査数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
573 100.0	46 8.0	76 13.3	88 15.4	102 17.8	125 21.8	130 22.7	6 1.0

F3 家族構成

調査数	ひとり暮らし	一世帯世帯（夫婦のみ）	二世帯世帯（親と子）	三世帯世帯（親と子どもと孫）	その他	無回答
573 100.0	67 11.7	148 25.8	301 52.5	39 6.8	10 1.7	8 1.4

F3-1 災害時要援護者との同居

調査数	妊婦	未就学児（乳幼児を含む）	75歳以上の高齢者	視覚・聴覚障がい者	身体障がい者	自宅療養中の方	いない	無回答
498 100.0	8 1.6	64 12.9	93 18.7	4 0.8	21 4.2	22 4.4	264 53.0	55 11.0





## 参考資料 2 調査票



# 練馬区民の地震防災に関する意識調査

## ご協力をお願い

区民の皆様へ

日ごろから、練馬区の防災行政に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

練馬区では、地震災害時の被害を最小限に抑えるため、様々な防災施策を推進しているところです。しかし、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）における甚大な被害、多くの尊い命の喪失という事実を厳粛に受け止め、今後、区の防災行政を一層強化する必要性を痛感しております。そのため、「練馬区地域防災計画」の修正をはじめとして防災施策の見直しを行っているところですが、見直しにあたり区民の皆様の防災に対するお考えや日ごろの備えをお聞きすることが必要です。そこで、防災施策の立案や、区民の皆様の防災活動に対する支援、防災における自助・共助・公助の連携に役立てることを狙いとして、区民の皆様を対象とする地震防災に関するアンケート調査を実施することといたしました。

お忙しいところ恐縮ですが、なにとぞ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

※このアンケート調査は、練馬区が防災施策立案等の資料とするために行っており、ここで得られたデータは、この目的以外には使用いたしません。

平成24年1月 練馬区 危機管理室

## 記入上の注意事項

- ※ **封筒の宛名のご本人様**がご回答ください。氏名を記入する必要はありません。
- ※ 質問には、選択肢から選んでいただくものと、数量を記入していただくものがあります。
- ※ 選択肢から選ぶ際は、直接あてはまる回答の番号を○で囲んでください。また質問には、ご回答いただく数が**1つ**の場合と**3つまで**など数が指定されている場合がありますので、ご注意ください。
- ※ 「その他（ ）」にあてはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。
- ※ 質問には、順番に回答してください。選んだ回答によっては、次に回答していただく質問の番号を指定するものがありますので、――→（矢印）の指示に従って移動し、その後質問の順にお答えください。

## 回答期限

ご回答いただきましたアンケート票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

**平成24年2月5日（日）までにポストにご投函ください。**

# 1 大地震への不安について

問1 あなたは、お住まいの地域で大きな地震にあうかもしれないという不安を感じていますか。  
(○は1つ)

1 非常に不安を感じる	3 あまり不安を感じない
2 少し不安を感じる	4 全く不安を感じない

問2 あなたの住んでいる地域では、大地震にあった場合、特に心配なことは何ですか。  
(○は5つまで)

1 土砂くずれ・がけくずれ	15 食料や飲料水などが確保できないこと
2 液状化現象	16 トイレの不足
3 火災の発生	17 けがや病気の場合の医療体制
4 ガスなどの危険物の爆発	18 治安
5 建物の倒壊	19 近くに避難拠点(避難所)がないこと
6 道路沿いのブロック塀等の倒壊	20 避難所生活
7 災害時要援護者(災害弱者)の支援	21 火災などが同時多発したときの消防隊の不足
8 エレベーターの停止(閉じ込め)	22 区民防災組織が機能するか
9 道路や鉄道機関の被害や混乱	23 ペットのケア
10 電話などの通信機能の停止や混乱	24 何も分からないこと
11 情報の混乱	25 避難拠点(避難所)を知らない
12 金融機関の混乱	26 その他( )
13 電気、ガス、水道の供給停止	27 心配なことはない
14 日用品が不足すること	28 わからない

# 2 住宅の地震対策について

問3 あなたは練馬区に住んで何年たちますか。なお、以前に練馬区から区外に転出し、その後練馬区に戻られた方は、通算の年数ではなく、転入後の年数でお答えください。(○は1つ)

1 30年以上	4 5年以上10年未満
2 20年以上30年未満	5 1年以上5年未満
3 10年以上20年未満	6 1年未満

問4 お住まいの住居は、いつ頃建てられましたか。(○は1つ)  
※増築(補修・補強を含む)を行っている場合は、当初建築された年代を選択してください。  
※改築(建替)を行った場合は改築(建替)後の年代を選択してください。

1 1950年(昭和25年)以前 [築61年以上]
2 1951年～1960年(昭和26～35年) [築51年～築60年]
3 1961年～1970年(昭和36～45年) [築41年～築50年]
4 1971年～1980年(昭和46～55年) [築31年～築40年]
5 1981年～1990年(昭和56～平成2年) [築21年～築30年]
6 1991年～2000年(平成3～12年) [築11年～築20年]
7 2001年(平成13年)以降 [築10年まで]
8 わからない

問5 あなたのお住まいの構造は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 木造住宅	3 (重量)鉄骨造住宅	5 その他( )
2 軽量鉄骨造住宅	4 鉄筋コンクリート造住宅	6 わからない

問6 あなたのお住まいの形態をお答えください。(○は1つ)

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1 自己の持ち家 (一戸建)            | 5 賃貸住宅 (一戸建・長屋建)  |
| 2 親やその他の親類の持ち家 (一戸建)      | 6 賃貸住宅 (賃貸マンション等) |
| 3 自己の持ち家 (分譲マンション等)       | 7 社宅・寮・下宿等        |
| 4 親やその他の親類の持ち家 (分譲マンション等) | 8 その他 ( )         |

《問6で「1 自己の持ち家 (一戸建)」「2 親やその他の親類の持ち家 (一戸建)」と答えた方にお伺いします。》

→ 問6-1 あなたのお住まいは、耐震診断を受けたことがありますか。(○は1つ)

- |              |                           |
|--------------|---------------------------|
| 1 受けた        | 3 <u>受けていない</u> → 問6-1-1へ |
| 2 今後受ける予定である | 4 わからない                   |

《問6-1で「3 受けていない」と答えた方にお伺いします。》

問6-1-1 耐震診断を受けていない主な理由を教えてください。(○は1つ)

- |                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 住んでいる家は安全につくってあり、必要だと思わないから        | 7 大地震が起こると思わないから                    |
| 2 経過年数や構造から見て、強度が不足していることがはっきりしているから | 8 新築だから                             |
| 3 診断方法がわからないから                       | 9 耐震改修済みだから                         |
| 4 手間がかかるから                           | 10 建て替える予定だから                       |
| 5 費用がかかるから                           | 11 転居する予定だから                        |
| 6 診断して耐震改修しても大地震の被害は避けられないと思うから      | 12 信用できる業者がわからないから (どこに頼めば良いかわからない) |
|                                      | 13 その他 ( )                          |

《問6で「1 自己の持ち家 (一戸建)」「2 親やその他の親類の持ち家 (一戸建)」と答えた方にお伺いします。》

→ 問6-2 あなたのお住まいは耐震改修を行いましたか。(○は1つ)

- |                  |                                |
|------------------|--------------------------------|
| 1 耐震改修を行った       | 3 <u>耐震改修は行っていない</u> → 問6-2-1へ |
| 2 今後耐震改修を行う予定である | 4 わからない                        |

《問6-2で「3 耐震改修は行っていない」と答えた方にお伺いします。》

問6-2-1 お住まいの耐震改修を行わないのはなぜですか。(○は1つ)

- |                               |                                     |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1 住んでいる家は安全につくってあり、必要だと思わないから | 6 大地震が起こると思わないから                    |
| 2 耐震改修のやり方がわからないから            | 7 新築だから                             |
| 3 手間がかかるから                    | 8 建て替える予定だから                        |
| 4 費用がかかるから                    | 9 転居する予定だから                         |
| 5 改修しても大地震の被害は避けられないと思うから     | 10 信用できる業者がわからないから (どこに頼めば良いかわからない) |
|                               | 11 その他 ( )                          |

《すべての方にお伺いします。》

問7 一般の火災保険(共済)では、地震による建物の火災・倒壊は補償されません。地震による建物の被害を補償する保険・共済制度として、損害保険会社の地震保険や、建物更正共済などがあります。あなたのお住まいは、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。(○は1つ)

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 1 加入していて補償も十分である    | 3 加入していない |
| 2 加入しているが補償額には不安がある | 4 わからない   |

《問6で「3 自己の持ち家（分譲マンション等）」と答えた方にお伺いします。》

問7-1 管理組合等で、マンションの共用部分についても、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。（○は1つ）

1 加入している	2 加入していない	3 わからない
----------	-----------	---------

《すべての方にお伺いします。》

問8 仮に、大地震により現在の住宅に住むことができなくなった場合、どこで生活を再建しますか。（○は1つ）

1 現在の住所で再建すると思う	4 その他（ ）
2 練馬区内に住むと思う	5 わからない
3 区外に転居すると思う	

### 3 日ごろの防災対策について

問9 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料がありますか。また、家族の何日分の飲料水を備蓄していますか。（それぞれについて○は1つずつ）

	1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日以上	用意していない
食料（いわゆる非常食だけでなく、日常使うインスタント麺やレトルト食品、缶詰など、簡単な調理やそのまま食べられるものも含む。）	1	2	3	4	5	6		
飲料水（ひとり1日あたり3リットルで計算してください。清涼飲料水（お茶、ジュース等）や、酒類は除きます。）	1	2	3	4	5	6		

問10 あなたのお宅には、消火器を置いてありますか。マンション等で共用廊下などに置いてあるものは除きます。（○は1つ）

1 置いてある	2 置いていない
---------	----------

問11 消火器の使い方を知っていますか。（○は1つ）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問12 あなたのお宅では、寝室や台所・階段などに、住宅用火災警報器（下図を参照）が設置されていますか。（○は1つ）

1 設置している
2 設置していない



出典：政府広報オンライン（内閣府大臣官房政府広報室）

### 4 家具・家電などの固定について

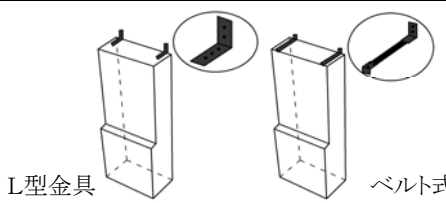
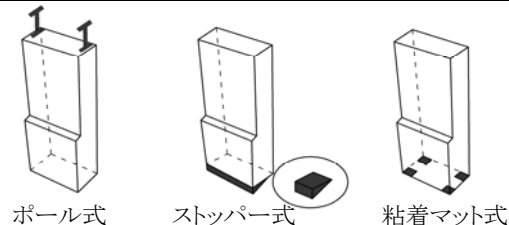
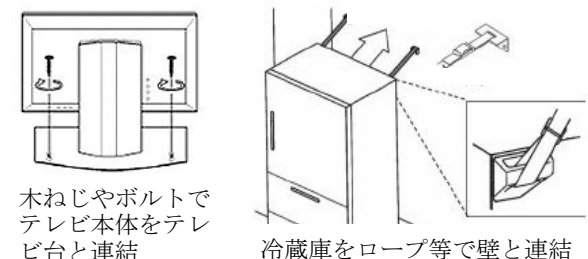
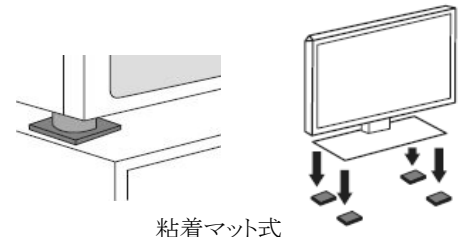
問13 あなたのお宅では、地震に備えてタンス、本棚、食器棚などの収納家具や、冷蔵庫、テレビなどの家電品、その他の重量物の固定をしていますか。（○は1つ）

1 大部分固定している	→ 問13-1へ	3 固定していない	→ 問13-2へ
2 一部固定している			

《問13で「1 大部分固定している」「2 一部固定している」と答えた方にお伺いします。》

問13-1 家具・家電の固定の状況を教えてください。ただし、造り付けの家具は除きます。固定方法を下図に例示していますが、これ以外の方法も含め、どのような方法でもかまいません。(家具・家電ごとに右のあてはまる番号に○を付けてください。)

	しっかりした固定 (図中①)	簡易な固定 (図中②)	固定していない	対象の家具・家電等がない
(1) 居間のタンス	1	2	3	4
(2) 居間の本棚	1	2	3	4
(3) 寝室のタンス	1	2	3	4
(4) 寝室の本棚	1	2	3	4
(5) 食器棚	1	2	3	4
(6) オーディオ類	1	2	3	4
(7) テレビ	1	2	3	4
(8) エアコン	1	2	3	4
(9) 冷蔵庫	1	2	3	4
(10) 電子レンジ・オーブン	1	2	3	4
(11) デスクトップパソコン	1	2	3	4

家具・家電の固定方法の例		出典：東京都及び東京消防庁のホームページなど	
① しっかりした固定		② 簡易な固定	
家具	 <p>L型金具      ベルト式</p>	 <p>ボール式      ストッパー式      粘着マット式</p>	
家電	 <p>木ねじやボルトでテレビ本体をテレビ台と連結      冷蔵庫をロープ等で壁と連結</p>	 <p>粘着マット式</p>	

《問13で「3 固定していない」と答えた方にお伺いします。》

問13-2 固定をしていない理由を教えてください。(○はいくつでも)

1 固定のしかたがわからないから	8 地震が起きても転倒しないと思うから
2 自分ではできないと思うから	9 転倒しても危険ではないと思うから
3 部屋の見た目が悪くなるから	10 大地震の時には効果がないと思うから
4 家具・家電等や壁に傷をつけるから	11 賃貸住宅のため
5 面倒くさいから	12 その他 ( )
6 お金がかかるから	13 特にない、考えたことがない
7 大きい家具・家電等や、背の高い家具・家電等はないから	14 わからない

## 5 窓ガラスやブロック塀などの対策について

問14 あなたのお宅では、地震に備えて窓ガラスの破損・飛散を防ぐ対策を行っていますか。

(○は1つ)

- 1 大部分行っている  
2 一部行っている

3 行っていない

→ 問14-2へ

《問14で「1 大部分行っている」「2 一部行っている」と答えた方にお伺いします。》

→ 問14-1 窓ガラスの破損・飛散防止対策として、どのような対策を行っていますか。

(○はいくつでも)

- 1 強化ガラスや合わせガラスなどの安全ガラスにしている  
2 飛散防止フィルムを貼っている  
3 その他 ( )

《問14で「3 行っていない」と答えた方にお伺いします。》

問14-2 窓ガラスの破損・飛散を防ぐ対策を行っていない理由を教えてください。

(○はいくつでも)

- 1 どうしたらよいかわからないから  
2 自分ではできないと思うから  
3 見た目や日当たりが悪くなるから  
4 面倒くさいから  
5 お金がかかるから  
6 地震が起きても割れないと思うから  
7 割れても危険ではないと思うから  
8 対策しても大地震の時には効果がないと思うから  
9 賃貸住宅のため  
10 その他 ( )  
11 特にない、考えたことがない  
12 わからない

《すべての方にお伺いします。》

問15 あなたのお宅には、道路に面している塀（高さ1m以上）はありますか。(○は1つ)

1 ある






2 ない

→ 問16へ

《問15で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問15-1 その塀の種類を教えてください。(○は1つ) ※種類の例は下図を参照してください。

- 1 ブロック塀  
2 石塀  
3 コンクリート塀  
4 万年塀  
5 フェンス(柵)  
6 生け垣  
7 その他  
( )

1. ブロック塀	2. 石塀	3. コンクリート塀	4. 万年塀	5. フェンス(柵)
コンクリートやレンガなどの人工的なブロックを積み重ねて構成される塀	自然石を積み重ねて構成される塀	コンクリートを用いて一体的な壁を構成している塀(タイル、塗装等で表面を化粧したものを含む)	コンクリート板と支柱による組み立て式の塀	支柱と鉄製網または横木等で構成される仕切り
				

問15-2 あなたのお宅では、今後ブロック塀や石塀、門柱などを補強したり生け垣などに変える予定はありますか。(○は1つ)

- 1 すでに補強した・変えた  
2 補強や変える予定がある  
3 補強や変える予定はない  
4 検討中  
5 わからない  
6 もとから生け垣だった



## 6 地域との関わり合いや地域協力について

《すべての方にお伺いします。》

問16 あなたと近隣の人とのお付き合いとして、最も近いものは次のどれですか。(○は1つ)

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1 家族のように親しく付き合っている人がいる | 3 立ち話などをする程度       |
| 2 一緒にでかけたり食事をしたりする     | 4 出会ったときにあいさつをする程度 |
|                        | 5 お互いほとんど会話をしない    |

問17 あなたのお住まいの地域に防災会、市民消火隊はありますか。(○は1つ)

- |      |      |        |
|------|------|--------|
| 1 ある | 2 ない | 3 知らない |
|------|------|--------|

問18 防災会や避難拠点運営連絡会、町会・自治会などによる自主的な防災訓練が行われていることがあります。あなたは、このような活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 1 いつも参加している              | 4 防災訓練は行われていない      |
| 2 過去に参加したことがある           | 5 防災訓練が行われているのか知らない |
| 3 防災訓練は行われているが、参加したことはない |                     |

《問18で「1 いつも参加している」「2 過去に参加したことがある」と答えた方にお伺いします。》

→ 問18-1 あなたはどのような防災訓練に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

- |             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 1 消火訓練      | 7 炊き出し訓練                  |
| 2 避難訓練      | 8 図上訓練                    |
| 3 情報伝達訓練    | 9 資器材取扱訓練（発電機、軽可搬消火ポンプなど） |
| 4 負傷者の救出訓練  | 10 地域内の危険箇所の点検            |
| 5 負傷者の救護訓練  | 11 その他（ ）                 |
| 6 避難所宿泊体験訓練 |                           |

《すべての方にお伺いします。》

問19 災害が発生した場合、あなたが協力できそうだと思う地域での防災活動をあげてください。あなたご自身や家族の安全はおおむね確保されているものとします。(○はいくつでも)

- |                                    |                       |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1 近所の人が無事かどうかを確認する                 | 8 救援物資の仕分けや配布をする      |
| 2 倒壊した家屋から救出するのを手伝う                | 9 炊き出しや食事の準備をする       |
| 3 近所が火事になった時に消火活動を手伝う              | 10 地域の防犯パトロールをする      |
| 4 高齢者や障がい者など手助けを必要とする人が無事かどうか確認する。 | 11 子どもの世話や遊び相手をする     |
| 5 高齢者や障がい者など手助けを必要とする人の介護や搬送の補助をする | 12 被災した方の話し相手・相談相手になる |
| 6 壊れた家屋などの片付けを手伝う                  | 13 帰宅困難者（徒歩帰宅者）を支援する  |
| 7 避難拠点（避難所）での活動を手伝う                | 14 その他（ ）             |
|                                    | 15 協力できそうにない          |

## 7 大地震が起きたときの行動について

問20 あなたのお宅には、緊急地震速報の専用の受信装置（テレビ・ラジオは該当しません）を設置していますか。また、携帯電話で緊急地震速報を受信できるようにしていますか。（○はそれぞれ1つ）

※緊急地震速報は、大きな地震の際に強い揺れが来ることを直前に知らせる警報です。ただし、地震予知ではなく、現に発生した地震の情報であるので、強い揺れの到達に間に合わないことがあります。

専用の受信装置	1 設置している	2 設置していない
携帯電話	1 受信できるようにしている 2 受信できるようにしていない	3 携帯電話に緊急地震速報の受信機能がない

問21 緊急地震速報はテレビでも伝えられますが、あなたは、緊急地震速報を見聞きした場合を想定して、どのような準備をしておこうと考えていますか。（○はいくつでも）

1 机の下の安全な場所の確保	4 その他（ ）
2 とるべき行動の確認（練習）	5 特に考えていない
3 家庭内でとるべき行動についての話し合い	6 わからない

問22 大地震により火災が多数発生した場合、消防隊が不足し、到着が遅れる可能性があります。被害を最小限に抑えるために、重要だと思ふことを教えてください。（○は2つまで）

1 家庭内での初期消火活動（火災発生の抑制）	5 他の消防機関の応援 （他県の消防機関など）
2 近隣住民の協力による消火活動	6 その他（ ）
3 消防団の活動	7 わからない
4 防災会・市民消火隊の活動	

問23 大地震が発生した後、どのような状況になったら避難しますか。（○は1つ）

1 大地震が発生したら、とにかく避難する	4 避難勧告があった場合に避難する
2 自宅が少しでも破損したら避難する	5 自宅が全半壊しない限り避難しない （ライフラインは止まっている）
3 電気、ガス、水道等のライフラインが止まっ てしまったら避難する（自宅は無被害）	6 その他（ ）
	7 わからない

《問23で「5 自宅が全半壊しない限り避難しない」と答えた方にお伺いします。》

→ 問23-1 あなたは、なぜ、ライフラインが止まっても、自宅が全半壊しなければ避難しないのですか。（○はいくつでも）

1 自宅のほうに住み慣れていて安心だから	6 家族に高齢者や病人がいるから
2 自宅に水や食料、燃料等を十分に備蓄しているから	7 ペットを飼っているから
3 自宅は耐震性が高く、安全だと思うから	8 防犯のため（自宅が窃盗などにあうことが心配）
4 避難先は遠いから	9 仕事上の必要から
5 避難先は混雑するなど、環境が悪いから	10 その他（ ）
	11 特に理由はない

《すべての方にお伺いします。》

問24 仮に、大地震が発生した直後に避難する場合、どこに避難しようと思いますか。(○は1つ)

1 避難拠点 (区立小中学校)	5 親類・知人宅
2 近くの公立施設 (避難拠点を除く)	6 その他 ( )
3 都指定避難場所 (都立公園など)	7 わからない
4 自動車 (車内)	

《問24で「2 近くの公立施設 (避難拠点を除く)」「3 都指定避難場所 (都立公園など)」「4 自動車 (車内)」「5 親類・知人宅」「6 その他」「7 わからない」と答えた方にお伺いします。》

問24-1 避難拠点 (区立小中学校) に避難しない理由を教えてください。(○はいくつでも)

1 避難拠点が遠すぎるから	7 区などの避難誘導體制が不十分であるから
2 途中の道に危険なところがあるから	8 避難拠点が安全だとは思わないから
3 家族に高齢者や病人がいるから	9 衛生面で心配だから
4 避難拠点ではプライバシーが守れないから	10 精神的・肉体的な疲労・影響が大きいと思うから
5 どこが避難拠点なのか知らないから	11 ペットが心配だから
6 避難の際、混乱による危険が予想されるから	12 その他 ( )
	13 特にない

《すべての方にお伺いします。》

問25 あなたが避難していたとして、自宅の建物自体は壊れていない場合、自宅に戻ることにする最大のきっかけを教えてください。(○は1つ)

1 電気が復旧したとき	6 余震が少なくなったとき
2 ガスが復旧したとき	7 自宅建物が応急危険度判定で安全 (調査済) とされたとき
3 水道が復旧したとき	8 その他 ( )
4 電話が復旧したとき	
5 避難勧告が解除されたとき	

問26 避難拠点 (避難所) において、最も充実してほしいことを教えてください。(○は3つまで)

1 災害情報の提供	9 健康相談やこころのケア等の保健活動
2 救援情報の提供	10 男女別の着替えや授乳場所の提供
3 食料・飲料水の提供	11 トイレ
4 衣料・日用品の提供	12 お風呂
5 高齢者等災害時要援護者への支援	13 ペットのケア
6 睡眠・安息の場の提供	14 その他 ( )
7 プライバシーの確保	15 特にない
8 傷病を治療する救護活動	

問27 ご自宅から普段の勤務先・通学先までの距離はどのくらいですか。通勤・通学していない方は、よく買い物に行く場所までの距離をお答えください。(○は1つ)

1 10km未満	2 10km以上20km未満	3 20km以上
----------	----------------	----------

※参考) 道路距離 (幹線道路を利用する一般的なルート)

練馬駅～池袋駅: 約6km 練馬駅～新宿駅: 約9km 練馬駅～東京駅: 約14km

練馬駅～品川駅: 約22km 練馬駅～羽田空港: 約29km

問28 大地震が起こった場合、交通機関の停止や混乱、道路被害の発生や渋滞が予想されます。あなたは勤務先（通学先）や外出先（買物等）で大地震にあったら、自宅に帰ろうと思いますか。（○は1つ）

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1 なんとかしてすぐに帰ろうと思っている | 3 しばらくその場にとどまろうと思っている |
| 2 様子を見てから帰ろうと思っている   |                       |

《問28で「1 なんとかしてすぐに帰ろうと思っている」「2 様子を見てから帰ろうと思っている」と答えた方にお伺いします。》

問28-1 交通機関が停止している場合、どのような方法で帰ろうと思いますか。（○は1つ）

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1 徒歩  | 3 バイク | 5 その他（ ） |
| 2 自転車 | 4 自動車 |          |

《すべての方にお伺いします。》

問29 勤務先・通学先などに限らず、あなたが外出先にいた場合、どれくらいの距離までならば歩いて帰ろうと思いますか。（枠内に数字を記入してください）

約  k m

問30 大地震による被害のため、徒歩での帰宅もできなくなったとしたら、あなたはまず、どのような情報を知りたいと思いますか。（○は5つまで）

- |                              |                                   |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 自宅周辺や地域の被害状況               | 8 店舗の営業状況（デパート、コンビニ等）             |
| 2 会社や学校などの被害状況               | 9 水や食料等の入手方法                      |
| 3 地震の規模、震度、津波等の情報            | 10 避難する場所の情報                      |
| 4 火災や建物倒壊などの発生状況             | 11 救出・救助活動、医療・救護活動の状況<br>や医療施設の情報 |
| 5 交通機関の運行、復旧状況               | 12 宿泊施設（ホテル、旅館）の営業状況や<br>空き状況     |
| 6 電気、ガス、水道などのライフラインの<br>復旧状況 | 13 その他（ ）                         |
| 7 家族や親類、知人の安否                | 14 特にない                           |

問31 災害時における、家族・親類や知人等との連絡方法として、何を使おうと考えていますか。（○はいくつでも）

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1 災害用伝言ダイヤル「171」        | 7 固定電話（家庭、会社等）                         |
| 2 災害用ブロードバンド伝言板「Web171」 | 8 公衆電話                                 |
| 3 携帯電話の災害用伝言板サービス       | 9 フェイスブック、ツイッター等の<br>ソーシャルネットワーキングサービス |
| 4 携帯電話の一般通話             | 10 その他（ ）                              |
| 5 携帯電話のメール              | 11 わからない                               |
| 6 携帯電話以外の電子メール          |  |

## 8 中高層住宅の対策について

問32 あなたは、5階以上の集合住宅（アパートやマンションなど）にお住まいですか。  
（○は1つ）

1 はい

2 いいえ → 問33へ

《問32で「1 はい」と答えた方にお伺いします。》

⇒ 問32-1 あなたのお住まいの建物にエレベーターはありますか。（○は1つ）

1 ある

2 ない → 問33へ

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

⇒ 問32-2 あなたは建物の何階にお住まいですか。（枠内に数字を記入してください）

階に居住している。

⇒ 問32-3 あなたは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、個人または家庭でどのような対策をしていますか。（○はいくつでも）

- |   |   |
|---|---|
| 1 しばらく外出しなくてもいいように、食料や飲料水を備蓄している                  | 5 避難路を確保するために、家の中やベランダを整理している             |
| 2 電気やガスなどのライフラインが停止した場合に備えて、懐中電灯やカセットコンロなどを用意している | 6 親類や友人の家など、避難拠点以外の避難できる場所を、建物外に自分で確保している |
| 3 トイレが使用できない場合に備えて、簡易トイレを用意している                   | 7 風呂水を溜めておいてある                            |
| 4 家具類の転倒防止をしている                                   | 8 その他（ ）                                  |
|   | 9 特に対策はしていない                              |

⇒ 問32-4 お住まいの建物では、地震時のエレベーターの安全確保のため、あるいは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、どのような対策が行われていますか。（○はいくつでも）

- |  |   |
|--|---|
| 1 地震時に、エレベーターが自動的に最寄りの階に停止するようになっている                             | 5 自治会・管理組合、防災会などにより、年1回以上、防災訓練が行われている       |
| 2 閉じ込められた場合に備え、エレベーター内に非常用物資が備蓄されている                             | 6 建物全体としての避難計画やマニュアルが定められている                |
| 3 自治会・管理組合、防災会などにより、建物の高層階などに備蓄倉庫を設け、食料や飲料水が備蓄されている              | 7 建物に居住している災害時要援護者（自力では避難できない人）の支援方法が決まっている |
| 4 自治会・管理組合、防災会などにより、担架や階段用避難器具、AED（自動体外式除細動器）などの救出・救護資器材が備蓄されている | 8 その他（ ）                                    |
|  | 9 特に対策はされていない                               |
|  | 10 わからない                                    |

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問32-5 あなたは、個人や家庭、またはお住まいの建物で、地震時のエレベーターの安全確保のため、あるいは、地震でしばらくエレベーターが利用できない場合など、地震に備えて、今後、どのような対策が必要だと思いますか。既に実施している対策も含めて結構です。(〇はいくつでも)

- |  |   |
|--|---|
| 1 地震時に、エレベーターが自動的に最寄りの階に停止する                                     | 8 家具類の転倒防止をする                               |
| 2 建物の管理人や自治会・管理組合、防災会の役員等が、停止したエレベーターの安全を確認し、運転再開できるようにする        | 9 避難路を確保するために、家の中やベランダを整理する                 |
| 3 閉じ込められた場合に備え、エレベーター内に非常用物資を備蓄する                                | 10 親類や友人の家など、避難拠点以外の避難できる場所を、建物外に自分で確保する    |
| 4 自治会・管理組合、防災会などにより、建物の高層階などに備蓄倉庫を設け、食料や飲料水を備蓄する                 | 11 自治会・管理組合、防災会などにより、定期的に、防災訓練を行う           |
| 5 個人や家庭で、食料や飲料水、日用品などを備蓄する                                       | 12 建物全体としての避難計画やマニュアルが定められている               |
| 6 自治会・管理組合、防災会などにより、担架や救急箱などの救出・救護資器材を備蓄する                       | 13 建物に居住している災害時要援護者（自力では避難できない人）の支援方法を決めておく |
| 7 自治会・管理組合、防災会などにより、担架や階段用避難器具、AED（自動体外式除細動器）などの救出・救護資器材が備蓄されている | 14 その他（ ）                                   |
|  | 15 特に対策は必要ない                                |
|  | 16 わからない                                    |

《問32-1で「1 ある」と答えた方にお伺いします。》

問32-6 お住まいの建物で、もしエレベーターが使えなくなったとしたら、避難しますか。  
(〇は1つ)

- |        |         |                  |
|--------|---------|------------------|
| 1 避難する | 2 避難しない | 3 その時にならないとわからない |
|--------|---------|------------------|

## 9 区の施策について

《すべての方にお伺いします。》

問33 あなたは、地震や集中豪雨などの災害が発生した場合や発生危険性がある場合、区からの防災情報をどのような方法で入手したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- |                       |                                    |
|-----------------------|------------------------------------|
| 1 防災行政無線（無線放送塔）       | 7 テレビ                              |
| 2 広報車で呼びかけ            | 8 ラジオ                              |
| 3 練馬区のホームページ（パソコン）    | 9 フェイスブック、ツイッター等のソーシャルネットワーキングサービス |
| 4 練馬区のホームページ（携帯電話）    | 10 その他（ ）                          |
| 5 練馬区のメール配信サービス（パソコン） | 11 区の情報を入手したいとは思わない                |
| 6 練馬区のメール配信サービス（携帯電話） | 12 わからない                           |

問34 練馬区では、震災時における避難拠点や医療救護所、防災井戸などを記した「防災地図」を作成しています。「防災地図」は、区が各戸配布している「わたしの便利帳」にはさみこまれているほか、区防災課窓口でも受け取ることができます。あなたは、この「防災地図」をご存知ですか。(○は1つ)

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 1 知っており、避難拠点等を確認している    | 3 知らない |
| 2 知っているが、避難拠点等の確認はしていない |        |

問35 練馬区では、浸水が予想される区域とその浸水の深さ、各地域の避難所を示した「浸水ハザードマップ」を作成しており、区防災課窓口、各区民事務所（練馬を除く）、各出張所で受け取ることができます。あなたは、この「浸水ハザードマップ」をご存知ですか。(○は1つ)

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 1 知っており、浸水区域等を確認している    | 3 知らない |
| 2 知っているが、浸水区域等の確認はしていない |        |

問36 練馬区では、防災情報、気象情報等の情報をメールでお知らせする「練馬区防災気象情報配信メール」を実施しています。あなたは、この「練馬区防災気象情報配信メール」をご存知ですか。(○は1つ)

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 1 知っており、登録をしている   | 3 知らない |
| 2 知っているが、登録はしていない |        |

問37 災害が起きたときに安全を守るためには、地域の皆様の力が必要です。そのため、日ごろから地域の防災に関する意識を高めたり、防災活動を活発にしたりすることが大切です。その際に、区がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(○は3つまで)

- |                            |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1 地震や災害についての情報をわかりやすく提供する  | 5 地震から身を守る方法（家具転倒防止の方法など）を学べるようにする |
| 2 起震車のように地震のゆれを体験する機会を増やす  | 6 気軽に参加できるような防災訓練を増やす              |
| 3 消火器の使い方や火の怖さを実際に学べるようにする | 7 子どもへの防災教育の機会を増やす                 |
| 4 けがをした人の簡単な手当の仕方を学べるようにする | 8 防災に関して学ぶ機会を設ける                   |
|                            | 9 地域で防災を考える機会を設ける                  |
|                            | 10 その他（ ）                          |
|                            | 11 特にない                            |

問38 今後、区に力を入れて取り組んでほしいと思う防災対策は何ですか。特に優先してほしいものをお選びください。(○は3つまで)

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1 避難拠点（避難所）の整備をすすめる              | 7 自宅や会社などを災害に強い建物にすることに補助を行う               |
| 2 水や食料などを被災者に行き渡るように十分に備蓄をする     | 8 警察や消防など防災関係機関との協力をすすめる                   |
| 3 災害時に区民に必要な情報を伝えるための情報連絡体制を整備する | 9 防災に関する知識や情報を今以上に伝える                      |
| 4 高齢者や障がい者など手助けを必要とする人への対策を強化する  | 10 地域の防災会や避難拠点運営連絡会、町会・自治会などの防災活動への支援を強化する |
| 5 防災活動に必要な公共施設の耐震化・不燃化を促進する      | 11 その他（ ）                                  |
| 6 災害が起こったときも医療機関が活動を継続できるようにする   | 12 特にない                                    |

## 10 あなたのことについて

ご意見をお伺いすることは以上で終わりですが、統計解析に必要な事項を少しお聞かせください。

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

1 20～29歳	3 40～49歳	5 60～69歳
2 30～39歳	4 50～59歳	6 70歳以上

F 3 現在のお宅の家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 ひとり暮らし	3 二世世代世帯(親と子)	5 その他( )
2 一世世代世帯(夫婦のみ)	4 三世世代世帯(親と子どもと孫)	

➤ F 3-1 あなたを含めて、同居のご家族に次の方はいますか。(○はいくつでも)

1 妊婦	5 身体障がい者
2 未就学児(乳幼児を含む)	6 自宅療養中の方
3 75歳以上の高齢者	7 いない
4 視覚・聴覚障がい者	

F 4 あなたのお住まいを教えてください。(地番は不要です。○丁目までで結構です。)

(町・字)

練馬区

丁目

F 5 最後に、行政に対する要望や防災に対するご意見等がありましたら、ご記入ください。

-----
-----
-----
-----

質問は以上で終了です。ご回答いただき、大変ありがとうございました。

ご協力に厚くお礼申し上げます。

ご回答いただきましたアンケート票は、返信用封筒にて2月5日(日)までにご投函ください。



---

練馬区民の地震防災に関する意識調査

報 告 書

平成24年（2012年）3月

発行 練馬区 危機管理室 震災対策担当課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1

TEL 03-3993-1111（代）

調査協力 応用地質株式会社

---